秋田県文化財調査報告書第348集

# 向　様　田　F　遺　跡

― 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ｘ ―

２００３・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂(しろざか)遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年発見、高さ７㎝、凝灰岩。

# 向様田（むかいさまだ）Ｆ遺跡

― 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ｘ ―

２００３・３

秋田県教育委員会

# 序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、これまで大きな洪水や渇水の被害に見舞われてきた米代川や阿仁川の流域では、そうした自然災害の脅威や不安を解消するためのダム建設が長く望まれ、洪水被害の軽減、灌漑用水・水道用水の供給、水辺環境の保全などを目的とする森吉山ダムの建設事業が行われております。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、森吉山ダム建設に先立って、平成13年度に森吉町において実施した向様田Ｆ遺跡の発掘調査成果についてまとめたものであります。調査では縄文時代晩期ころの竪穴住居跡などが発見され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所、森吉町、森吉町教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成15年３月

秋田県教育委員会

教育長　小 野 寺　清

# 例　　言

1．本書は、森吉山ダム建設事業に係る、秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田に所在する向様田Ｆ遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、平成13年８月から10月にかけて実施した。

3．向様田Ｆ遺跡の調査結果については、平成13年度刊行の『向様田Ｆ遺跡発掘調査資料』、同『秋田県埋蔵文化財センター年報』において、整理作業途上の所見を元にその概要を報告している。整理作業の進捗とその後の検討の結果、一部の遺構の時期比定等については変更しており、上記資料と本報告とで相違ある部分は、本報告をもって訂正したものとする。

4．本書の執筆は、第１章から第３章を三浦俊成、第４章・第５章を榮　一郎がそれぞれ分担した。

5．土層断面図等の土色の表記は、農林水産省農林水産技術会議監修　財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』に拠った。

6．本書第１図は、国土地理院発行1/50000地形図「米内沢」・「大葛」を複製して作成した。また、第２図・第３図は森吉山ダム工事事務所提供の1/1000平面図をもとに作成した。

7．遺跡空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

8．自然科学的分析は以下の機関に委託した。なお、本書では本文中に分析結果を引用するにとどめた。

樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社

$^{14}$Ｃ年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社

9．発掘調査および整理作業において県内の教育委員会をはじめとした諸機関のほか、以下の方々および機関から御指導・御助言を賜った。記して感謝申し上げる。（順不同、敬称略）

阿部明彦　五十嵐俊雄　小林圭一　高野芳宏　手塚　均　森谷昌央　財団法人山形県埋蔵文化財センター　東北歴史博物館

# 凡　　例

1．本書に掲載した平面図の方位は日本測地系平面直角座標第Ｘ系座標北である。
　本文および巻末の報告書抄録記載の経緯度は世界測地系に基づく。

2．各遺構に付している略記号は以下の通りである。
　SD　：溝跡
　ＳＩ　：竪穴住居跡
　SK　：土坑
　SKP：柱穴（小穴）

3．遺構内の遺物出土状況は、実測図を掲載する以外に、場合により土器は●、石器・石製品は■で表記した。

4．挿図中のスクリーン・トーンの凡例は、以下の通りである。

**遺構**

焼土

**遺物**

磨面

浅い敲打痕

盲孔状敲打痕

5．遺構図中等において、遺物実測図中の遺物を指示する場合、例えば第１図１の遺物では、１－１のように略記する。

6．遺物の説明における上下左右等は実測図のそれに対応する。石器類では、左側平面を表面、右側平面を裏面とする。

7．本文掲載の出土炭化材の$^{14}$Ｃ年代測定値は、$^{14}$Ｃの半減期を5,568年とした計算値を、試料の$^{13}$Ｃ濃度測定値と標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）測定値とのずれに基づいて補正したものである。

# 目　　次

序
例言……ii
凡例……iii
目次……iv
挿図目次……iv
表目次……v
図版目次……vi

第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査要項……2
第２章　遺跡の環境……4
　第１節　遺跡の位置と立地……4
　第２節　遺跡の歴史的環境……4
第３章　発掘調査の概要……11
　第１節　遺跡の概観……11
　第２節　調査の方法……11
　　1　野外調査……11
　　2　室内整理……13
　第３節　調査の経過……13
第４章　調査の記録……14
　第１節　層序……14
　第２節　検出遺構と出土遺物……14
　　1　概要……14
　　2　竪穴住居跡……17
　　3　土坑……18
　　4　溝跡……21
　　5　柱穴（小穴）……22
　第３節　遺構外出土遺物……22
第５章　まとめ……59
報告書抄録……65

挿図目次

第１図　向様田Ｆ遺跡の位置と周辺の遺跡……5
第２図　向様田遺跡群の範囲……12

第３図　土層柱状図……15
第４図　向様田Ｆ遺跡遺構配置図……16
第５図　ＳＩ01竪穴住居跡……23
第６図　ＳＩ02竪穴住居跡（１）……24
第７図　ＳＩ02竪穴住居跡（２）……25
第８図　ＳＫ03・ＳＫ05土坑……26
第９図　ＳＫ16・ＳＫ18土坑（１）……27
第10図　ＳＫ18土坑（２）……28
第11図　ＳＫ72・ＳＫ75土坑……29
第12図　ＳＤ30・ＳＤ40溝跡……30
第13図　柱穴配置図（１）……31
第14図　柱穴配置図（２）……32
第15図　柱穴配置図（３）……33
第16図　柱穴配置図（４）……34
第17図　柱穴配置図（５）……35
第18図　柱穴配置図（６）……36
第19図　柱穴配置図（７）……37
第20図　遺構内出土土器類（１）（ＳＩ01・ＳＩ02①）……38
第21図　遺構内出土土器類（２）（ＳＩ02②）……39
第22図　遺構内出土土器類（３）（ＳＫ03・ＳＫ05・ＳＫ16・ＳＫ18①）……40
第23図　遺構内出土土器類（４）（ＳＫ18②・ＳＫ72・ＳＫ75、ＳＫＰ76）……41
第24図　遺構内出土石器類（１）（ＳＩ01）……42
第25図　遺構内出土石器類（２）（ＳＩ02①）……43
第26図　遺構内出土石器類（３）（ＳＩ02②）……44
第27図　遺構内出土石器類（４）（ＳＩ02③）……45
第28図　遺構内出土石器類（５）（ＳＩ02④、ＳＫ18①）……46
第29図　遺構内出土石器類（６）（ＳＫ18②）……47
第30図　遺構内出土石器類（７）（ＳＫ18③・ＳＫ72）……48
第31図　遺構内出土石器類（８）（ＳＫ75）……49
第32図　遺構外出土土器類……50
第33図　遺構外出土石器類（１）……51
第34図　遺構外出土石器類（２）……52
第35図　遺構外出土石器類（３）……53

表目次

第１表　周辺遺跡一覧（１）……6
第２表　周辺遺跡一覧（２）……7

第３表　柱穴一覧……54
第４表　遺構内出土土器類観察表（１）……55
第５表　遺構内出土土器類観察表（２）……56
第６表　遺構内出土石器類観察表……57
第７表　遺構外出土土器類観察表……58
第８表　遺構外出土石器類観察表……58

図版目次

図版１　１　向様田遺跡群遠景（東から）
　　２　ＳＩ01竪穴住居跡土層（南東から）
　　３　ＳＩ01竪穴住居跡完掘状況（南東から）
図版２　１　ＳＩ02竪穴住居跡遺物出土状況（北から）
　　２　ＳＩ02竪穴住居跡壺出土状況（南東から）
　　３　ＳＩ02竪穴住居跡完掘状況（北から）
図版３　１　ＳＫ16土坑土層（南から）
　　２　ＳＫ16土坑完掘状況（西から）
　　３　ＳＫ18土坑遺物出土状況（南東から）
　　４　ＳＤ30・ＳＤ40溝跡確認状況（東から）
　　５　ＳＫ72土坑土層（北から）
　　６　ＳＫ72土坑遺物出土状況（北から）
　　７　ＳＫ75土坑土層（北から）
　　８　ＳＫ75土坑完掘状況（北から）
図版４　１　出土遺物

# 第１章　はじめに

## 第１節　調査に至る経過

昭和47年７月５日～９日にわたり米代川流域に降り続いた雨は、総降雨量の多い所は800㎜近くにも達し、特に支川藤琴川及び阿仁川流域に豪雨が集中した。このため、鷹巣町より下流では全川的に計画高水位を突破したほか、二ツ井町及び能代市内の本川堤防が決壊し大被害が発生した。(註１)

昭和48年３月、この大洪水を機に「米代川工事実施基本計画」の計画流量の見直しが行われた。それによると、計画規模を超過率1/100（100年に１回の確率で起こるであろう洪水を計画の対象にすること）とし、基準地点二ツ井での基本高水のピーク流量を9,200㎥/Sとし、上流ダム群で1,000㎥/Sの洪水調節を行い、8,200㎥/Sとするというものだった。この上流ダム群の一つとして阿仁川の右支流、小又川に建設されることになったのが森吉山ダムである。

森吉山ダムは、米代川上流ダム群の一つとして計画された治水・利水を目的とする中央コア型ロックフィルの多目的ダムである。昭和63年、「森吉山ダムの建設に関する基本計画」が公示された。計画の概要によれば、森吉山ダムは、流域の洪水調節のほか、流水の正常な機能維持、灌漑用水・水道用水の供給、水力発電等を目的とする多目的ダムである。(註２)

森吉山ダム建設に伴い、事業対象区域内の住民の移転が進む中、事業主体である建設省東北地方建設局森吉山工事事務所は、文化財保護法に基づき、秋田県教育委員会に対し貯水池流域面積248.0㎢の遺跡分布調査を依頼した。秋田県教育委員会は、遺跡分布調査を平成４年、５年の２箇年にかけて実施し、その結果、桐内遺跡（縄文時代前期・後期）、二重鳥遺跡（縄文時代後期）、漆下遺跡（縄文時代後期）、栩岱（とちたい）遺跡（縄文時代後期・晩期）、砕渕遺跡（縄文時代）、丹瀬口遺跡（縄文時代後期）の新発見の遺跡６箇所が開発区域に係ることを確認した。(註３)その後、確認調査を実施するにしたがい、新しく発見された遺跡が増え、現在貯水予定地周辺地域では60遺跡を数えている。(註４～６)

森吉山ダム関連の工事は、平成元年の下流工事用道路から開始され、平成７年には事業地内の材料運搬路に移った。一方、同年に平成10年奥森吉で第12回日本ジャンボリーが開催されることが決定した。これに伴い、中心会場のノロ川への幹線道路として、森吉山ダムの工事用道路を一部供用することとなった。これを受けて、森吉町教育委員会によって、平成７年に日廻岱Ａ遺跡・砕渕遺跡、平成８年に上悪戸Ｄ遺跡・深渡遺跡・地蔵岱遺跡・森吉家ノ前Ｂ遺跡・天津場Ｃ遺跡のアクセス道路線部の発掘調査が実施され、記録保存が図られている。(註７～９)

森吉山ダム建設事業に係る発掘調査については、確認調査を行った遺跡の中から、記録保存の必要なものについて、工事工程に合わせて発掘調査を実施する合意が森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会の間でなされている。平成８年、本遺跡を含む向様田Ａ～Ｆ遺跡の確認調査を実施した。(註10)秋田県教育委員会では、平成９年から平成12年の４年間で、深渡遺跡(註11)、姫ヶ岱Ｃ・Ｄ遺跡(註12)、桐内Ａ～Ｄ遺跡(註13～15)、桐内沢遺跡(註16)、日廻岱Ａ遺跡(註17)の発掘調査を実施した。また、平成13年には、向様田Ａ～Ｆ遺跡、砕渕遺跡、漆下遺跡の一部を発掘調査し、記録保存を図った。

## 第２節　調査要項

| | |
|---|---|
| 遺　跡　名 | 向様田Ｆ遺跡(略号２ＭＳＤ－Ｆ) |
| 所　在　地 | 秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田57外 |
| 調査期間 | 平成13年８月28日～10月19日 |
| 調査目的 | 森吉山ダム建設事業に係る発掘調査 |
| 調査対象面積 | 2,700㎡ |
| 調査面積 | 2,300㎡ |
| 調査主体者 | 秋田県教育委員会 |
| 調査担当者 | 榮　一郎(秋田県埋蔵文化財センター　学芸主事) |
| | 三浦　俊成(秋田県埋蔵文化財センター　学芸主事) |
| | 松尾　睦子(秋田県埋蔵文化財センター　非常勤職員) |
| | 松岡　忠恭(秋田県埋蔵文化財センター　非常勤職員) |
| 総務担当者 | 佐藤　悟(秋田県埋蔵文化財センター　総務課長) |
| | 嶋田　敏輝(秋田県埋蔵文化財センター　主査) |
| | 高橋　修(秋田県埋蔵文化財センター　主任) |
| | 佐々木敬隆(秋田県埋蔵文化財センター　主事) |
| | 成田　誠(秋田県埋蔵文化財センター　主事) |
| 調査協力機関 | 国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所 |
| | 森吉町 |
| | 森吉町教育委員会 |

註１　建設省東北地方建設局能代工事事務所　『能代工事事務所60年のあゆみ』　1997(平成９)年

註２　川村公一　『子孫に残す歴史の記録　森吉路　過去から未来へ』　モリトピア選書２　建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1993(平成５)年

註３　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第251集　1994(平成６)年

註４　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第259集　1995(平成７)年

註５　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第267集　1996(平成８)年

註６　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997(平成９)年

註７　森吉町教育委員会　『平成７年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』　1996(平成８)年

註８　森吉町教育委員会　『上悪戸Ｄ遺跡発掘調査報告書～比内森吉線地方道改良工事に係る発掘調査～』　1997(平成９)年

註９　森吉町教育委員会　『平成８年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』　1997(平成９)年

註10　註６文献

註11　秋田県教育委員会　『深渡遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ｉ－』　秋田県文化財調査報告書第286集　1999(平成11)年

註12　秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｄ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』　秋田県文化財調査報告書第300集　2000(平成12)年

註13　秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第299集　2000(平成12)年

註14　秋田県教育委員会　『桐内Ｂ遺跡・桐内Ｄ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』　秋田県文化財調査報告書第318集　2001(平成13)年

註15　秋田県教育委員会　『桐内Ａ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－』　秋田県文化財調査報告書第334集　2002(平成14)年

註16　秋田県教育委員会　『桐内沢遺跡・日廻岱Ａ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ－』　秋田県文化財調査報告書第335集　2002(平成14)年

註17　註16文献

# 第２章　遺跡の環境

## 第１節　遺跡の位置と立地

向様田Ｆ遺跡(北緯40°02′27″、東経140°28′42″)は、森吉山の北麓を西流する小又川の右岸段丘上に位置する。森吉町北部の米内沢地区にある森吉町役場より南東約11.8㎞、秋田内陸縦貫鉄道阿仁前田駅から南東約5.5㎞の距離にある。向様田地区には向様田Ｆ遺跡の他に、向様田Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ遺跡の５遺跡が隣接しており、向様田Ａ遺跡は平成12年と平成13年に、その他の５遺跡は平成13年に発掘調査が実施された。

遺跡の所在する森吉町は秋田県の内陸北部に位置し、町西部を北流する阿仁川と鹿角市境から流れ出て阿仁川に合流する小又川の流域からなる。東は鹿角市・仙北郡田沢湖町、北は北秋田郡比内町・鷹巣町・合川町、西は北秋田郡上小阿仁村と接する。南の北秋田郡阿仁町との境に、町名の由来となった標高1,454mの森吉山があり、その東側一帯は森吉山県立自然公園となっている。森吉山の北側には、谷底平野である小又川低地を挟んで、北北東に小繋森(標高1,010m)、北に高烏帽子(標高764m)、北西に源五郎岳(標高559m)などが東西に連なっており、森吉山頂上からの距離は、いずれも約10～11㎞である。これらの山地は分水嶺をなし、行政区分上も鷹巣町や比内町との境界をなしている。

本遺跡近くを流れる小又川は、北秋田郡・仙北郡・鹿角市の境界をなす三ツ又森(標高1,119m)・柴倉岳(標高1,178m)に源を発し、六郎沢・粒様沢・ノロ川・連瀬沢などの支川を合わせ、森吉山北麓を蛇行しながら西流し、阿仁前田地内で阿仁川と合流する。

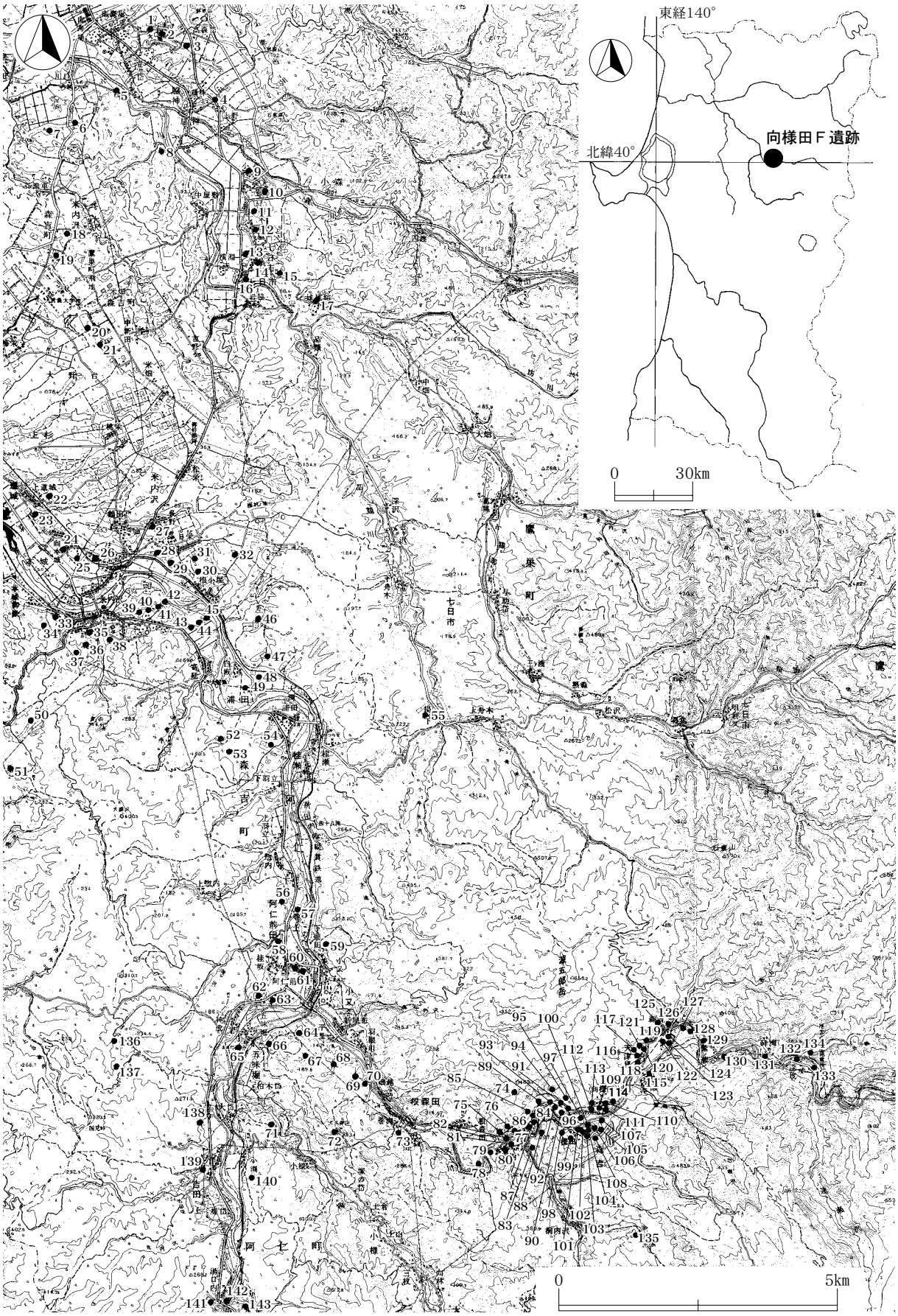
小又川沿いには集落や耕作地が分布する段丘面が認められ、中流部では洪積段丘を含めて六段の段丘面が確認される。(註１)平坦地は、広いところで南北約500m、狭いところで約20m、南北両側より山が迫ってきており、おおむね小又川右岸側にあたる北側山地の山腹斜面の方が勾配が急である。山麓の平地縁辺部は、集村形態をとる集落の居住地として利用され、平坦部の多くは畑地や水田として利用されていた。

この地域に分布する地質は、いわゆる東北地方日本海側グリーンタフ地域に属し、新第三紀中新世の地層を主としている。先第三紀の古期堆積岩(粘板岩、ホルンフェルス)が小繋森の山頂付近に顔を出しているが、本地域の基盤岩は新第三紀中新世初期～中期の火山岩類、火山砕屑岩類及び堆積岩類からなる。これらを貫く粗粒玄武岩の貫入石がダイク及びシート状に複雑に分布している。また、第四紀層の森吉山及び柴倉岳の火山活動に伴う泥流堆積物、段丘堆積物、扇状地堆積物、河床堆積物、現河床堆積物が小又川に沿う平坦地を中心に被覆している。

当地区の地質を概観すると、小又川を境に右岸側は火山性砕屑岩類が分布し、左岸側には粗粒玄武岩が急崖を形成し、第四紀の火山泥流堆積物が広く被覆している。(註２)

## 第２節　遺跡の歴史的環境

『秋田県遺跡地図(県北版)』(1991年発行)によると、森吉町には58箇所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)




**第１図　向様田Ｆ遺跡の位置と周辺の遺跡**

## 第１表　周辺遺跡一覧（１）

| 地図番号 | 遺　跡　名 | 遺　跡　所　在　地 | 主な時代 | 遺　構　・　遺　物 | 文　献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石の巻岱Ⅰ | 鷹巣町脇神字石の巻岱60 | 縄文 | 縄文土器片（晩期） | 1 |
| 2 | 石の巻岱Ⅱ | 鷹巣町脇神字石の巻岱65 | 縄文 | 縄文土器（後期）、香炉形土器 | 1 |
| 3 | 高森岱 | 鷹巣町脇神字高森岱16 | 縄文 | 縄文土器片（前期・中期）、遮光器土偶 | 1･2 |
| 4 | 藤株 | 鷹巣町脇神字藤株塚ノ岱43-4 | 縄文 | 縄文土器（前期・後期～晩期）、竪穴住居跡、Ｔピット、土製品、石器、石製品 | 1･3 |
| 5 | 法泉坊沢Ⅱ | 鷹巣町脇神字法泉坊沢49外 | 縄文・古代 | 縄文土器片、フラスコ状土坑、土坑（縄文・古代）、竪穴住居跡（古代）、竪穴状遺構、鍛冶炉、布掘り溝、柱列（板塀）、石器、土師器、須恵器、鉄製品、鉄滓、羽口 | 4 |
| 6 | からむし岱Ⅰ | 鷹巣町脇神字からむし岱21 | 縄文・古代 | 縄文土器片（後期・晩期）、土坑（縄文・古代）、陥し穴、焼土遺構、竪穴住居跡（古代）、掘立柱建物跡（古代・近世）、溝跡、火葬墓（中世）、土師器、須恵器、陶磁器、石器、石製品 | 1･5･6 |
| 7 | からむし岱Ⅱ | 鷹巣町脇神字からむし岱93 | 縄文 | 続縄文土器片、壺形土器 | 1 |
| 8 | 脇神館跡 | 鷹巣町脇神字タタラノ沢31外 | 旧石器・縄文・古代・中世・近世・近代 | 旧石器、縄文土器片（前期・後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、溝跡、空堀、土塁、塚、炭窯跡、鉄製品、鉄滓、石器、土師器、須恵器、羽口 | 7 |
| 9 | タモノ木 | 鷹巣町小森字タモノ木17 | 縄文 | 縄文土器片（中期） | 1 |
| 10 | 小森 | 鷹巣町小森字小森88-1 | 縄文 | 縄文土器片（晩期） | 1 |
| 11 | 根木屋敷岱Ⅰ | 鷹巣町七日市字根木屋敷岱20 | 古代 | 土師器 | 1 |
| 12 | 根木屋敷岱Ⅱ | 鷹巣町七日市字根木屋敷岱61 | 縄文 | 縄文土器片（後期・晩期） | 1 |
| 13 | 山の上 | 鷹巣町七日市字山の上57 | 縄文 | 縄文土器片（中期） | 1 |
| 14 | 石倉岱 | 鷹巣町七日市字石倉岱3-1 | 縄文 | 縄文土器片（中期） | 1 |
| 15 | 伊勢堂岱 | 鷹巣町七日市字伊勢堂岱8-4 | 縄文 | 縄文土器片（前期・中期・後期） | 1･8 |
| 16 | 囲の内 | 鷹巣町七日市字囲の内80 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、環状列石 | 1 |
| 17 | 野尻 | 鷹巣町七日市字野尻8-2 | 縄文 | 縄文土器片（後期） | 1･8 |
| 18 | 大沢岱Ａ | 森吉町米内沢字大沢岱148-8 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1･9 |
| 19 | 大沢岱Ｂ | 森吉町米内沢字大沢岱202-30 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1･9 |
| 20 | 赤坂Ⅱ | 合川町上杉字赤坂217外 | 縄文 | 縄文土器（前期） | 1 |
| 21 | 赤坂Ⅰ | 合川町上杉字赤坂206外 | 縄文 | 縄文土器（前期･後期） | 1 |
| 22 | 大野 | 合川町上道城字大野１ | 縄文 | 縄文土器片（中期） | 1 |
| 23 | 小堤岱 | 合川町道城字小堤岱51-2 | 縄文・古代 | 縄文土器片（後期）、須恵器片 | 1 |
| 24 | 向本城 | 森吉町米内沢字本城向屋敷3 | 縄文 | 縄文土器片、石匙 | 1 |
| 25 | 桐木岱Ａ | 森吉町米内沢字桐木岱41～65 | 縄文 | 縄文土器片（晩期）、石器 | 1 |
| 26 | 桐木岱Ｂ | 森吉町米内沢字桐木岱20～23 | 縄文 | 縄文土器片、土偶 | 1 |
| 27 | 長野Ⅱ | 森吉町米内沢字長野91-3外 | 古代 | 竪穴住居跡、土坑、井戸跡、土師器、鉄製品 | 10 |
| 28 | 長野岱Ⅲ | 森吉町米内沢字長野岱149-2外 | 縄文・古代 | 縄文土器（中～晩期）、フラスコ状土坑、竪穴住居跡（古代）、鍛冶炉、土坑（古代）、焼土遺構、炭窯、柱穴様ピット、石器、土師器、鉄製品、鉄滓、鉄塊 | 11 |
| 29 | 長野岱Ⅱ | 森吉町米内沢字長野岱346-1 | 縄文 | 縄文土器片（中期） | 1 |
| 30 | 長野岱Ⅰ | 森吉町米内沢字長野岱56-1 | 縄文・弥生・古代 | 縄文土器片（前期・中期）、竪穴住居跡、円形ピット、組石群、土坑、磨製石斧、土師器杯、陥し穴、石器 | 1･8･12 |
| 31 | 根小屋館 | 森吉町米内沢字長野岱56-1 | 中世 | 空堀 | 1･13･14 |
| 32 | 根小屋岱 | 森吉町米内沢字根小屋1-34 | 縄文・古代 | 縄文土器片（前期、中期、後期）、土師器片、石器 | 1 |
| 33 | 御嶽 | 森吉町米内沢字御嶽62-1 | 古代 | 土師器片 | 1 |
| 34 | 御嶽館 | 森吉町米内沢字高御嶽2 | 中世 | 空堀、土塁 | 1･14 |
| 35 | 寺ノ上Ⅰ | 森吉町米内沢字寺ノ上12-28 | 縄文 | 縄文土器片（晩期）、石鏃、石匙 | 1 |
| 36 | 寺ノ上Ⅱ | 森吉町米内沢字寺ノ上27-1 | 古代 | 土師器片 | 1 |
| 37 | 米内沢城 | 森吉町米内沢字倉ノ沢出口99-5、寺ノ上77-1 | 中世 | 空堀、土塁、井戸跡 | 1･14 |
| 38 | 伊勢の森 | 森吉町米内沢字伊勢ノ森52-57 | 古代 | 土師器片 | 1 |
| 39 | 諏訪岱 | 森吉町米内沢字諏訪岱1-1外 | 縄文・古代 | 竪穴住居跡、縄文土器片、土師器、須恵器、鉄製品 | 15･16 |
| 40 | 諏訪岱Ⅱ | 森吉町米内沢字諏訪岱111外 | 縄文・古代 | 縄文土器（中～晩期）、土器埋設遺構、陥し穴、竪穴住居跡（古代）、土坑（古代）、焼土遺構（古代）、柱穴様ピット（古代）、石器、土師器、銭貨（古代～中世） | 11･16 |
| 41 | 冷水岱 | 森吉町米内沢字冷水岱77-1 | 縄文・古代 | 縄文土器片（前期、中期、後期）、竪穴住居跡、土師器、石器、磨製石斧、土製品、石匙、石槍、石錐、石鏃、石錘、凹石、石皿、石製品 | 1･16 |
| 42 | 狐岱 | 森吉町米内沢字狐岱88 | 縄文・古代 | 縄文土器片（前期・中期・晩期）、竪穴住居跡（縄文・古代）土坑、配石墓、配石遺構、土師器、石鏃、石匙、石錘、磨製石斧他 | 1･8･17･18･19 |
| 43 | 山崎 | 森吉町米内沢字山崎57-1 | 縄文 | 縄文土器片、土坑、配石遺構 | 1･8･17･18･19 |
| 44 | 吉野Ⅰ | 森吉町米内沢字吉野13-1 | 縄文・弥生 | 縄文土器片、弥生土器片、土坑 | 1･8･17･18･19 |
| 45 | 吉野Ⅱ | 森吉町米内沢字吉野5-1 | 古代 | 土師器片 | 1･8･17･18･19 |
| 46 | 浦田うるし沢 | 森吉町浦田字うるし沢50-1 | 縄文 | 縄文土器片、石器 | 1 |
| 47 | 比内道下山根 | 森吉町浦田字白坂山根92 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1 |
| 48 | 塚の岱 | 森吉町浦田字塚の岱80 | 縄文 | 縄文土器（晩期）、注口土器、鉢形土器、壺形土器、土偶、岩偶他 | 1･20 |
| 49 | 白坂 | 森吉町浦田字白坂上岱19-22 | 縄文 | 縄文土器（後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、土器埋設遺構、掘立柱建物跡、柱穴列、溝跡、足跡、捨て場、岩偶、石器、土製品、遮光器土偶、注口土器、双口注口土器 | 1･8･21･22 |
| 50 | 長下Ａ | 森吉町米内沢字長下2-7 | 縄文 | 縄文土器片（後期） | 1 |
| 51 | 長下Ｂ | 森吉町米内沢字長下148 | 縄文 | 縄文土器片（後期） | 1 |
| 52 | 愛宕堂 | 森吉町浦田字稲荷沢40 | 縄文 | 縄文土器片（中期）、石器小片 | 1 |
| 53 | 浦田館 | 森吉町浦田字愛宕堂下44 | 中世 | 館跡 | 1･14 |
| 54 | 石倉坂 | 森吉町浦田字石倉坂3 | 縄文 | 縄文土器片（前期・中期）、石器 | 1 |
| 55 | 若木岱 | 鷹巣町七日市字若木岱9-2 | 縄文 | 縄文土器片、石器 | 1 |
| 56 | 焼山 | 森吉町阿仁前田字道行沢136-1 | 縄文 | 縄文土器片 | 1 |
| 57 | 下野上野岱 | 森吉町阿仁前田字下野上野岱345 | 縄文 | 縄文土器片 | 1 |
| 58 | 高館 | 森吉町阿仁前田字道行沢118 | 中世 | 空堀 | 1･14 |
| 59 | 下前田下山根 | 森吉町阿仁前田字下前田下山根36 | 縄文 | 縄文土器片、石器 | 1 |
| 60 | 前田館 | 森吉町阿仁前田字八幡森1-1 | 中世 | 館跡 | 1･13･14 |
| 61 | 八幡森 | 森吉町阿仁前田字八幡森1-1 | 縄文 | 縄文土器片（前期・中期）、石器 | 1 |
| 62 | 陣場岱Ⅱ | 森吉町阿仁前田字陣場岱15、字菅ノ沢7 | 縄文 | 縄文土器片 | 1 |
| 63 | 陣場岱Ⅰ | 森吉町阿仁前田字陣場岱140-1 | 縄文 | 縄文土器片（前期・中期）、石鏃、石匙、石槍 | 1 |
| 64 | 五味堀高屋布 | 森吉町五味堀字下タ大久保岱174 | 縄文 | 縄文土器片 | 1 |
| 65 | 五味堀 | 森吉町五味堀字五味堀1 | 縄文 | 縄文土器片、石器 | 1 |
| 66 | ボサツ堂 | 森吉町五味堀字堂ノ前45-46 | 縄文 | 縄文土器片（晩期） | 1･8 |
| 67 | 五味堀大久保岱 | 森吉町五味堀字大久保岱20 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、独鈷石 | 1 |
| 68 | 小又小平里Ａ | 森吉町小又字涌坪74 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1 |
| 69 | 小又小平里Ｂ | 森吉町小又字上岱9 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1 |
| 70 | 片平館 | 森吉町根森田字片平館3 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1 |
| 71 | 花館 | 森吉町五味堀字野崎1-82 | 中世 | 空堀 | 1･14 |
| 72 | 天館 | 森吉町五味堀字天館101 | 中世 | 館跡 | 1･14 |
| 73 | 桂の沢 | 森吉町根森田字桂ノ沢13 | 縄文 | 縄文土器（早期～晩期）、竪穴住居跡、土坑、配石遺構、焼土遺構、土器埋設遺構、捨て場、土製品、石器 | 1･23･24 |

## 第２表　周辺遺跡一覧（２）

| 地図番号 | 遺 跡 名 | 遺 跡 所 在 地 | 主な時代 | 遺 構 ・ 遺 物 | 文 献 |
|---|---|---|---|---|---|
| 74 | 仲ノ又館 | 森吉町根森田字仲ノ又75 | 中世 | 空堀 | 1･14 |
| 75 | 上悪戸Ａ | 森吉町根森田字上悪戸4-1外 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、土坑、石器 | 25 |
| 76 | 上悪戸Ｂ | 森吉町根森田字上悪戸8-12 | 弥生 | 弥生土器片、土坑、石器 | 25 |
| 77 | 上悪戸Ｃ | 森吉町根森田字上悪戸7外 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、土坑、溝跡、柱穴様ピット、石器 | 25 |
| 78 | 上悪戸Ｄ | 森吉町根森田字上悪戸34-33外 | 縄文 | 縄文土器片（後期・晩期）、竪穴住居跡、竪穴状遺構、土坑、石囲炉、柱穴様ピット、石器、土製品 | 25･26 |
| 79 | 桐内Ａ | 森吉町森吉字桐内前田5-1外 | 縄文・弥生・近世 | 縄文土器（早期・中期・後期・晩期）、竪穴住居跡、土器埋設遺構、フラスコ状土坑、土坑、溝跡、配石遺構、窯跡、柱穴様ピット、土製品、石器、石製品、弥生土器、陶磁器 | 25･27 |
| 80 | 桐内Ｂ | 森吉町森吉字桐内家ノ下16外 | 縄文 | 縄文土器片（前期～晩期）、土器埋設遺構、石器 | 25･28 |
| 81 | 桐内Ｃ | 森吉町森吉字桐内家ノ上ミ岱11外 | 縄文 | 縄文土器（前期・中期・後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、土器埋設遺構、石囲炉、焼土遺構、柱穴様ピット、土製品、石器、石製品、トランシェ様石器 | 29･30 |
| 82 | 桐内Ｄ | 森吉町森吉字桐内家ノ上川反19外 | 縄文 | 縄文土器片（早期～晩期）、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土器埋設焼土遺構、土坑、溝跡、柱穴様ピット、土製品、石器 | 28･29 |
| 83 | 桐内沢 | 森吉町森吉字桐内沢字関下夕103 | 縄文 | 縄文土器（前期・中期・後期）、竪穴住居跡、土器埋設遺構、フラスコ状土坑、竪穴状遺構、捨て場、石器 | 29･31 |
| 84 | 姫ヶ岱Ａ | 森吉町根森田字姫ヶ岱8外 | 縄文 | 縄文土器片（前期）、土坑、配石遺構、石器 | 25 |
| 85 | 姫ヶ岱Ｂ | 森吉町根森田字姫ヶ岱14-10外 | 縄文 | 縄文土器、土坑、柱穴様ピット、石器 | 25 |
| 86 | 姫ヶ岱Ｃ | 森吉町根森田字姫ヶ岱12-2外 | 縄文 | 縄文土器（中期・後期・晩期）、土坑、石囲炉、焼土遺構、石器 | 25･32 |
| 87 | 姫ヶ岱Ｄ | 森吉町根森田字姫ヶ岱12-31外 | 縄文 | 縄文土器片（早期～晩期）、竪穴住居跡、土坑、配石遺構、土器埋設遺構、焼土遺構、柱穴様ピット、石器 | 25･33 |
| 88 | 日廻岱Ａ | 森吉町森吉字日廻岱65外 | 縄文・近世 | 縄文土器（前期・中期・後期・晩期）、焼土遺構、土坑、掘立柱建物跡（近世）、溝跡、柱穴様ピット、石器、土製品、石製品、陶磁器、銭貨、砥石 | 31･34･35 |
| 89 | 日廻岱Ｂ | 森吉町森吉字日廻岱86外 | 縄文 | 縄文土器片（前期・後期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 90 | 橋場岱Ａ | 森吉町森吉字橋場岱48外 | 縄文 | 縄文土器片（中期・後期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 25 |
| 91 | 橋場岱Ｂ | 森吉町森吉字橋場岱69外 | 縄文 | 縄文土器片（後期・晩期）、土坑、溝跡、石器 | 25 |
| 92 | 橋場岱Ｃ | 森吉町森吉字橋場岱42外 | 縄文 | 縄文土器片（後期・晩期）、配石遺構、土坑、石器 | 25 |
| 93 | 橋場岱Ｄ | 森吉町森吉字橋場岱110-1 | 縄文 | 縄文土器片（晩期）、竪穴住居跡、土坑、溝跡、配石遺構、石器 | 25 |
| 94 | 橋場岱Ｅ | 森吉町森吉字橋場岱109 | 縄文 | 縄文土器片、竪穴住居跡、竪穴状遺構、土坑、配石遺構、石器 | 25 |
| 95 | 橋場岱Ｆ | 森吉町森吉字橋場岱101外 | 縄文 | 縄文土器片（晩期）、土坑、石器 | 25 |
| 96 | 橋場岱Ｇ | 森吉町森吉字橋場岱6-1外 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 25 |
| 97 | 上ハ岱Ａ | 森吉町森吉字上ハ岱102外 | 縄文 | 縄文土器片（中期～晩期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 98 | 上ハ岱Ｂ | 森吉町森吉字上ハ岱70外 | 旧石器・縄文 | 旧石器、縄文土器片（後期）、竪穴住居跡、土坑 | 34 |
| 99 | 漆下 | 森吉町森吉字漆下2-1外 | 縄文 | 縄文土器(前期・中期・後期）、捨て場、フラスコ状土坑、土器埋設遺構、土坑、溝跡、土製品、石器、石製品 | 34 |
| 100 | 二重鳥Ａ | 森吉町森吉字二重鳥31-1外 | 旧石器・縄文 | 旧石器、縄文土器片（前期・後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 101 | 二重鳥Ｂ | 森吉町森吉字二重鳥11外 | 旧石器・縄文 | 旧石器、縄文土器片（前期～晩期）、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、石器 | 34 |
| 102 | 二重鳥Ｃ | 森吉町森吉字二重鳥93外 | 縄文 | 縄文土器片（前期～後期）、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、石器 | 34 |
| 103 | 二重鳥Ｄ | 森吉町森吉字二重鳥39 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 104 | 二重鳥Ｅ | 森吉町森吉字二重鳥65外 | 縄文 | 縄文土器片（前期・後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 105 | 二重鳥Ｆ | 森吉町森吉字二重鳥124-1外 | 縄文 | 土坑 | 34 |
| 106 | 二重鳥Ｇ | 森吉町森吉字二重鳥80外 | 縄文 | 縄文土器片（中期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 107 | 二重鳥Ｈ | 森吉町森吉字二重鳥6外 | 縄文 | 縄文土器片（晩期）、土坑、石器 | 1･34 |
| 108 | 水上ミ | 森吉町森吉字水上ミ42-1外 | 縄文 | 縄文土器片（中期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、石器 | 34 |
| 109 | 向様田Ａ | 森吉町森吉字向様田家ノ下モ8外 | 縄文 | 縄文土器(晩期）、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、土器埋設遺構、環状配石遺構、柱穴様ピット、捨て場、石器、石製品、土製品 | 25 |
| 110 | 向様田Ｂ | 森吉町森吉字向様田67-1外 | 縄文 | 縄文土器（晩期）、石器、土坑、配石遺構 | 25 |
| 111 | 向様田Ｃ | 森吉町森吉字向様田76外 | 縄文 | 縄文土器（後期・晩期）、石器、土坑、配石遺構 | 25 |
| 112 | 向様田Ｄ | 森吉町森吉字向様田家ノ下モ14-1外 | 縄文 | 縄文土器（中期・後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、盛土 | 25 |
| 113 | 向様田Ｅ | 森吉町森吉字向様田家ノ下モ36外 | 縄文・古代 | 縄文土器（後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑、石器、掘立柱建物跡、土師器、須恵器 | 25 |
| **114** | **向様田Ｆ** | 森吉町森吉字向様田57外 | 縄文 | 縄文土器（後期・晩期）、竪穴住居跡、土坑 | 25･本書 |
| 115 | 惣瀬 | 森吉町森吉字惣瀬86外 | 縄文・古代 | 縄文土器片（後期）、竪穴住居跡（古代）、土坑、石器 | 36 |
| 116 | 天津場Ａ | 森吉町森吉字天津場15-3 | 縄文・古代 | 縄文土器片（後期）、竪穴住居跡、土坑、石器、須恵器 | 34 |
| 117 | 天津場Ｂ | 森吉町森吉字天津場16-1 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、竪穴住居跡、石囲炉、土坑、石器 | 34 |
| 118 | 天津場Ｃ | 森吉町森吉字天津場87-1外 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、土坑、石器 | 34･37 |
| 119 | ネネム沢Ａ | 森吉町森吉字ネネム沢26外 | 旧石器・縄文・古代 | 旧石器、縄文土器片（後期）、土器（古代）、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構 | 34 |
| 120 | ネネム沢Ｂ | 森吉町森吉字ネネム沢17外 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、焼土遺構、石器 | 34 |
| 121 | ネネム沢Ｃ | 森吉町森吉字ネネム沢6-1 | 縄文 | 縄文土器片（晩期）、土坑 | 34 |
| 122 | 森吉家ノ前Ａ | 森吉町森吉字家ノ前50外 | 縄文・古代 | 縄文土器片（前期・後期）、竪穴住居跡、石囲炉、土坑、石器、土師器、須恵器、羽口 | 34 |
| 123 | 森吉家ノ前Ｂ | 森吉町森吉字家ノ前138外 | 縄文・中世 | 縄文土器片（後期）、竪穴住居跡（中世）、土坑、焼土遺構、配石遺構、石器、石冠、木器、中世陶器、鉄器 | 34･37 |
| 124 | 森吉家ノ前Ｃ | 森吉町森吉字家ノ前101-1外 | 中世 | 掘立柱建物跡、陶磁器 | 34 |
| 125 | 森吉Ａ | 森吉町森吉字森吉95 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、土坑、石組、火葬墓、石器 | 34 |
| 126 | 森吉Ｂ | 森吉町森吉字森吉69 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 34 |
| 127 | 地蔵岱 | 森吉町森吉字地蔵岱74外 | 縄文・古代 | 縄文土器片（中期・後期）、竪穴住居跡（縄文・古代）、土坑、焼土遺構、溝跡、捨て場、石器、石製品、土製品、土師器、須恵器、羽口、鉄滓 | 36･37 |
| 128 | 地蔵岱Ａ | 森吉町森吉字地蔵岱124外 | 縄文 | 縄文土器片（中期・後期）、土坑、焼土遺構 | 36 |
| 129 | 鷲ノ瀬 | 森吉町森吉字鷲ノ瀬80外 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑、土器埋設遺構、貝風呂、石器 | 1･36･38 |
| 130 | 栩岱 | 森吉町森吉字栩岱74外 | 縄文 | 縄文土器片（後期・晩期） | 39 |
| 131 | 砕渕 | 森吉町森吉字砕渕124外 | 縄文 | 縄文土器（中期・後期）、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、フラスコ状土坑、土坑、土器埋設遺構、焼土遺構、石器 | 35 |
| 132 | 深渡 | 森吉町森吉字深渡家ノ前102-1外 | 縄文 | 縄文土器（中期～晩期）、竪穴住居跡、フラスコ状土坑、土坑、土器埋設遺構、柱穴様ピット、焼土遺構、石棺様組石、掘立柱建物跡、石器 | 36･37･40 |
| 133 | 深渡Ａ | 森吉町森吉字深渡29外 | 縄文 | 縄文土器（後期・晩期）、土坑、陥し穴、石器、トランシェ様石器 | 36 |
| 134 | 丹瀬口 | 森吉町森吉字丹瀬2-1外 | 縄文 | 縄文土器片（後期） | 39 |
| 135 | 桐内沢清兵衛岱 | 森吉町森吉字清兵衛岱46 | 縄文 | 縄文土器片（後期・晩期） | 1 |
| 136 | 冷水沢Ａ | 上小阿仁村仏社字冷水沢 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1 |
| 137 | 冷水沢Ｂ | 上小阿仁村仏社字冷水沢 | 縄文 | 縄文土器片（後期）、石器 | 1 |
| 138 | 風張城 | 阿仁町吉田字寺屋布1-7 | 中世 | 空堀、井戸跡 | 1 |
| 139 | 家の上 | 阿仁町吉田字家ノ上 | 縄文 | 縄文土器片、石鏃 | 1 |
| 140 | 高田城 | 阿仁町小淵字山ノ内65-32 | 中世 | 空堀 | 1 |
| 141 | 熊堂 | 阿仁町水無字湯口内451の1 | 縄文 | 縄文土器片（中期）、石鏃 | 1 |
| 142 | 上岱Ⅱ | 阿仁町水無字上岱135-2 | 縄文 | 縄文土器片（中期） | 1 |
| 143 | 上岱Ⅰ | 阿仁町水無字上岱104-2 | 縄文 | 縄文土器片（中期・後期） | 1 |

が周知されており、これらのほとんどは阿仁川の河岸段丘上に立地する。[註３]その後、秋田県教育委員会による、平成４年～平成５年の２箇年にかけて実施した森吉山ダム建設事業に係る分布調査[註４]と、平成６年からの同事業に係る確認調査[註５～９]によって、合計60遺跡が小又川流域の根森田・森吉両地区で新しく発見され、町の遺跡分布図は大幅に塗り替えられた。

旧石器時代の遺物は、今まで森吉町では出土していなかったが、平成６年からの確認調査により二重鳥Ａ遺跡(第１図100、以下第１図は省略)より掻器１点、二重鳥Ｂ遺跡(101)よりナイフ形石器１点、ネネム沢Ａ遺跡(119)より旧石器時代の遺物がそれぞれ出土したことが報告されている。

縄文時代になると遺跡数は比較的増加する。旧い時期の遺跡から挙げていくと、早期以前では爪形文・貝殻沈線文・条痕文の土器が出土した桂の沢遺跡(73)、尖底土器の底部が出土した姫ヶ岱Ｄ遺跡(87)がある。前期では長野岱Ｉ遺跡(30)・地蔵岱遺跡(127)、そして平成元年の秋田県教育委員会による確認調査で、前期から後期にかけての大規模な集落跡(推定面積15万㎡)が確認された狐岱遺跡[註10](42)がある。中期から晩期にかけては、上悪戸Ｄ遺跡(78)・桐内Ａ遺跡(79)・砕渕遺跡(131)・深渡遺跡(132)・白坂遺跡(49)・向様田Ａ～Ｄ遺跡(109～112)などがある。これらの遺跡の中で、深渡遺跡の石棺様組石・白坂遺跡の『笑う岩偶』・向様田Ａ遺跡の環状配石は、大きく報道され話題となった。

弥生時代では長野岱Ｉ遺跡(30)・上悪戸Ｂ遺跡(76)で遺物が出土しているが、明瞭なかたちでの遺構検出例は僅少である。

古代の遺跡では、狐岱遺跡(42)や諏訪岱遺跡(39)などで平安時代の集落跡、地蔵岱遺跡(127)で製鉄関連遺構が確認されており、その他天津場Ａ遺跡(116)・ネネム沢Ａ遺跡(119)・森吉家ノ前Ａ遺跡(122)でも古代の遺構・遺物が確認されている。

中世の遺跡では、いわゆる中世城館が町全域で10箇所確認されている。[註11]前田地区には、前田館(60)、花館(71)、天館(72)、仲ノ又館(74)があり、仲ノ又館には空堀や見張り台跡がある。森吉山ダム建設区域では、中世の城館跡は確認されていないものの、森吉家ノ前Ｂ遺跡(123)で室町時代に属すると思われる珠洲系陶器が出土しており、当該地域の中世の様相を示す数少ない資料となっている。

近世の遺跡では、日廻岱Ａ遺跡(88)で掘立柱建物跡が２棟検出されている。小又川流域での掘立柱建物跡の報告は初例であると思われることから、建造物としての構造や、近世の集落の様相等を考察する数少ない資料となっている。

註１　川村公一　『子孫に残す歴史の記録　森吉路　過去から未来へ』　モリトピア選書２　建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1993(平成５)年

註２　秋田県農政部農地整備課　『大野台開発計画区域　土地分類基本調査　米内沢』　1978(昭和53)年

註３　秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図(県北版)』　1991(平成３)年

註４　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第251集　1994(平成６)年

註５　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第259集　1995(平成７)年

註６　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第267集　1996(平成８)年

註７　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997(平成９)年

註８　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第281集　1998(平成10)年

註９　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第291集　1999(平成11)年

註10　大野憲司　「狐岱遺跡について～1989年の範囲確認調査から～」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第５号　1990(平成２)年

註11　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56)年

第１・２表文献（表中の番号は文献番号に対応する。）


1　秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（県北版）』　1991(平成３)年

2　鷹巣町史編さん委員会　『鷹巣町史』第一巻　1992(平成４)年

3　秋田県教育委員会　『藤株遺跡発掘調査報告書』　1981(昭和56)年

4　秋田県教育委員会　『法泉坊沢Ⅱ遺跡調査報告書－地方特定道路整備工事鷹巣町湯車工区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第278集　1998(平成10)年

5　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第308集　2000(平成12)年

6　秋田県教育委員会　『からむし岱Ⅰ遺跡発掘調査報告書－大館能代空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第339集　2002(平成14)年

7　秋田県教育委員会　『脇神館跡発掘調査報告書－県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』　秋田県文化財調査報告書第284集　1999(平成11)年

8　秋田県　『秋田県史考古編』　1960(昭和35)年

9　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第201集　1990(平成２)年

10　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第342集　2002(平成14)年

11　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第324集　2001(平成13)年

12　奥山潤、高橋昭悦　『長野岱Ⅰ遺跡』　森吉町教育委員会　1967(昭和42)年

13　沼館愛三　『出羽諸城の研究』　1980(昭和55)年

14　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56)年

15　森吉町教育委員会　『諏訪岱遺跡～堤沢川流路溝工事に係る発掘調査報告～』　1992(平成４)年

16　森吉町教育委員会　『諏訪岱・柳田・冷水岱発掘調査報告書～仮称「ふるさと村整備事業」に係る遺跡範囲確認調査報告』　1994(平成６)年

17　大和久震平　『北秋田郡森吉町米内沢狐岱遺跡調査報告』　1958(昭和33)年

18　大和久震平　「円筒上層式の細分」　『秋田考古学』　第16号　1960(昭和35)年

19　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第279集　1989(平成元)年

20　加賀利男　「塚の岱遺跡発掘調査に就いて」　『広報もりよし』　第131号　1969(昭和44)年

21　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第217集　1991(平成３)年

22　秋田県教育委員会　『白坂遺跡発掘調査報告書－県営圃場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査－』　秋田県文化財調査報告書第244集　1994(平成６)年

23　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第226集　1992(平成４)年

24　秋田県教育委員会　『桂の沢遺跡発掘調査報告書－小滝阿仁前田停車場地方道改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査－』　秋田県文化財調査報告書第247集　1994(平成６)年

25　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997(平成９)年

26　森吉町教育委員会　『上悪戸Ｄ遺跡発掘調査報告書～比内森吉線地方道改良工事に係る発掘調査～』　1997(平成９)年

27　秋田県教育委員会　『桐内Ａ遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－』　秋田県文化財調査報告書第334集　2002(平成14)年

28　秋田県教育委員会　『桐内Ｂ遺跡・桐内Ｄ遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘

調査報告書Ｖ－』　秋田県文化財調査報告書第318集　2001(平成13)年
29　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第259集　1995(平成７)年
30　秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』秋田県文化財調査報告書第299集　2000(平成12)年
31　秋田県教育委員会　『桐内沢遺跡・日廻岱Ａ遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ－』　秋田県文化財調査報告書第335集　2002(平成14)年
32　秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｃ遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第287集　1999(平成11)年
33　秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｄ遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』　秋田県文化財調査報告書第300集　2000(平成12)年
34　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第267集　1996(平成８)年
35　森吉町教育委員会　『平成７年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』　1996(平成８)年
36　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第281集　1998(平成10)年
37　森吉町教育委員会　『平成８年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』　1997(平成９)年
38　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第291集　1999(平成11)年
39　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第251集　1994(平成６)年
40　秋田県教育委員会　『深渡遺跡発掘調査報告書－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』秋田県文化財調査報告書第286集　1999(平成11)年

# 第３章　発掘調査の概要

## 第１節　遺跡の概観

向様田Ｆ遺跡は、小又川右岸の段丘上に立地し、標高は約138mである。この段丘面は東西の長さが約480m、南北の長さが約200mあり、向様田Ｆ遺跡はその東端近くに位置している。向様田Ｆ遺跡の南西側には低い小崖があり、その下には東から西に向かって向様田Ｂ・Ｃ・Ａ・Ｄの各遺跡が続いている。また、向様田Ｄ遺跡北側の標高約145～159mの丘陵地に向様田Ｅ遺跡がある。かつて、向様田Ａ～Ｄ・Ｆ遺跡は水田として、向様田Ｅ遺跡は畑として利用されていた。

向様田地区では平成８年度に秋田県教育委員会が遺跡確認調査を行い、向様田Ａ遺跡(7,600㎡)、向様田Ｂ遺跡(5,400㎡)、向様田Ｃ遺跡(1,100㎡)、向様田Ｄ遺跡(2,800㎡)、向様田Ｅ遺跡(4,200㎡)、向様田Ｆ遺跡(2,700㎡)の６遺跡を確認した(第２図)。今回、向様田Ｆ遺跡については、2,700㎡の調査を予定していたが、精査不要範囲を除外した結果、2,300㎡を調査した。

## 第２節　調査の方法

### １　野外調査

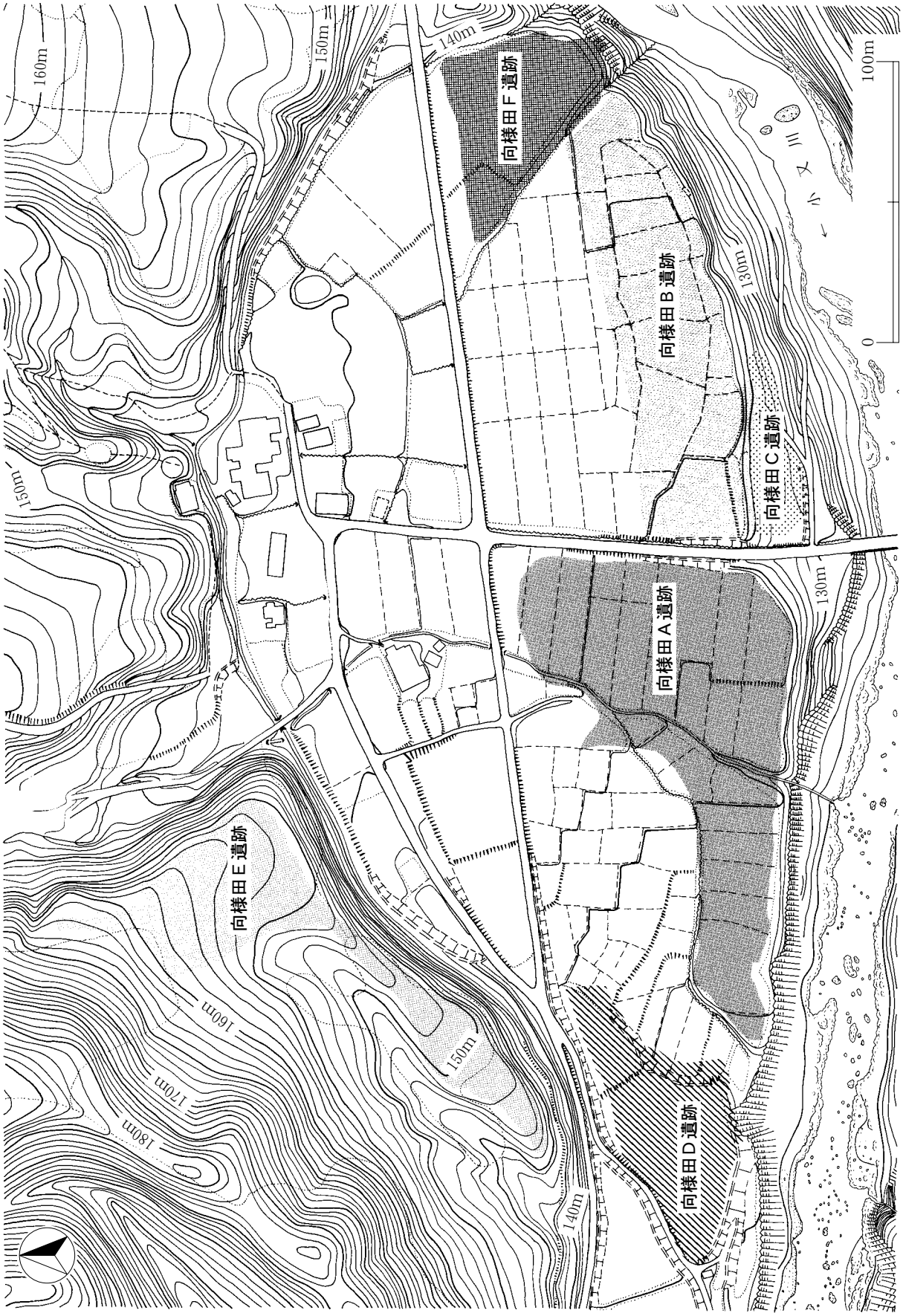
調査はグリッド法で行った(第４図)。調査対象全域にグリッド打設するため、建設省が打設した４級基準点ＤＴ１とＤＴ２より、平成12年向様田Ａ遺跡発掘調査において打設したＭＡ50(Ｘ＝4316.000, Ｙ＝-30145.000)を基準とした。この基準杭(ＭＡ50)を通る平面直角座標第Ｘ系(日本測地系)の南北方向に南北基準線Ｘ軸を設定した。これに直交して、原点を通る線を東西基準線Ｙ軸とし、両基準線をもとに当該区内に４×４m方眼グリッドを組んだ。基準杭をＭＡ50として、東西線には南から北へ４ｍごとに、50、51、52、・・・、と数字を昇順に、南北線には東から西へ４ｍごとに、MA、MB、MC、・・・、とアルファベットの２文字を昇順にそれぞれ付した。アルファベットはＡからＴまでの20文字の繰り返しである。各グリッドの呼称は、グリッド南東角を通る南北線と東西線との組み合わせで、ＭＡ50、ＭＢ51、ＭＣ52、・・・、のように呼ぶこととした。

遺構は検出順に連番で遺構番号を付けた。調査は、原則として半截または十字に土層断面観察用のベルトを残して、２分割法または４分割法による精査を行った。

遺物は、グリッド単位に取り上げ、出土した層位、グリッド名または遺構名、年月日を記入した耐久性荷札を添付した。

平面図及び断面図は、原則として１／20の縮尺で作成し、細部状況を表すために適宜１／10の拡大図も作成した。発掘調査における写真撮影は、遺構・遺物を対象とする地上撮影を行い、10月には、セスナ機およびラジコン・ヘリコプターによる遺跡の空中写真撮影を行った。

写真は、35㎜カメラとブローニー版の中型カメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル(スライド用)、ネガカラーを使用した。




**第２図　向様田遺跡群の範囲**

### ２　室内整理

各遺構は、現場で作成した図を第１原図とし、これを基に平面図と断面図を組み合わせた図を第２原図とした。

遺物は、洗浄・注記後、報告書に掲載する遺物の選別を行い、その後基本的に１／１で実測図を作成し、報告書に掲載するにあたっては適宜縮尺を変えトレースした。図にはスケールを入れて示してある。また、土器片などは拓影図の作成を合わせて行い、これらの作業後写真撮影を行った。

## 第３節　調査の経過

発掘調査は、平成13年８月28日から10月19日まで実施した。

**第１週**（８月28日～31日）28日、向様田Ｆ遺跡の発掘調査を開始した。草刈りを行う。29日、竪穴住居跡ＳＩ01を確認し、精査を開始。30日、竪穴住居跡ＳＩ02を確認し、精査を開始。31日、午前中降雨のため現場待機。南西側遺構確認作業及び遺構精査。

**第２週**（９月３日～７日）３日、基本層序観察用南北畦土層断面実測。４日、土坑SK03を確認し、精査を開始。６日、柱穴SKP04～15を確認し、精査を開始。７日、土坑SK16を確認し、精査を開始。

**第３週**（９月10日～14日）11日、南側斜面表土除去。台風接近により養生を行う。12日、台風15号接近により現場作業休止。13日、芳賀所長・杉渕北調査課長・嶋田北調査課主査来跡。

**第４週**（９月17日～21日）竪穴住居跡ＳＩ02は、直径５ｍの円形平面を呈し、床面壁際には壁溝が巡る。中央部には石囲炉が存在した可能性もあるが、遺存状態は不良。

**第５週**（９月26日～28日）26日、見学会の報道発表。29日、向様田遺跡群の見学会を行った。約400名の見学者来跡。

**第６週**（10月１日～５日）土坑SK18は、直径約３ｍ、深さ約0.8mの大形のビーカー状の土坑であると判明。覆土中からは、比較的多量の縄文時代後期後半前後の土器破片出土。１日、午前中降雨のため現場待機し、午後現場作業休止。２日、基本土層観察用畦の除去作業開始。南東部表土除去。３日、ベルトコンベアー設置。南側基本土層土層断面実測。４日、土坑SK72を確認し、精査を開始。竪穴住居跡ＳＩ02の柱穴検出作業開始。５日、土坑SK75を確認し、精査を開始。

**第７週**（10月９日～12日）12日、ベルトコンベアー移動。

**第８週**（10月15日～19日）15日、杉渕北調査課長・児玉北調査課副主幹来跡。ベルトコンベアー撤去。16日、地山上面地形測量開始。17日、文化庁岡村道雄主任文化財調査官・文化財保護室谷地学芸主事・杉渕北調査課長来跡。18日、遺跡全景空中写真撮影。19日、芳賀所長・杉渕北調査課長・児玉北調査課副主幹来跡。発掘機材とリース機材を整理し、向様田Ｆ遺跡の発掘調査を終了した。検出した遺構は、竪穴住居跡２軒、土坑６基、溝跡２条、柱穴（小穴）75基であった。当初、2,700㎡の調査を予定していたが、精査不要範囲を除外した結果、2,300㎡を精査した。

# 第４章　調査の記録

## 第１節　層序（第３図）

向様田Ｆ遺跡は、小又川右岸の河成段丘上に立地する。段丘面の現況は森吉山ダム建設に先立つ集落移転に伴い放棄された休耕田であった。現地表面の標高は138.5m前後である。遺跡南側の崖下を西流する小又川との比高は15m前後、遺跡南西側の小崖下に存在する向様田Ｂ遺跡との比高は約２ｍである。

遺跡の大半を占める段丘面の現地表はほぼ平坦であった。現表土（１層）は層厚10～20cm前後である。基本的に休耕田の耕作土に相当する。現表土下には北端部では部分的に造成土（３・４層）が堆積するが、段丘面上の大部分の範囲では、段丘礫層が露出する。段丘面上では、水田造成時にほぼ全域が段丘礫層面まで削平されたものと判断できる。

また、南東端の段丘崖には小又川に向かって南に開口していた小規模の埋没谷が存在する。谷底直上には最大層厚20cm前後の黒色土（Ｌ地点６層）が堆積する。当該層は縄文時代の遺物をわずかに含み、基本的に当該時代の堆積層であったと想定し得る。その上位には層厚15cm前後の黒泥質のシルト（Ｌ地点５層）が堆積する。無遺物層であることから、おそらく縄文時代の遺跡形成よりも後代の谷底埋積土であろう。その上位には最大厚１ｍ以上の盛土（Ｉ～Ｌ地点２・３層）が堆積する。盛土上面は段丘面部分の段丘礫層上面とほぼ同高であり、現水田造成時に谷を埋め立てたものと判断できる。埋没谷部分の盛土層中には、本来、段丘面上に分布していたと推定できる縄文時代の遺物を少量含んでいる。調査時の所見から、本遺跡内の縄文時代の遺物包含層は、存在していたとしても、水田造成時に削平され、既に消失したものと判断できる。

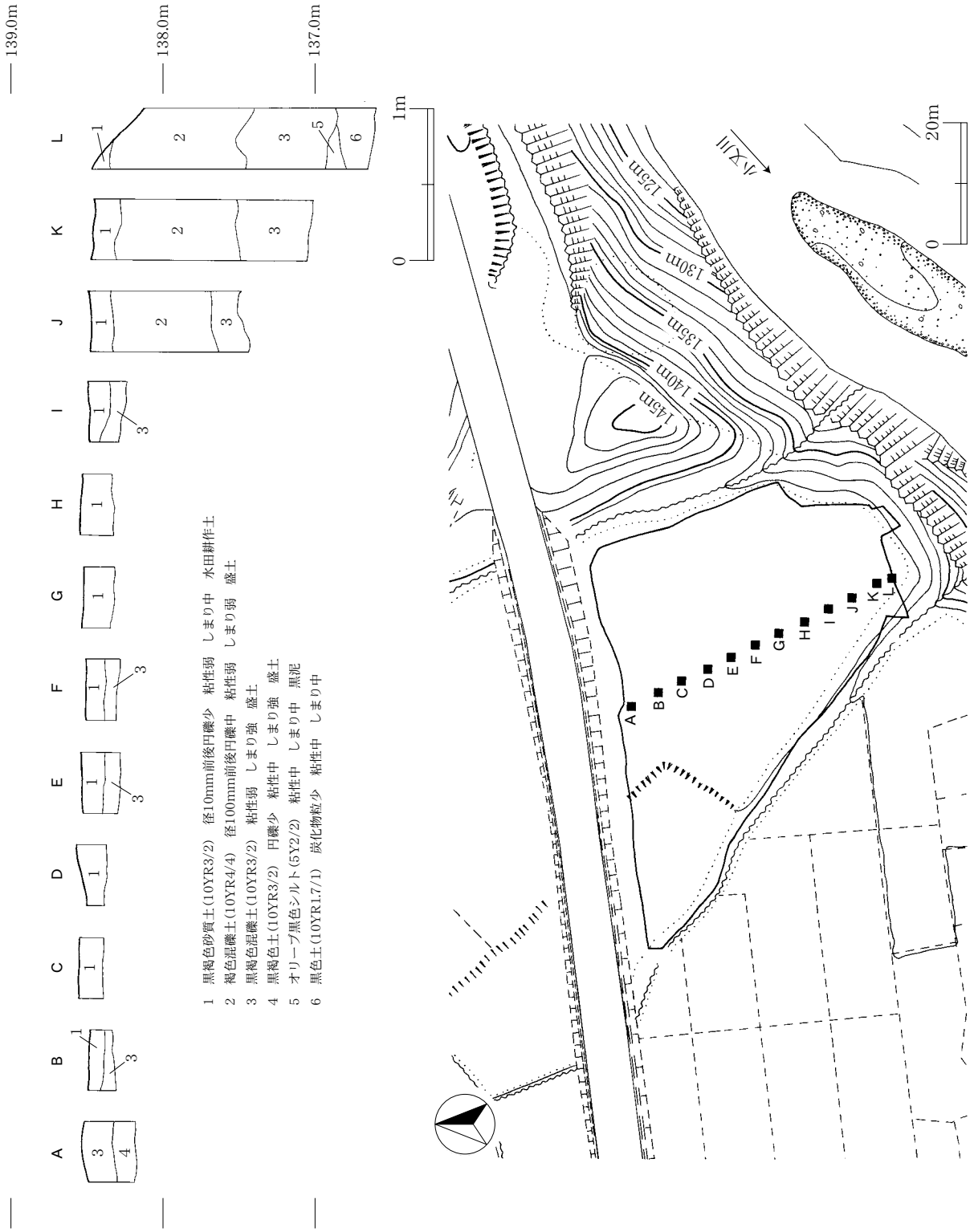
なお、遺跡東側にも小又川に向かって開口していた埋没谷が存在する。厚さ１ｍ近い盛土下には黒泥状のシルトおよび混礫シルトが堆積する。いずれも無遺物層であった。

今回の発掘調査では、遺構はほとんど段丘面の南西半側に分布しており、その確認面は表土下の段丘礫層上面である

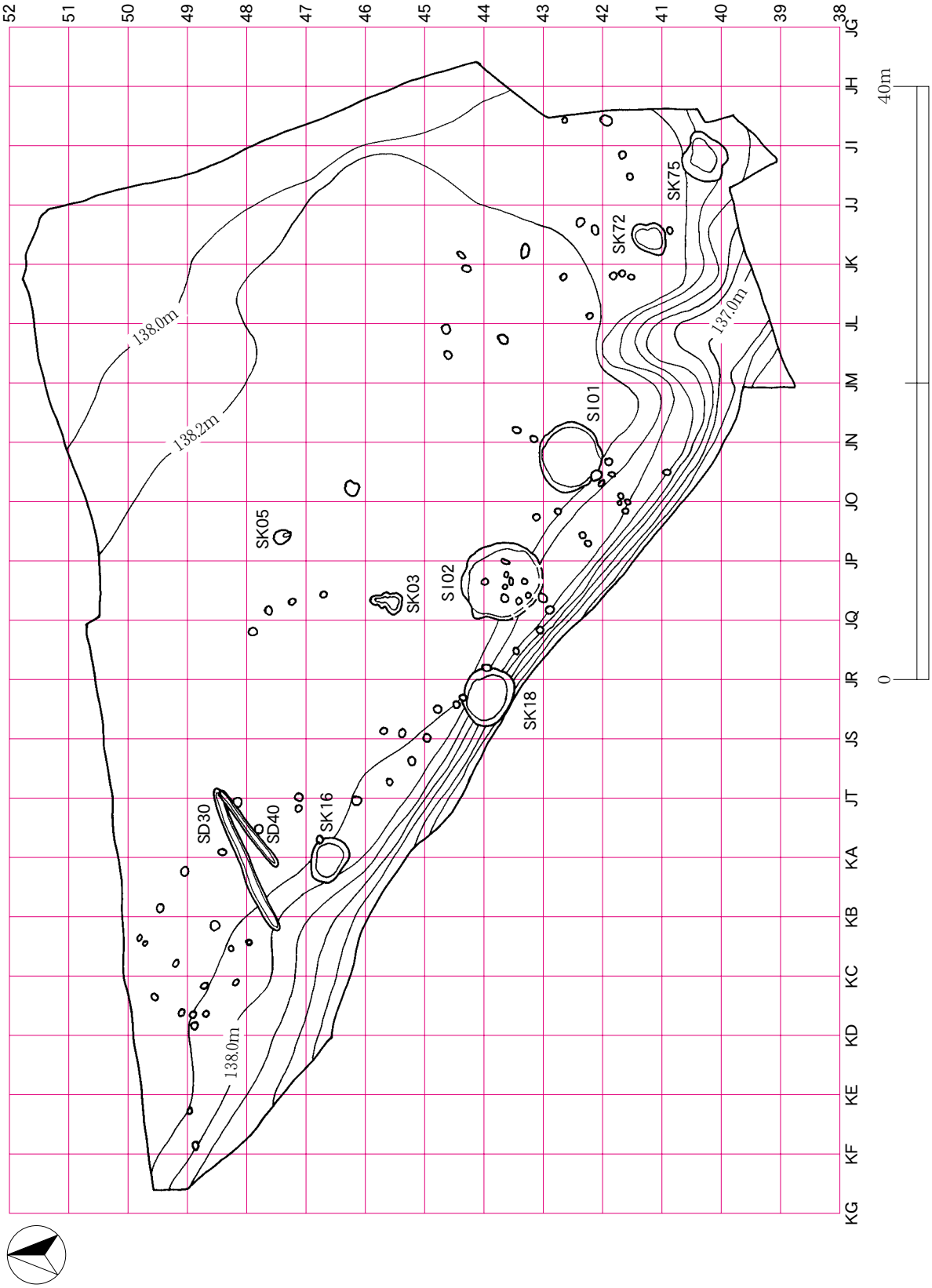
## 第２節　検出遺構と出土遺物

### １　概要

今回の調査では、竪穴住居跡２軒、土坑６基、溝跡２条、柱穴（小穴）75基を検出した（第４図）。２軒の竪穴住居跡は南西側の段丘崖際に隣接して立地する。明確には断定し難いものの、出土土器および出土炭化材の年代測定結果を勘案すると、ともに縄文時代後期末から晩期初頭前後に属する可能性が強いものと判断する。また、６基の土坑はいずれもその性格は判然としない。そのうち、２基は縄文時代に、１基は中近世にそれぞれ属すると推定する。残りの３基については時期不詳である。溝跡２条は覆土の特徴から縄文時代よりも後出のものと推定し得るが、やはり詳細な時期は不明である。柱穴（小穴）は、ほとんど時期決定可能な遺物の出土がなく、詳細な時期は不明である。ただし、覆土


139.0m
138.0m
137.0m
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
1m
0
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)　径10mm前後円礫少　粘性弱　しまり中　水田耕作土
2 褐色混礫土(10YR4/4)　径100mm前後円礫中　粘性弱　しまり弱　盛土
3 黒褐色混礫土(10YR3/2)　粘性弱　しまり強　盛土
4 黒褐色土(10YR3/2)　円礫少　粘性中　しまり強　盛土
5 オリーブ黒色シルト(5Y2/2)　粘性中　しまり中　黒泥
6 黒色土(10YR1.7/1)　炭化物粒少　粘性中　しまり中
145m
140m
135m
130m
125m
川
20m
0

**第３図　土層柱状図**




第４図　向様田Ｆ遺跡遺構配置図

の特徴からいずれも縄文時代よりは後出で、おそらく近現代の水田施設の痕跡が大半であるものと推定する。

検出遺構が比較的少ないことから、以下では、時代別ではなく、遺構の種別ごとに記載する。

## ２　竪穴住居跡

**SI01竪穴住居跡**（第５図）

調査区南西側の段丘崖際のJM・JN42・43区に位置する。南西端でSKP11に切られている。

竪穴は東西長径4.40m、南北短径4.20mの正円に近い楕円形平面をなす。壁はやや開き気味に立ち上がり、壁高は現状で0.15m前後である。竪穴は段丘礫層を掘り込み床面としていることから、床面は全体に凹凸がある。床面中央では、径約20cmの大形扁平円礫が存在し、その周辺の基盤の段丘礫層が僅かに褐色に変色している。これを被熱による変色と推定し、この部分が地床炉もしくは石囲炉であったと想定し得るかもしれない。しかし、先の円礫には被熱痕を認めることができないこともあり、断定できない。このほか、床面および竪穴周囲には貼床、柱穴、壁溝等の施設を認めることはできなかった。

覆土は１～３層に分けた。壁際に堆積する３層は、基本的に基盤の暗褐色砂礫土に由来し、壁もしくは周堤の崩壊土と推定する。その上位層に当たる２層および１層は、ともに黒ボク土を基質とし、床面上に直接堆積する。竪穴中央部周辺に堆積する１層には、比較的大形の炭化材および焼土粒を含み、竪穴住居上屋の焼失に由来する堆積の可能性も想定し得る。ただし、炭化材は遺存状態が不良で、その詳細な出土状態を記録し、取り上げることができなかった。また、本遺構が焼失住居であったかも断定できない。

北端壁際の３層から縄文時代後期前後の深鉢胴部破片（第20図10）、縄文時代後期中葉～後葉前後に属する深鉢口縁部～胴部破片（第20図９）が出土した。本層が周堤の崩壊土とすると、本層出土遺物は、竪穴埋没の初期段階に帰属するかは確実ではない。このほか、床面やや中央寄りの１層下位から、縄文時代中期末土器破片も出土した（第20図４）。このほかに、覆土中からは、縄文時代前期～後期後葉前後に属すると推定できる土器破片約15点が出土した。また、磨石類５点、敲石１点、剥片10点も出土した。このうち、磨石類３点（第24図３～５）は、径15～25cm前後の円礫数点とともに北端壁際からまとまって出土している。

なお、１層上面出土炭化材１点の樹種同定結果は、トネリコ属、同試料の$^{14}$Ｃ年代測定結果は、補正年代2920±50BP（Code.No.IAAA-10183）であった。

本竪穴住居跡覆土出土縄文土器は、縄文時代前期～後期後葉前後までの時期幅があり、いずれも小破片で、かつ少量である。これらの状況から、出土縄文土器は、住居廃絶後の周囲からの流入土中に混在していた可能性が強いものと想定する。よって、これらの縄文土器は竪穴住居の時期比定の根拠とはなり難い。竪穴覆土（１層）上面出土炭化材を住居建築材と想定するならば、現状の竪穴覆土は住居廃絶後比較的短期間のうちに堆積した可能性が強い。この想定によると、覆土出土縄文土器から、竪穴廃絶の上限時期は縄文時代後期末前後である可能性が強い。さらに当該炭化材の$^{14}$Ｃ年代測定結果2920±50BPを評価すると、本竪穴住居跡は、縄文時代後期末～晩期初頭前後に属する可能性も想定できよう。本竪穴住居跡に隣接し、本住居と同時もしくは近接した時期に営まれたとも想定し得る

ＳＩ02竪穴住居跡が縄文時代後期末～晩期初頭に属する可能性が強いことは、この想定の傍証となるかもしれない。このように、本竪穴住居跡は縄文時代晩期初頭前後に属する可能性が強いと想定するものの、現時点では断定できない。

**SI02竪穴住居跡**（第６・７図）

調査区南西側の段丘崖際のJO・JP43・44区に位置する。ＳＩ01竪穴住居跡からは北西へ約４ｍ離れている。

竪穴は南西端側を水田造成時に大きく削平されているが、現状から、長径5.80m、短径5m余りの正円に近い楕円形平面をなすものと推定できる。壁は開き気味に立ち上がり、遺存部分の壁高は0.25m前後である。また、東壁際には長さ約3.5mにわたって壁溝を確認した。幅約0.3m、床面からの深さは0.1m前後である。竪穴は段丘礫層を掘り込み床面としていることから、床面は全体に凹凸がある。床面中央では径15～25cm前後の円礫数点が一部空隙部分も存在するが、大きくは半環状に巡ると認めることができる。礫群の中には礫側面を上に向けて意図的に据えたと推定できるものがあることと、その竪穴内での配置から、本来、これらの礫群は床面中央に存在した石囲炉を構成した可能性も想定し得る。しかし、円礫および礫群内側床面には明瞭な被熱痕を確認することはできず、断定できない。このほか、床面上では８基の柱穴（Ｐ１～Ｐ８）を確認した。長径30～40cm前後、床面からの深さは15cm以下と極めて浅い。いずれも明瞭な柱痕跡は確認できず、住居上屋を支えた柱の柱穴であったかは必ずしも確実ではない。

竪穴覆土は１層～４層に分けた。壁際に堆積する４層は基本的に基盤の暗褐色砂礫土に由来する壁もしくは周堤の崩壊土であろう。２・３層はともに黒ボク土を基質とする。竪穴中央部に分布する２層が相対的に黒味が強い。土層断面形態からは、両層とも当時の表土由来の自然堆積層と推定するが、確実ではない。なお、竪穴中央２層下位からは長さ50cm、径８cm前後の炭化材が出土している。屋根の垂木材等の可能性も想定し得るが、調査時には明瞭な加工痕を確認することはできなかった。(註1)
最上位の１層は水田造成時の盛土層である。

覆土中からは、縄文土器破片約50点、石錐１点、スクレイパー６点、二次加工ある剥片１点、微小剥離痕ある剥片１点、剥片14点、磨石類７点、石錘１点のほか、石剣破片１点が出土した（第20・21図、第25～28図）。縄文土器は前期～晩期に属するものがある。このうち、主体をなすのは、後期末～晩期初頭土器である。第21図１は全体の1/3前後が破片となって竪穴中央付近から出土している。また、第21図６の晩期深鉢破片は覆土上位から出土しており、竪穴住居廃絶後、竪穴の過半が埋没後に流入した可能性が強い。

上記の遺物出土状況から、本竪穴住居跡の廃絶時期は縄文時代後期末～晩期初頭を下限とすると判断する。なお、出土炭化材１点の樹種同定結果はイヌエンジュ、同試料の$^{14}$Ｃ年代測定結果は、補正年代3240±60BP（Code.NO.IAAA-10184）であった。

## ３　土坑

**SK03土坑**（第８図）

JP45区に位置する。長径1.4m、短径1.2mの楕円形の側縁に長さ0.8m前後の突出部が取り付いたよ

うな極めて不整な平面形をなす。壁は緩やかに開き気味に立ち上がり、壁・底面ともに凹凸が著しい。底面は中央付近が最も深く、確認面からの深さは最大0.20mである。その周囲は一段浅くなり、確認面からの深さは0.08～0.13m前後である。

覆土は１層と２層とに二分した。１層は黒ボク土を基質とする砂礫土で、土坑中央部分を除き、ほぼ土坑全体に分布する。一方、２層はより黒味の弱い暗褐色砂礫土で、土坑中央部分に堆積する。２層は１層よりも下位に相当するが、両層の境界は漸移的である。いずれも自然堆積層の可能性が強いと判断する。

１層上位からは、縄文土器小破片３点が出土した（第22図１～３）。縄文時代中期末から後晩期前後までの時期幅がある。土坑埋没時に偶然混入したものと推定する。

本土坑は、形態が極めて不整である。また、覆土は上位の１層が旧表土層、下位の２層がいわゆる地山漸移層に相当する可能性もある。これらのことから、本土坑は人為的な遺構ではなく、基盤である段丘礫層上面のくぼみに旧表土以下の層群が堆積したものである可能性もあろう。

**SK05土坑**（第８図）

JO47区に位置する。長径1.08m、短径0.79mの楕円形平面をなす。壁は僅かに開き気味に立ち上がり、底面は大形の段丘礫が露出するなどして凹凸がある。確認面から底面までの深さは0.34mである。

覆土は黒ボク土を基質とし、炭化物粒を少量混入する。現状では覆土堆積要因は判然としない。

覆土中からは縄文土器小破片２点が出土した（第22図４・５）。それぞれ縄文時代前期中葉円筒下層b式期前後と縄文時代後期前後に属すると推定できる。

本土坑は現時点では詳細な性格は不明である。出土土器から、その堆積時期の上限は縄文時代後晩期前後であろう。

**SK16土坑**（第９図）

調査区北南西部段丘崖際のJT・KA46区に位置する。本遺構はSKP28に切られる。長径3.08m、短径2.19mの楕円形平面をなす。壁は緩やかに開きながら立ち上がる。段丘礫層を掘り込んでいることから、底面は凹凸があるものの、ほぼ水平である。確認面から底面までの深さは0.33mである。平面長軸方位は西北西方向である。

覆土は１層～４層に分けた。壁際に堆積する４層は基盤の段丘礫層起源の黄褐色シルト塊を多量に含み、壁の崩壊土と推定できる。上位の１～３層はいずれも黒ボク土を基質とする。２・３層は１層よりも相対的に黒味が弱く、このうち３層は砂礫を多量に包含する。これらの層は、断面形態はいわゆるレンズ状に近く、基本的に周囲からの流入土と推定する。

覆土２層中からは、縄文土器小破片１点（第22図６）が出土した。縄文時代後期に属すると推定する。

本土坑は、現段階では詳細な性格は不明である。出土土器から、その埋没の上限時期は縄文時代後期前後の可能性も想定できる。しかし、当該資料は小破片１点のみであり、確実ではない。

**SK18土坑**（第９・10図）

調査区西端側の段丘崖際のJQ・JR43・44区に位置する。SKP24・25・27に切られ、南西端側は

水田造成時に削平されている。現状から、長径3.84mの正円に近い楕円形平面をなすと推定できる。壁は比較的急傾斜で立ち上がる。段丘礫層を掘り込んでいることから、壁面および底面は凹凸があるものの、底面は比較的水平である。確認面から底面までの深さは0.76mである。

覆土は１層～９層に分けた。底面直上に堆積する９層およびその上位の８・７層はいずれも多量の炭化物を含む黒ボク土である。８・９層は土層断面では、上位層に比べ、相対的に水平な堆積を呈し、人為的に埋めた堆積の可能性が強いと推定する。７層は炭化物を極めて多量に含み、炭化材に由来する堆積層であろう。これらの層群の上位の４～６層は、その断面形態はいわゆるレンズ状を呈す。このうち、壁際に堆積する６層は基盤層由来の黄褐色シルト塊を多量に含み、壁の崩壊土に由来すると判断できる。４・５層は基本的に黒ボク土を基質とし、周囲からの流入土と想定する。最上位の１～３層は現水田造成時の盛土（２・３層）および耕作土（１層）である。

出土遺物には、縄文土器破片約30点、石匙７点、スクレイパー５点、二次加工ある剥片５点、微小剥離痕ある剥片１点、剥片18点、砕片４点、磨石類１点、石剣破片１点がある（第22・23図、第28～30図）。覆土上位から縄文時代晩期前葉大洞BC式土器破片（第23図８）、４・５層から縄文時代中期末～後期初頭土器破片（第22図８・９）も少量出土しているが、主体をなすのは、縄文時代後期後葉十腰内Ⅳ式土器である。

本土坑は、当初、炭化材を多量に含む黒ボク土により中位前後まで埋め戻され、その後、開口状態下で周囲から旧表土等が流入し、埋没したものと想定する。ただし、本層群からは遺物が多量に出土し、自然に埋没する過程で遺物が廃棄されたと想定できるものの、人為的に遺物とともに埋め戻された可能性も否定できない。掘り込みの規模からは、小形の竪穴住居跡とも想定し得るが、炉、柱穴等の施設は確認できない。さらに、掘り込みは平面規模に比べ相対的に深いことから、ここでは土坑と判断した。底面上の層群は、炭化物を多量に含み、何らかの上屋が焼失した堆積の可能性も想定し得るが、断定できない。

本土坑埋没時期は、覆土からの土器出土状況を重視すると、出土土器の主体時期である縄文時代後期後葉十腰内Ⅳ式期の可能性が高いと推定する。

**SK72土坑**（第11図）

調査区南東側段丘崖際のJJ41区周辺に位置する。遺構中央部は溝状の攪乱により大きく破壊されている。表土直下の段丘礫層上面で、推定長径2.3m、短径2.0m前後の正円に近い楕円形平面の掘り込みとその掘り込み中央東寄りに径34cmの土器が埋まっていることを確認した。精査の結果、掘り込みは深さ0.15m前後と浅く、土器は深鉢口縁部分全周が逆位でほぼ底面直上に埋まっていることが判明した。調査段階では、本遺構周辺は水田造成により基盤の段丘礫層まで削平されていることから、壁が削平された竪穴住居跡の土器埋設炉と想定していた。しかし、土器本体やその周囲で明瞭な被熱痕を認めることができなかったこと、竪穴住居跡内の土器埋設炉としては、土器埋設のための掘り込みが径２m以上と極めて大形で、特異であることから、最終的に、逆位に深鉢を埋めた土坑と判断した。

土坑は、上述のように径が２mを越える楕円形平面をなす。壁は大きく開きながら立ち上がり、底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは0.15mである。掘り込みの中央やや東端寄りに現状で深鉢口縁部を逆位に埋めている。本土坑上位は削平されていると推定できることから、深鉢は本来完形もしく

はそれに近い形状であった可能性も考慮すべきかもしれない。

土坑覆土（２層）は黒ボク土起源の黒褐色土である。埋められた深鉢内部の覆土（１層）が相対的に砂質に富み、このことから、本来、完形の深鉢を逆位に置いて土坑全体を埋めた後に、深鉢底部側が壊れて深鉢内に覆土が流入した可能性も想定できよう。

土器は口径約34cm、残存高約12cmの深鉢である（第23図13）。口縁部外面には板状工具小口による縦方向基調の条痕様調整痕が残る。外面には煤状炭化物が厚く付着しているが、内外面とも二次的な被熱痕跡を認めることができない。縄文時代後期後葉に属しよう。このほか、掘り込み内から、縄文土器破片約20点、二次加工ある剥片１点、剥片３点、砕片２点、円盤状石製品？１点、磨製石斧１点が出土した（第23図、第30図）。

本土坑は、大形で、意図的に深鉢を入れて埋め戻したと推定できることから、深鉢を副葬した土坑墓の可能性も想定できる。その場合は磨製石斧も副葬品であった可能性があろう。出土土器から縄文時代後期後葉に属すると判断する。

**SK75土坑**（第11図）

調査区南東端の小又川際のJH・JI40区に位置する。

掘り込みは、一辺約2.9mのほぼ隅丸正方形平面をなす。壁は緩やかに開きながら立ち上がる。特に南壁から北西壁にかけては、底面から15cm前後上位で段をなし、より外側に開く。底面は若干の凹凸があるが、はぼ水平である。確認面から底面までの深さは0.40mである。

覆土は１層～７層に分けた。これらの層は断面形態および層相から、大きく１層（上層）、２～４層（中層群）、５～７層（下層群）の３群にまとめることができる。底面直上に堆積する下層群のうち、７層は基盤の段丘礫層由来の黄褐色土塊を含み、開口状態下での壁の崩壊土と推定できる。５・６層は黒ボク土を基質とし、特に５層は炭化物粒を多量に含むが、現状ではその成因は特定し難い。中層群の大半を占める４層と２層は下位の５層および上位の１層に比べ相対的に黒味が弱い。４層中には長さ10cmを越えるような大形の炭化材が層の傾斜に沿った状態で出土している。上層の１層は黒味の強い黒ボク土である。断面形態はいわゆるレンズ状を呈し、土坑の過半が埋没した後に残ったくぼみ、もしくは土坑埋没後に覆土が陥没して生じたくぼみに、旧表土が流入したものと想定する。

覆土中からは、上述した炭化材のほか、主として中層群および上層から、縄文時代前期中葉土器小破片約10点、石匙１点、スクレイパー１点、二次加工ある剥片１点、石核１点、剥片５点、砕片３点が出土している（第23図、第31図）。炭化材４点の樹種同定結果はいずれもクリ、同試料の$^{14}$C年代測定結果は、３点が補正年代600～670BP前後にまとまり（Code.No.IAAA-10185：620±50BP、同10186：600±50BP、同10187：670±50BP）、１点が1110±50BP（同10188）である。

本土坑は$^{14}$C代測定結果から、中近世に属する可能性があろう。その詳細な性格は不明である。

## ４　溝跡

**SD30溝跡**（第12図）

調査区北西側JS48区からKB47・48区にかけて位置する。SD40溝跡に切られる。

溝跡は総延長10.20m、最大幅0.73mで、東北東方向から西南西方向に向かってほぼ一直線状に延

びる。横断面形は浅い椀形を呈する。確認面からの深さは、中央から西南西寄りで最も深く、約0.20mである。両端側は次第に浅くなり、消失する。底面標高は東北東端側で138.2～138.3m前後、中央付近で138.0～138.1m前後、西北西端側で137.9～138.0m前後で、東北東側から西北西側に向かって傾斜している。

覆土は基盤の段丘礫層起源の黄褐色シルト粒を含む黒ボク土を基調とする。深い部分では下位に黄褐色シルト塊を含む暗褐色土が堆積する。ともに砂礫主体のラミナは認めることができず、流水下の堆積層とは想定できない。いずれも開口状態下で堆積したものと推定するが、その成因は不明である。

覆土からの出土遺物はない。そのほか、西北西端側の覆土中位から径20cm前後の円礫６点が出土している。現時点では、その性格は不明である。

本溝跡の時期・性格は不明である。

**SD40溝跡**（第12図）

調査区北西側JS48区からKA47区にかけて位置する。SD30溝跡を切る。

溝跡は一部削平されているが、推定総延長6.50m、最大幅0.30mで、北東方向から南西方向に向かってほぼ一直線状に延びる。横断面形は浅い椀形を呈する。確認面から底面までの深さは0.10m前後、底面標高は138.20～138.25m前後である。

覆土は基盤の段丘礫層起源の黄褐色シルト塊を多量に含む黒ボク土である。砂礫主体のラミナは認めることができず、流水下の堆積とは想定できない。開口状態下の堆積と推定するが、その成因は不明である。

覆土からの出土遺物はない。本溝跡の時期・性格は不明である。

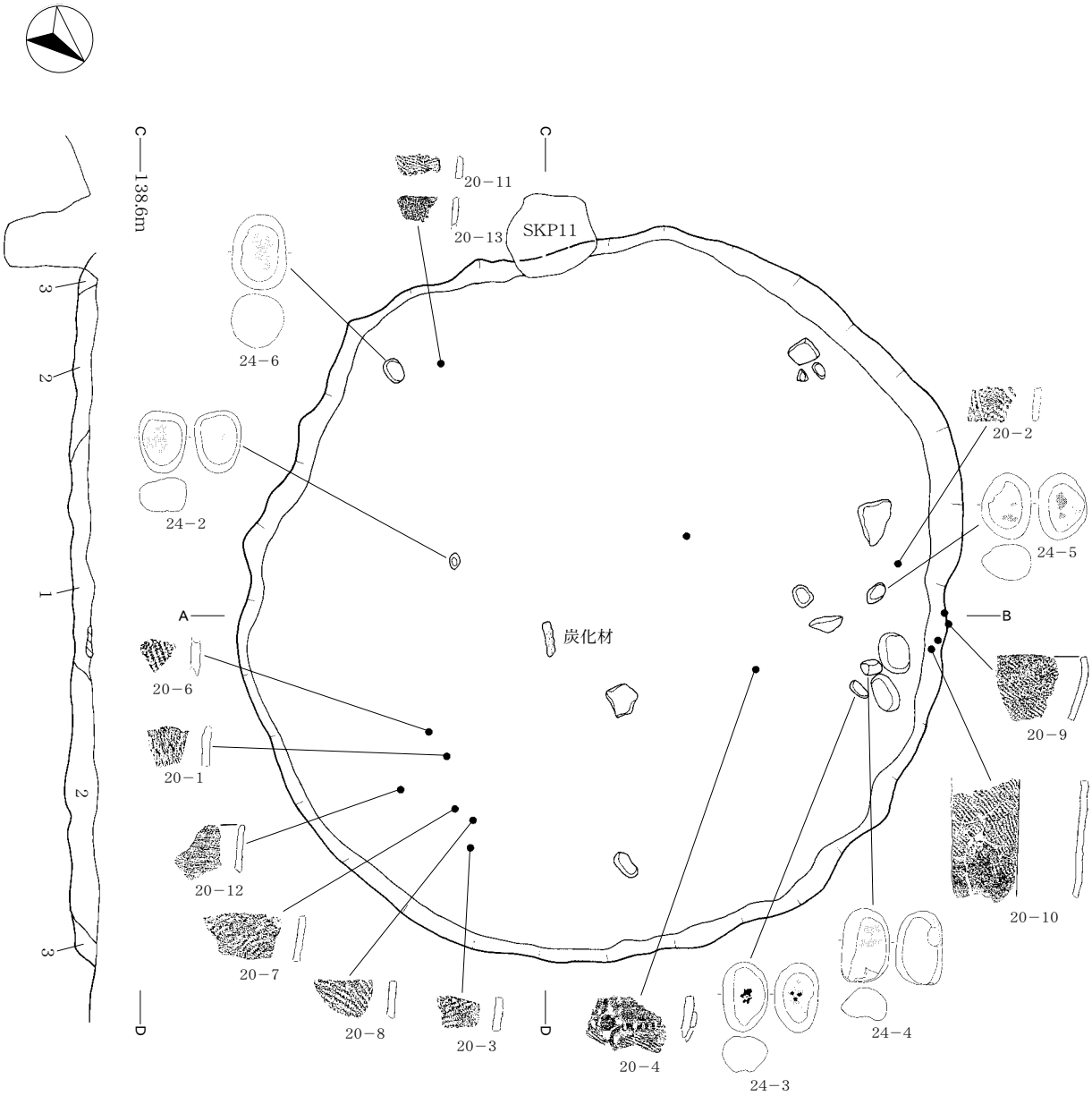
### ５　柱穴（小穴）（第13～19図）

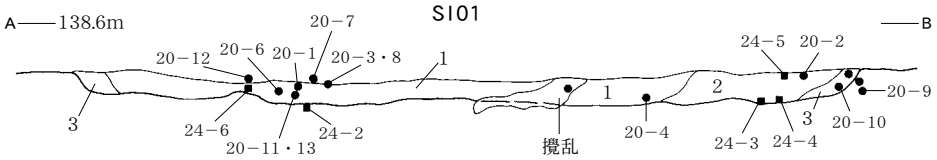
柱穴（小穴）は、その覆土が現表土（旧水田耕作土）もしくは水田床土に類似する例が大半である。このことから、当該例は水田開田以降、近現代に属する可能性が強い。柱穴群の配置は、水田区画に沿う可能性があるものも認めることができ、これらは水田に伴う施設の杭痕であろう。このほかには、建物跡状の規則的な配置を認めることはできない。以下では、一覧表を掲載するにとどめる（第３表）。

## 第３節　遺構外出土遺物（第32～35図）

今回の調査において、縄文土器が中コンテナ（容量18リットル）２箱約170点、石器類が中コンテナ２箱約90点出土した。調査区中央部は、近年の水田造成時に基盤の段丘礫層まで大きく削平されており、遺物もほとんど出土していない。遺物の大半は、JQライン以東の段丘崖際の盛土中からの出土である。また、調査区北東側には埋没谷が存在する。表土層中からは、磨滅した遺物が極少量出土したのみであった。このため、一部分のみを谷底まで掘り下げたが、遺物はまったく出土せず、遺物包含層を認めることはできなかった。

註１　当該資料は、取り上げ時に大きく破損し、図示していない。




SI01

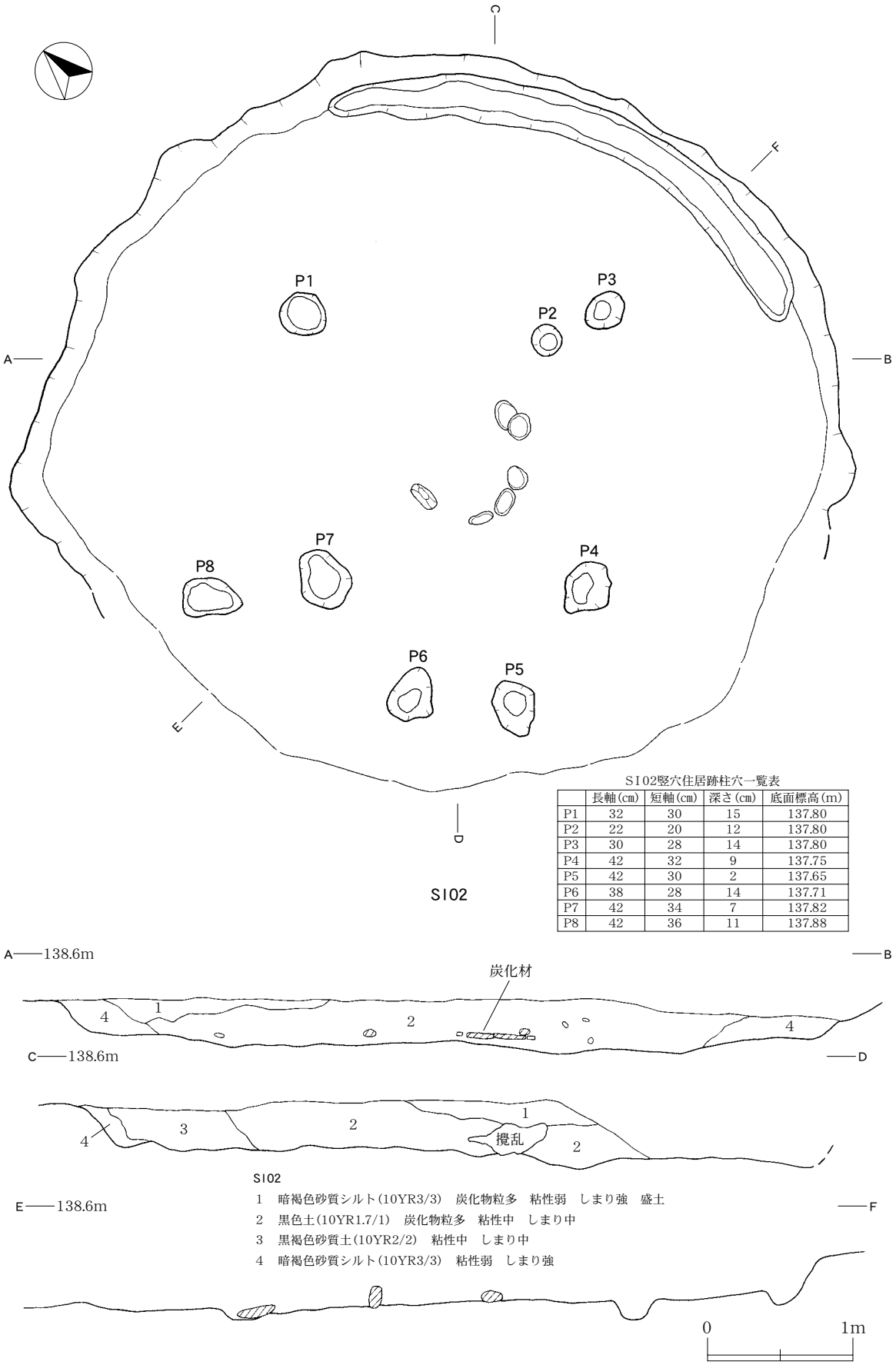
1　黒褐色砂質土(10YR2/2)　焼土粒多　炭化物粒多　粘性弱　しまり強

2　黒褐色砂質土(10YR2/3)　炭化物粒少　粘性弱　しまり強

3　暗褐色砂質シルト(10YR3/3)　粘性弱　しまり強

0　1m

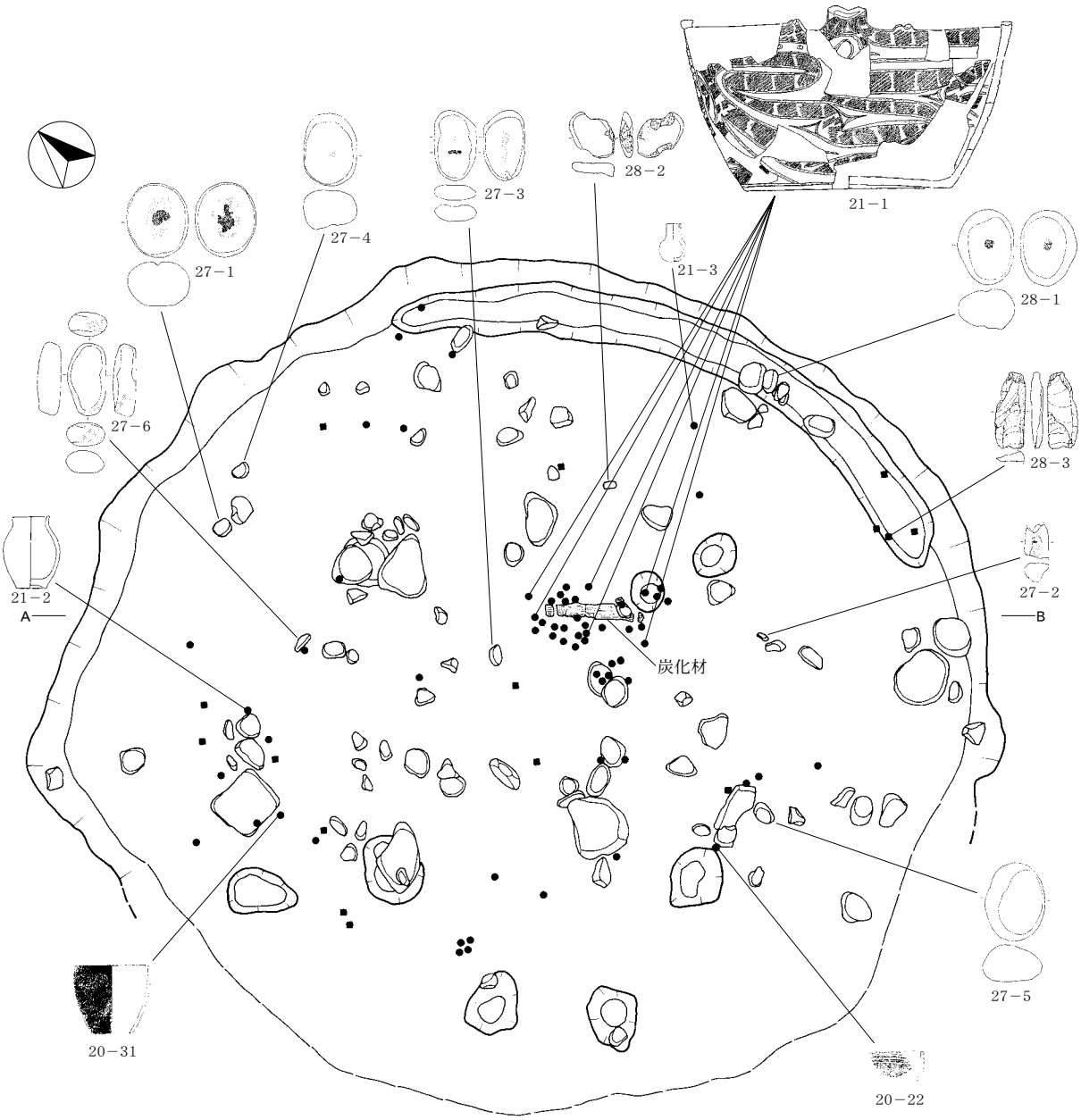
第５図　SI01竪穴住居跡

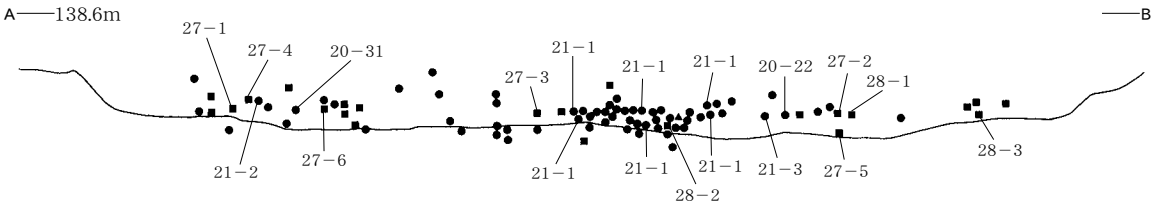



SI02竪穴住居跡柱穴一覧表

| | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 底面標高(m) |
|---|---|---|---|---|
| P1 | 32 | 30 | 15 | 137.80 |
| P2 | 22 | 20 | 12 | 137.80 |
| P3 | 30 | 28 | 14 | 137.80 |
| P4 | 42 | 32 | 9 | 137.75 |
| P5 | 42 | 30 | 2 | 137.65 |
| P6 | 38 | 28 | 14 | 137.71 |
| P7 | 42 | 34 | 7 | 137.82 |
| P8 | 42 | 36 | 11 | 137.88 |

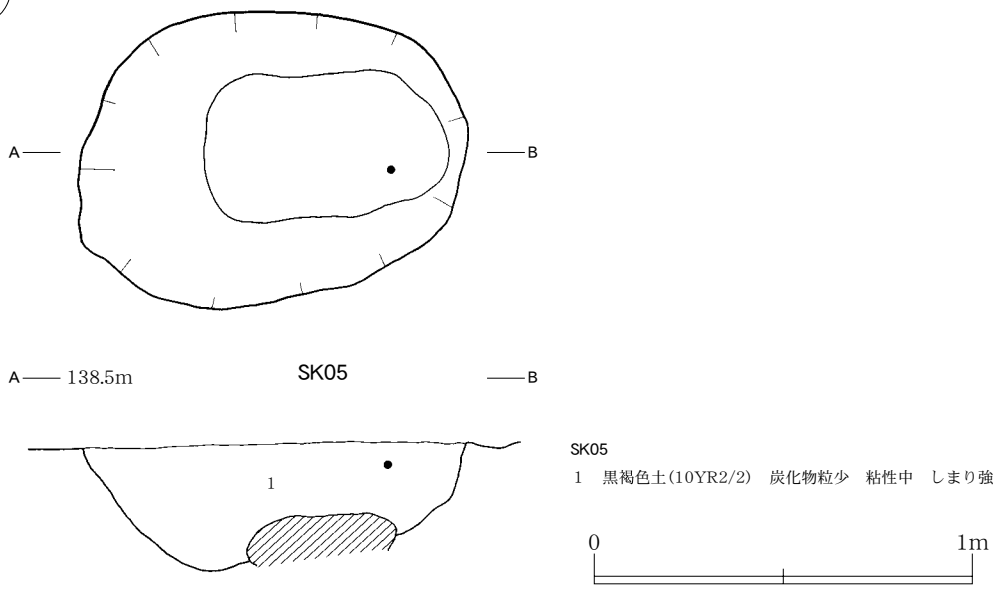
**第６図　SI02竪穴住居跡（１）**



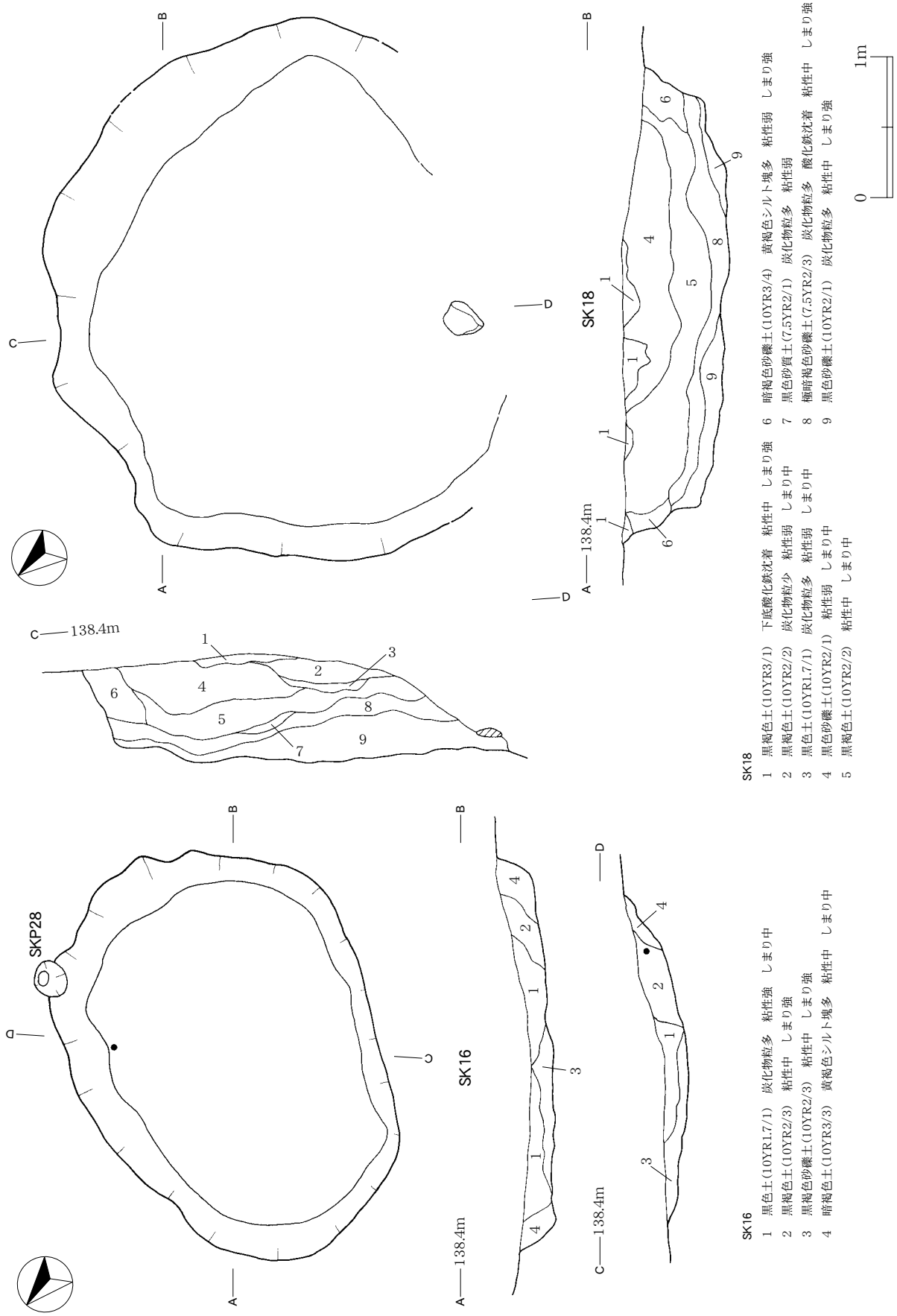
第７図　SI02竪穴住居跡（２）

SK03
1　黒褐色砂礫土(10YR2/2)　粘性中　しまり中
2　暗褐色砂礫土(10YR3/4)　粘性中　しまり中

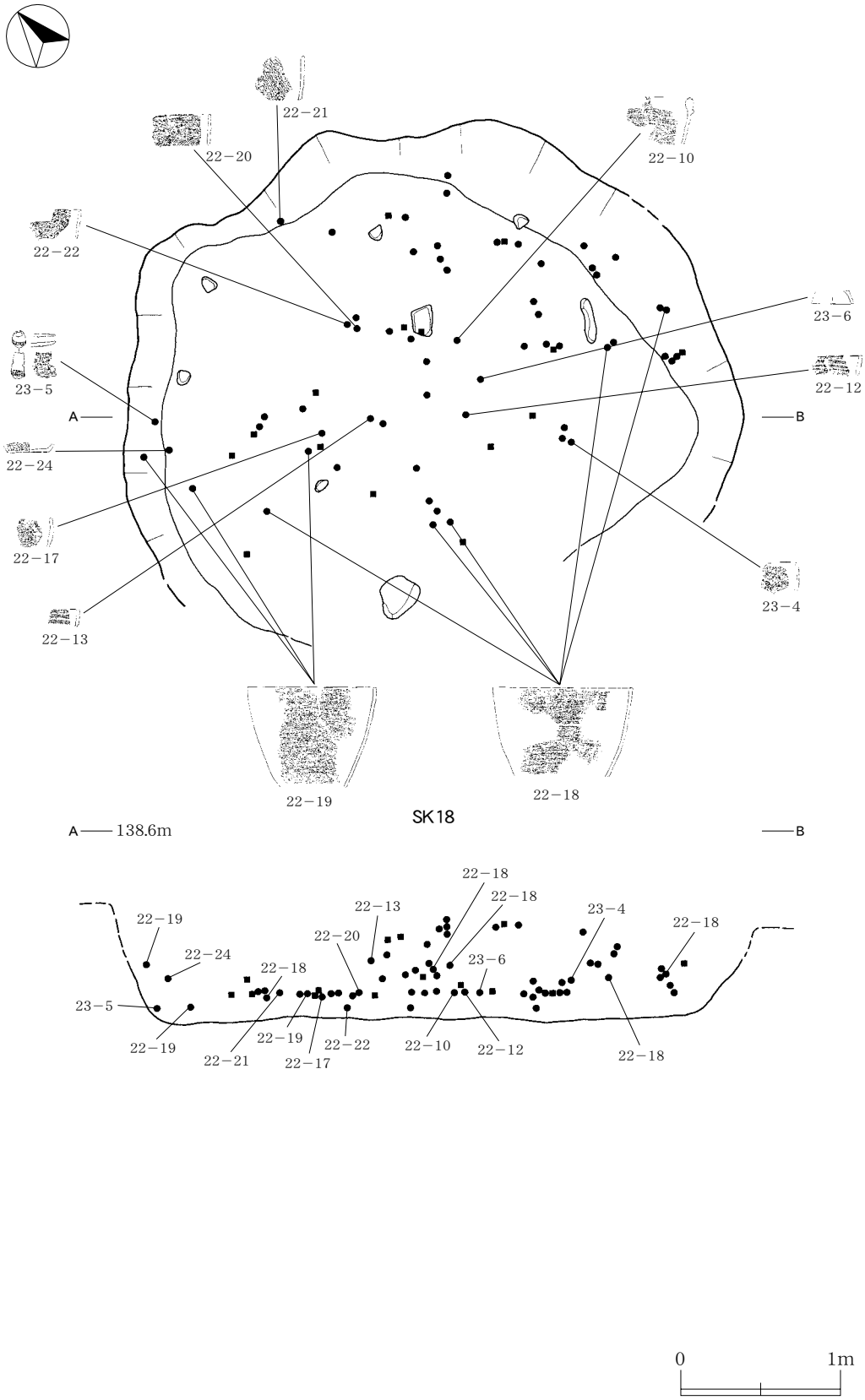



SK05
1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物粒少　粘性中　しまり強

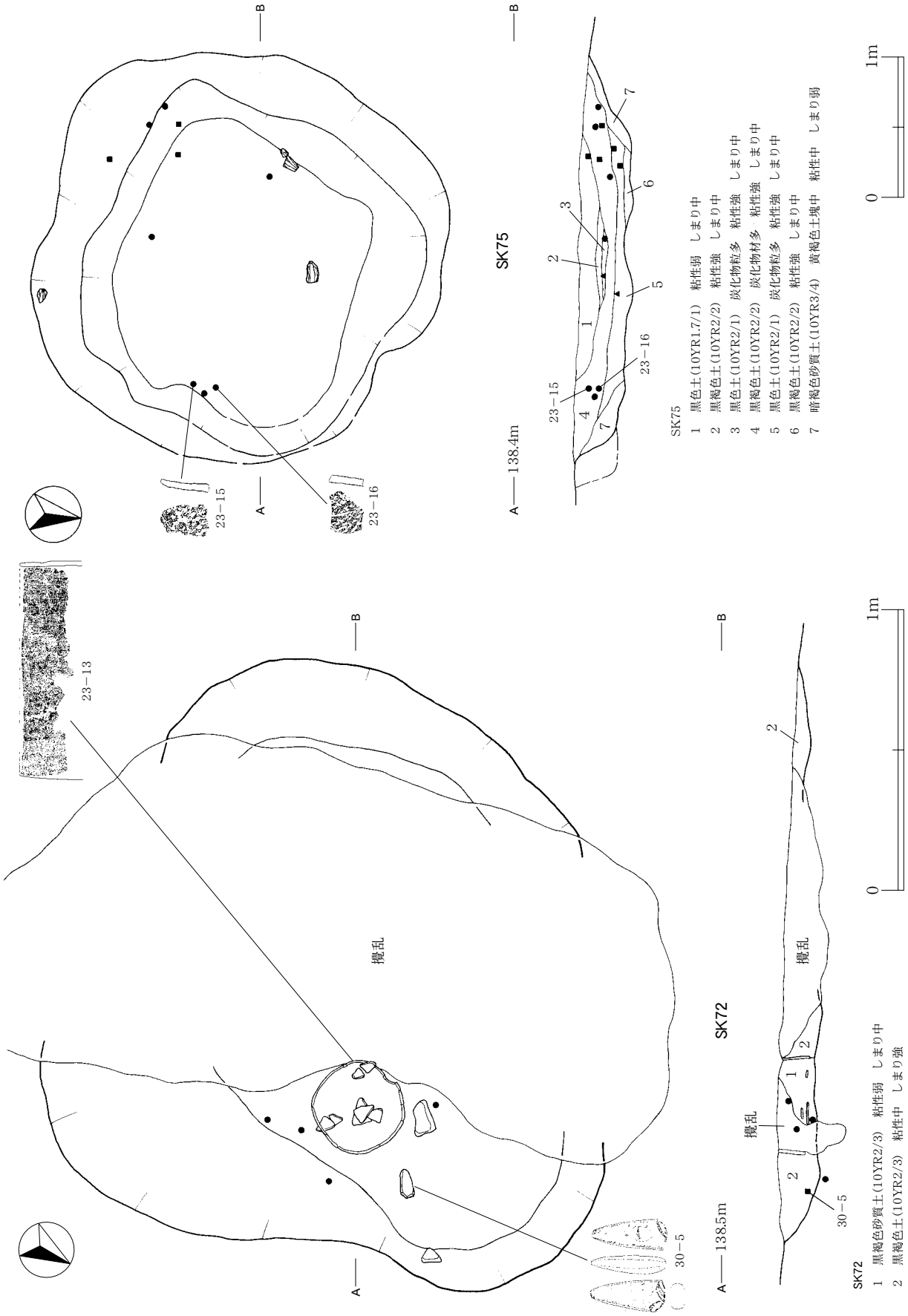
**第８図　SK03・SK05土坑**



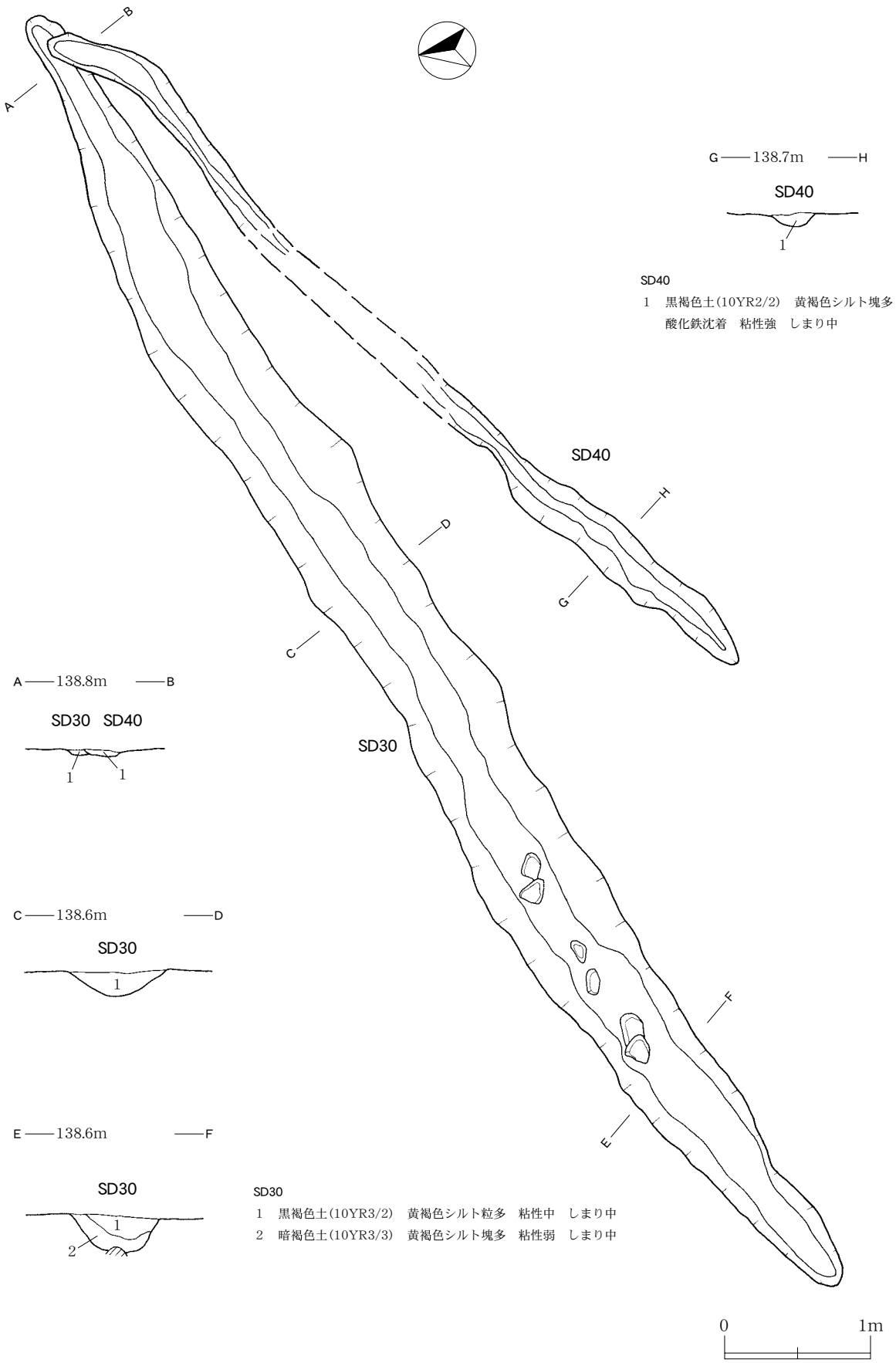

第９図　SK16・SK18土坑（１）



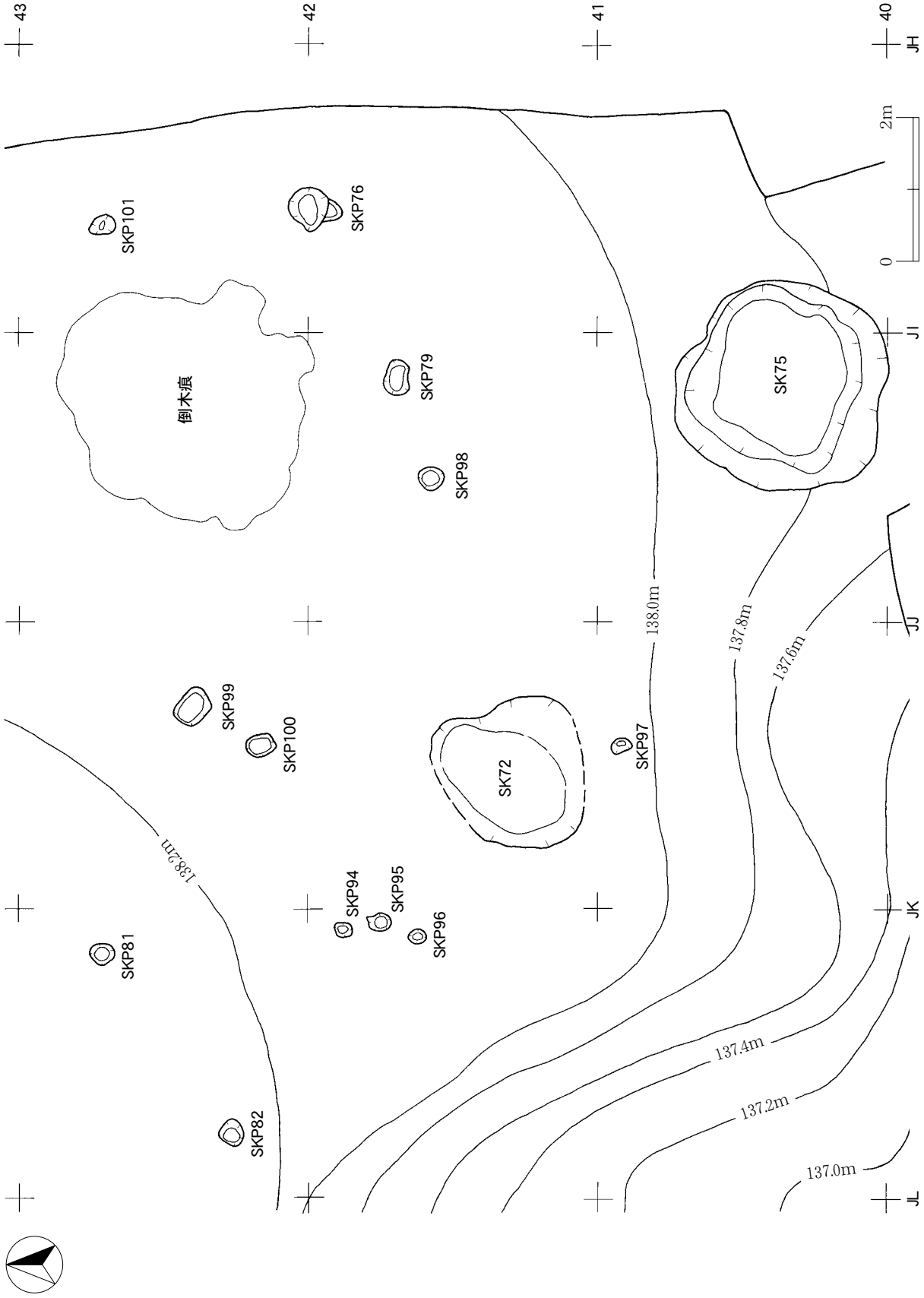

第10図　SK18土坑（２）



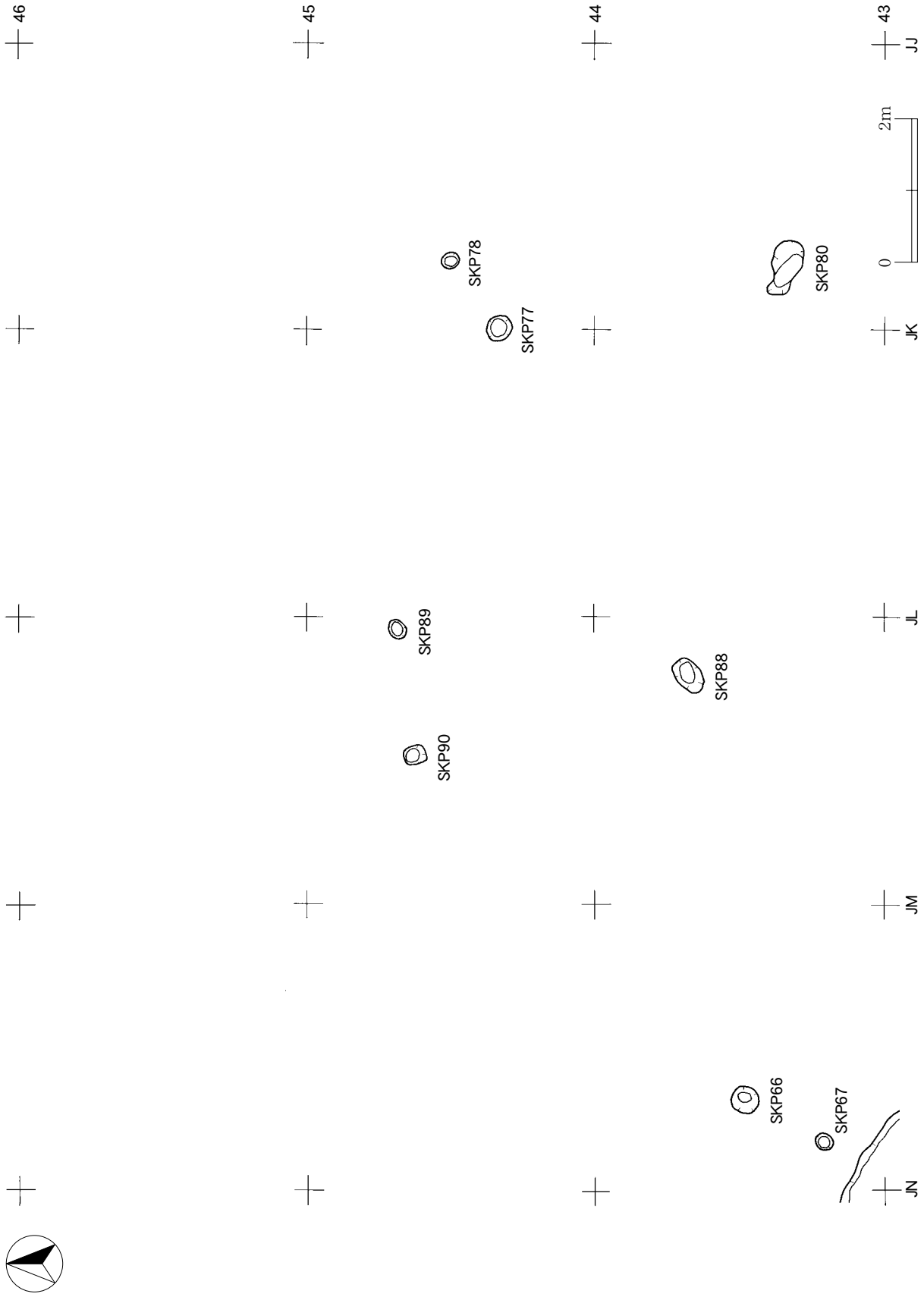

第11図　SK72・SK75土坑



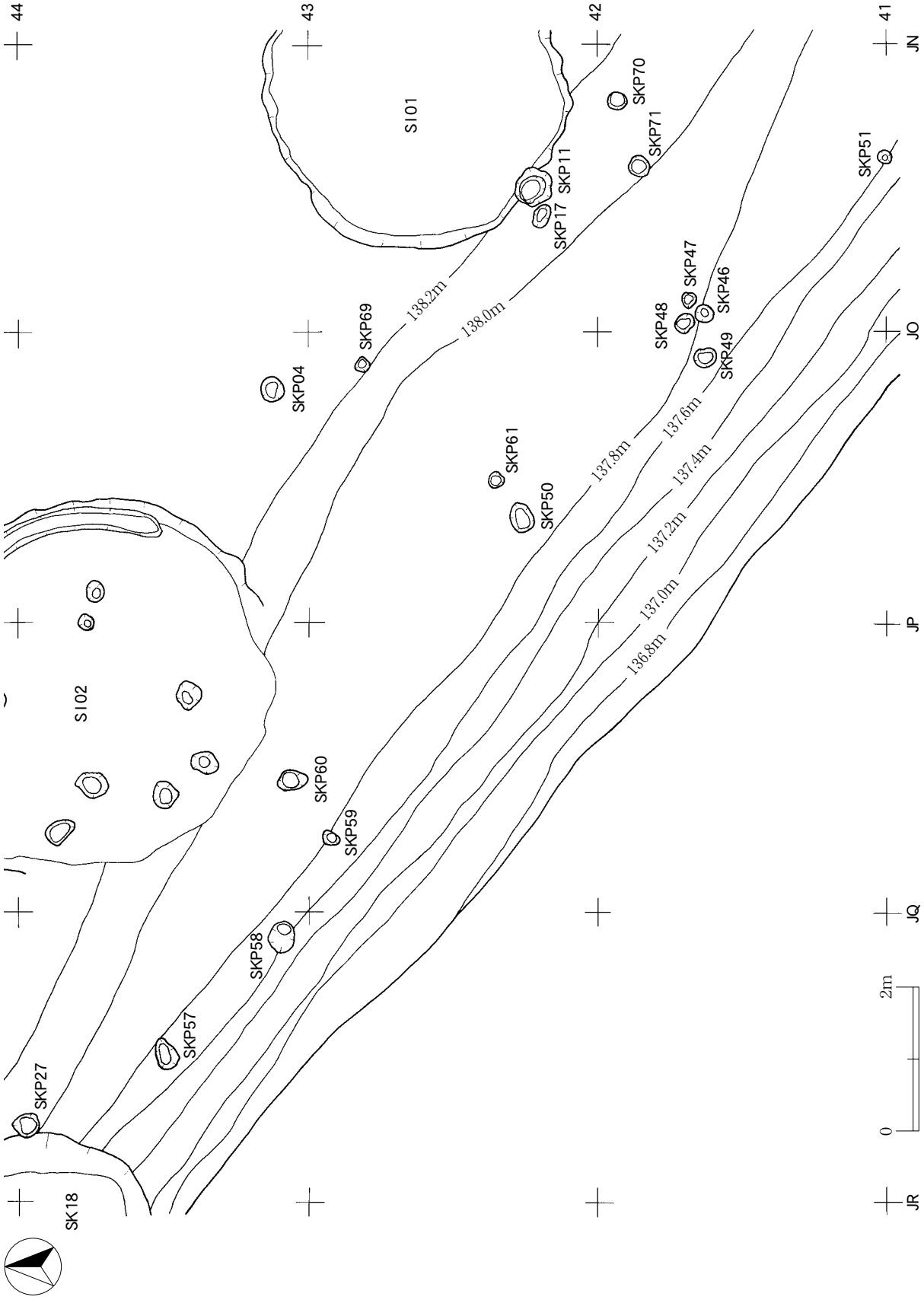

**第12図　SD30・SD40溝跡**


43
42
41
40
JH
JI
JJ
JK
JL
2m
0
SKP101
SKP76
倒木痕
SKP79
SKP98
SK75
138.0m
137.8m
137.6m
SKP99
SKP100
SK72
SKP97
138.2m
SKP94
SKP95
SKP96
SKP81
137.4m
137.2m
SKP82
137.0m

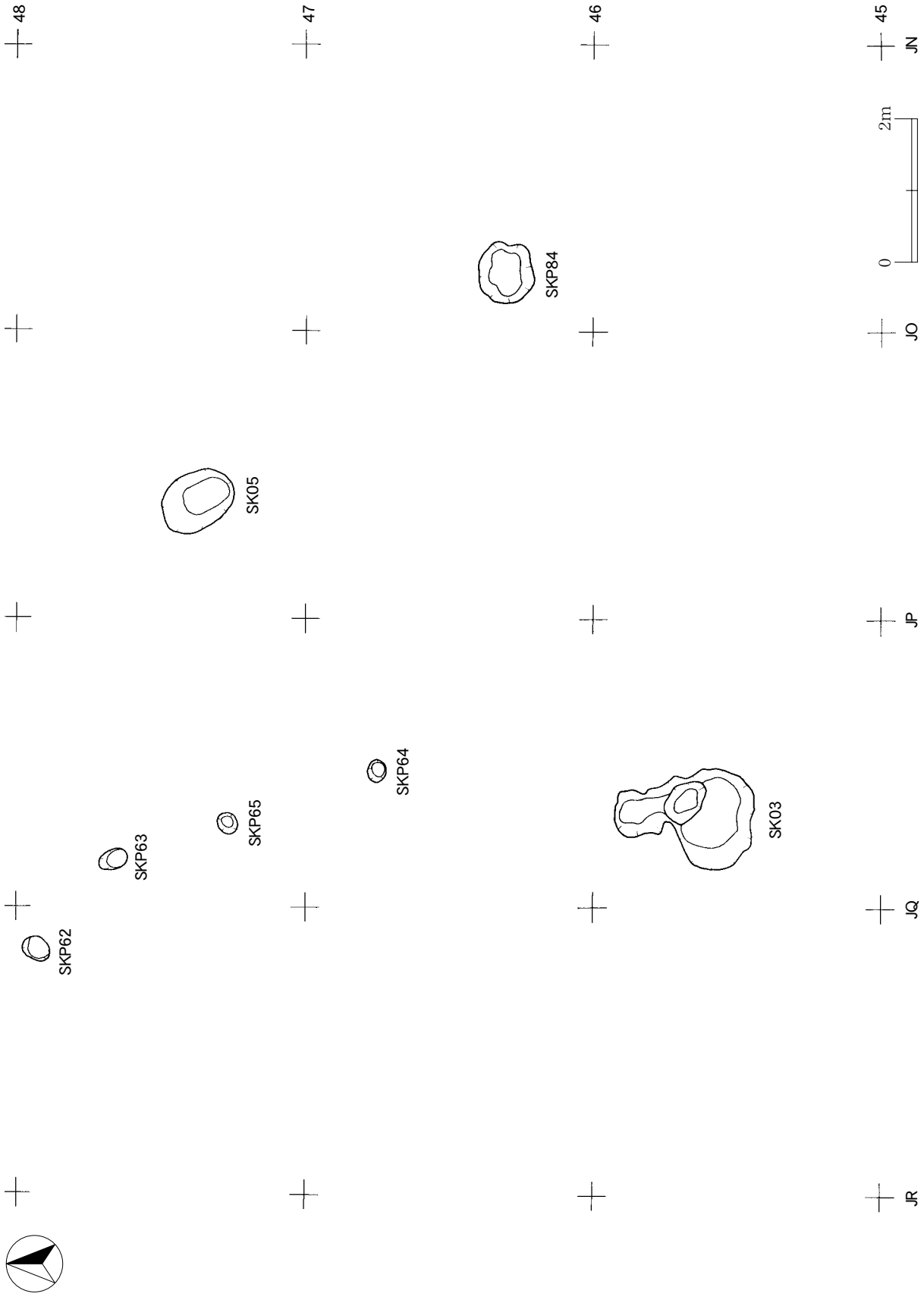
第13図　柱穴配置図（１）


46
45
44
43
JJ
2m
0
SKP78
SKP77
SKP80
JK
JL
SKP89
SKP90
SKP88
JM
SKP66
SKP67
JN

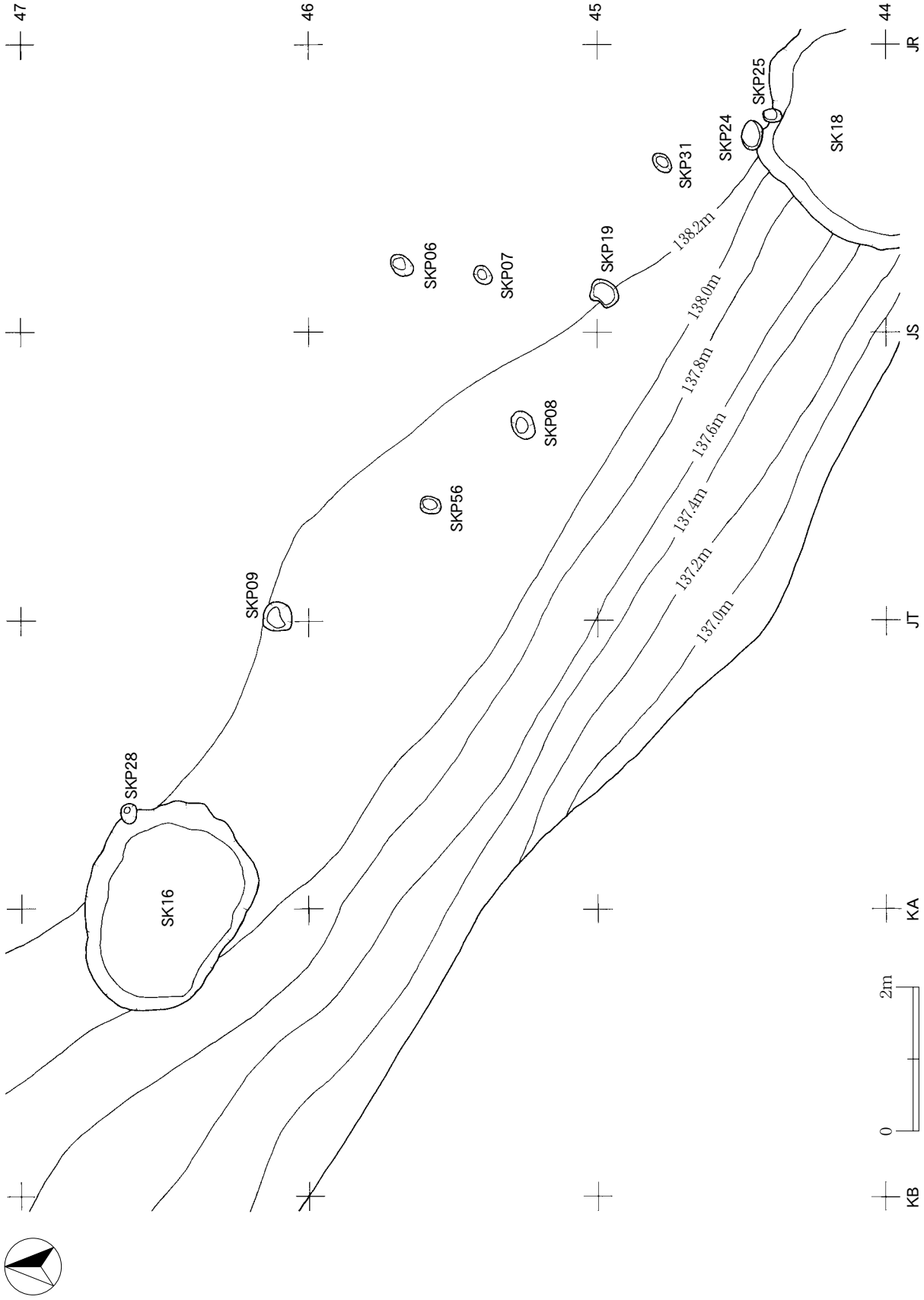
第14図　柱穴配置図（２）


44
43
42
41
JN
JO
JP
JQ
JR
SI01
SI02
SK18
SKP27
SKP57
SKP58
SKP59
SKP60
SKP04
SKP69
SKP61
SKP50
SKP48
SKP47
SKP46
SKP49
SKP17
SKP11
SKP70
SKP71
SKP51
138.2m
138.0m
137.8m
137.6m
137.4m
137.2m
137.0m
136.8m
0
2m

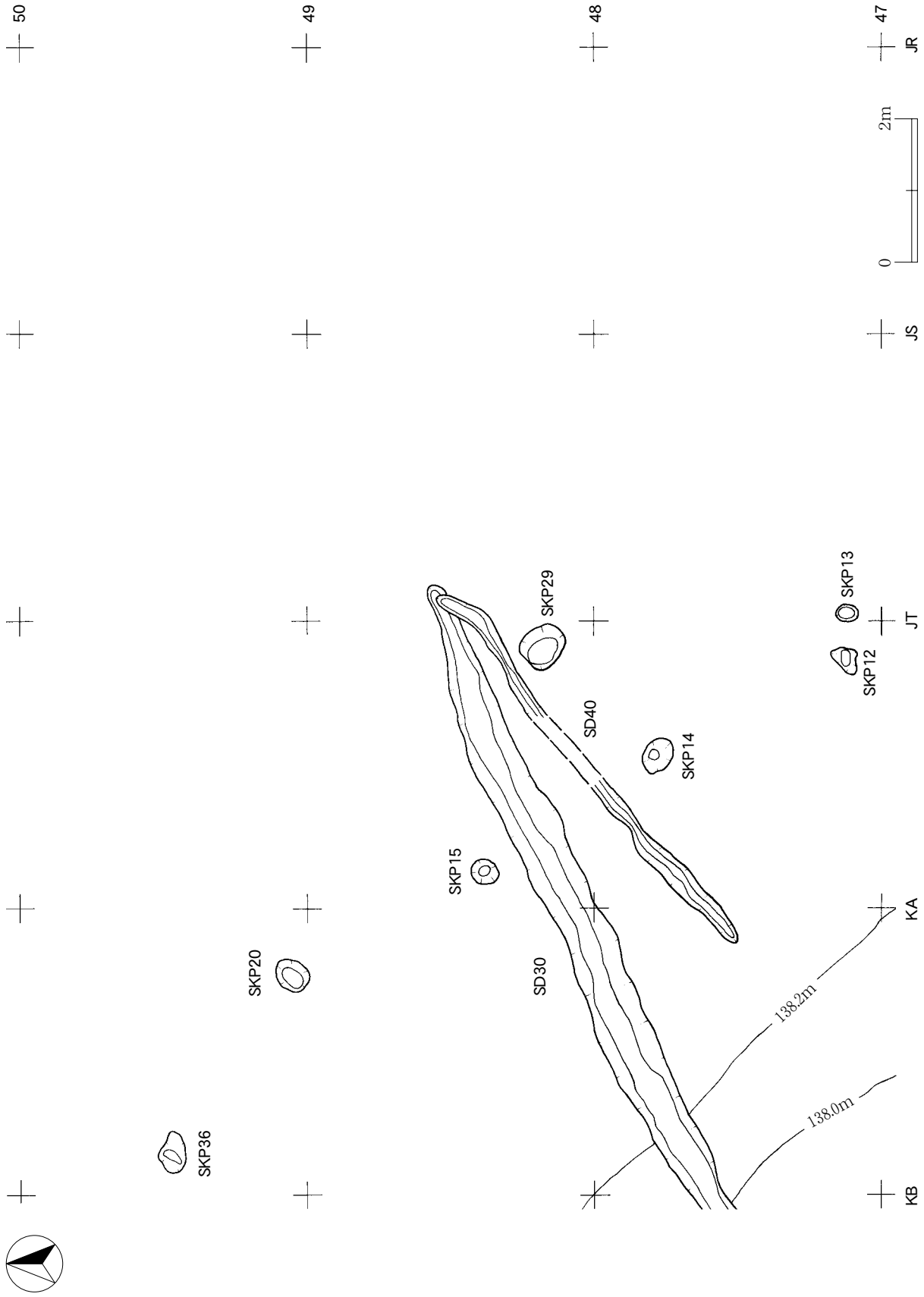
第15図　柱穴配置図（３）


48
47
46
45
JN
JO
JP
JQ
JR
0
2m
SKP84
SK05
SKP64
SKP65
SKP63
SKP62
SK03

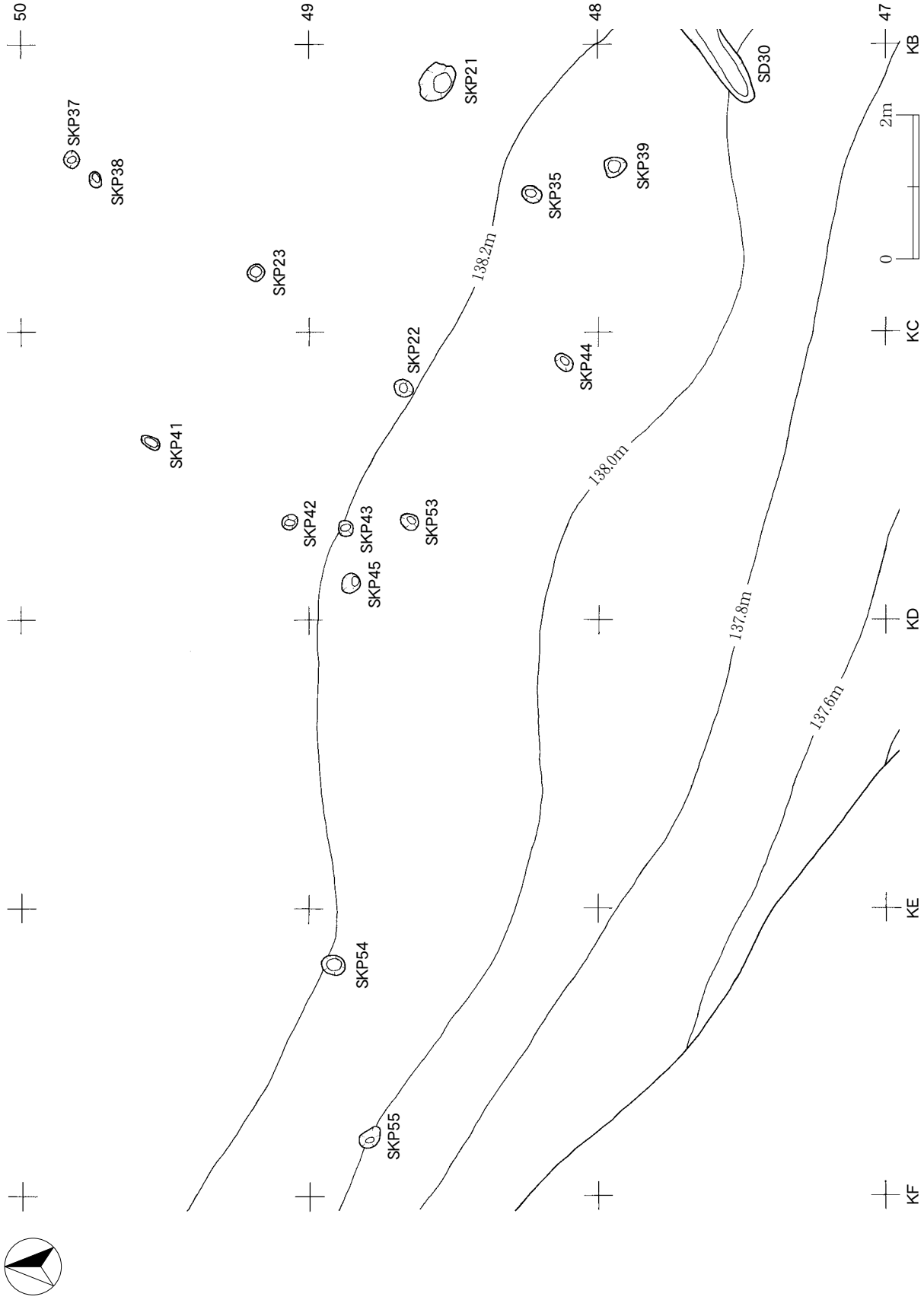
第16図　柱穴配置図（４）


47
46
45
44
JR
JS
JT
KA
KB
SKP25
SKP24
SK18
SKP31
SKP19
138.2m
138.0m
137.8m
137.6m
137.4m
137.2m
137.0m
SKP06
SKP07
SKP08
SKP56
SKP09
SKP28
SK16
0
2m

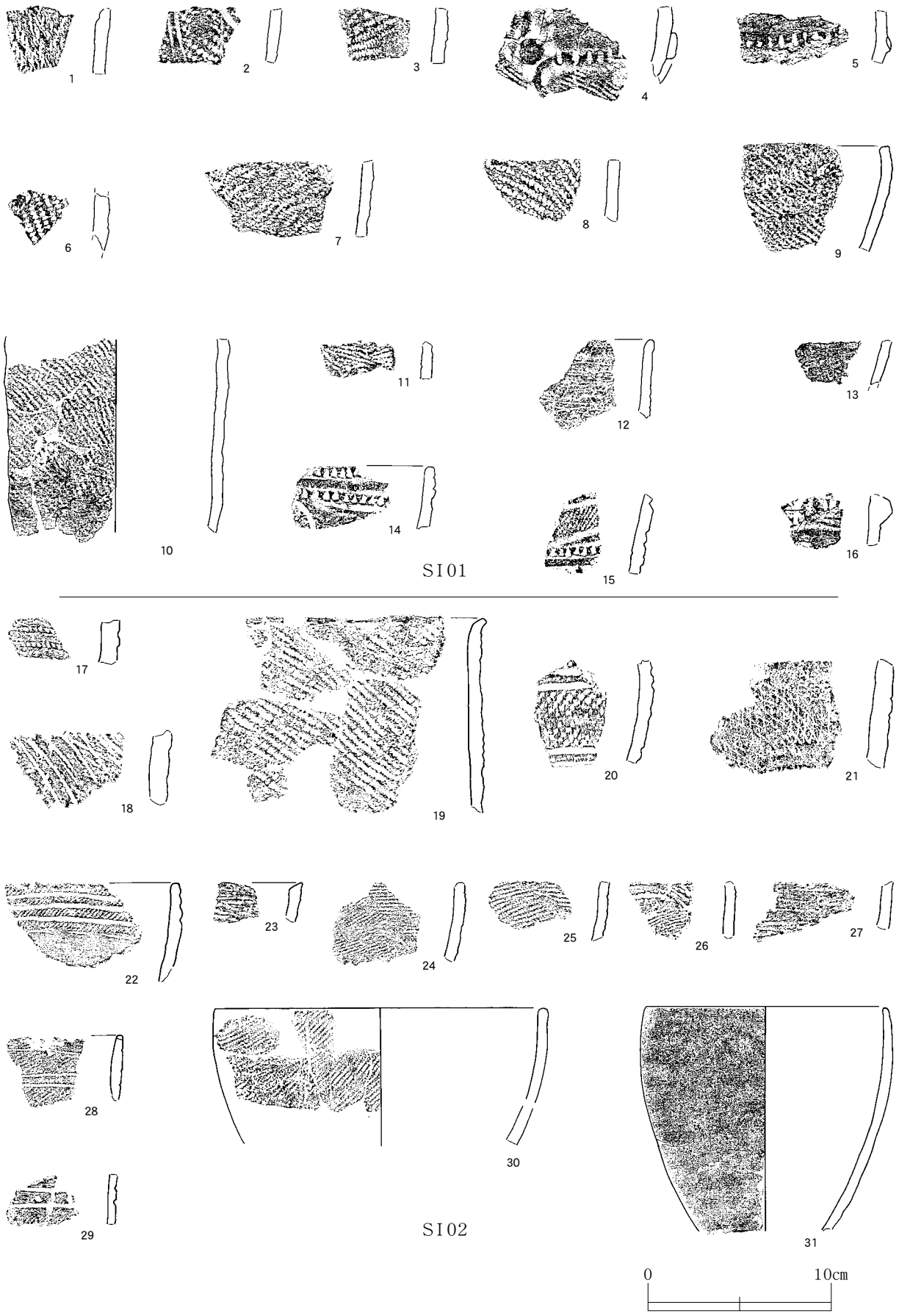
第17図　柱穴配置図（５）


50
49
48
47
JR
JS
JT
KA
KB
0
2m
SKP36
SKP20
SKP15
SD30
SD40
SKP29
SKP14
SKP12
SKP13
138.2m
138.0m

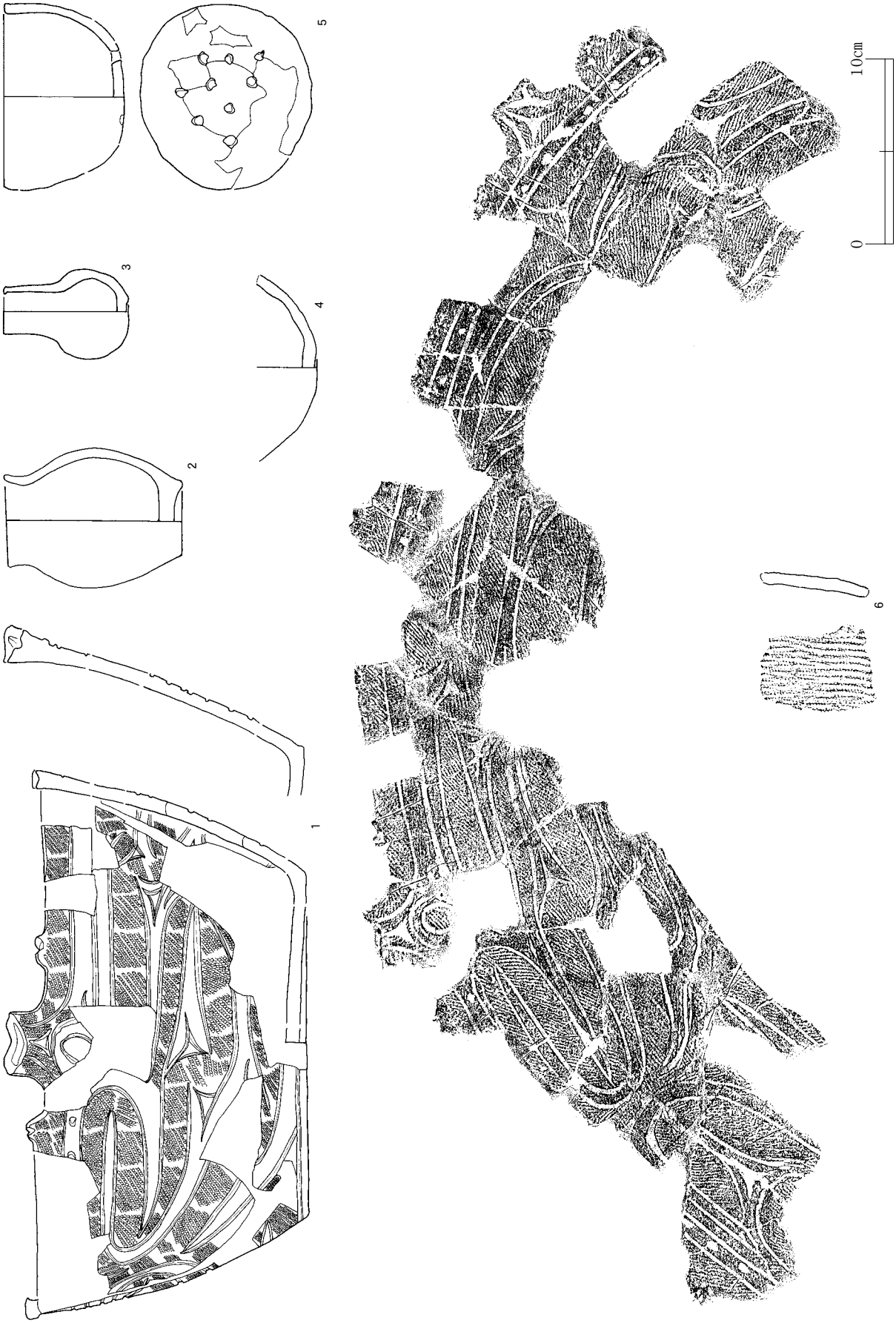
第18図　柱穴配置図（６）


50
49
48
47
KB
KC
KD
KE
KF
SKP37
SKP38
SKP41
SKP23
SKP42
SKP43
SKP45
SKP54
SKP55
SKP22
SKP53
SKP21
SKP35
SKP44
SKP39
SD30
138.2m
138.0m
137.8m
137.6m
0
2m

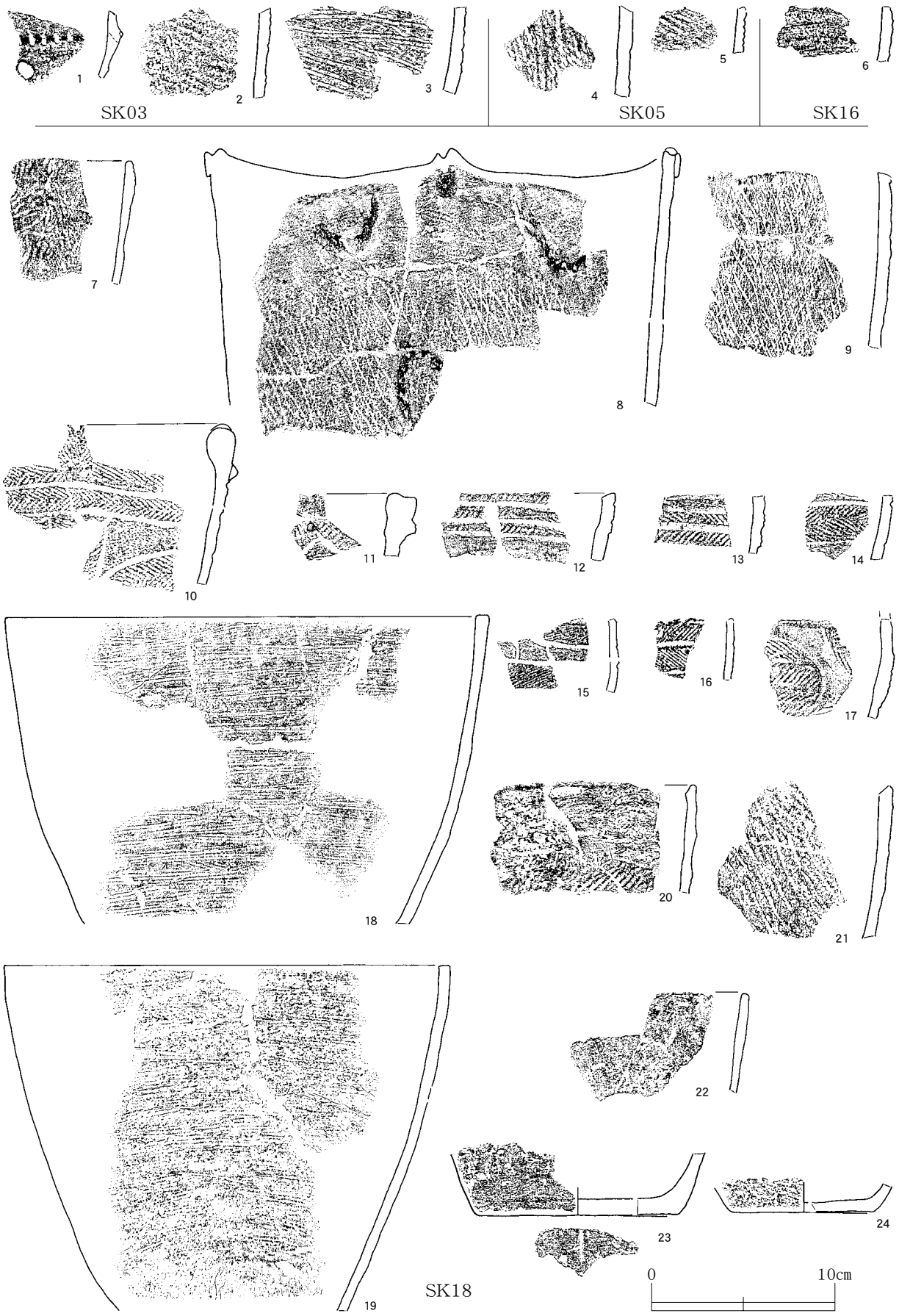
第19図　柱穴配置図（７）



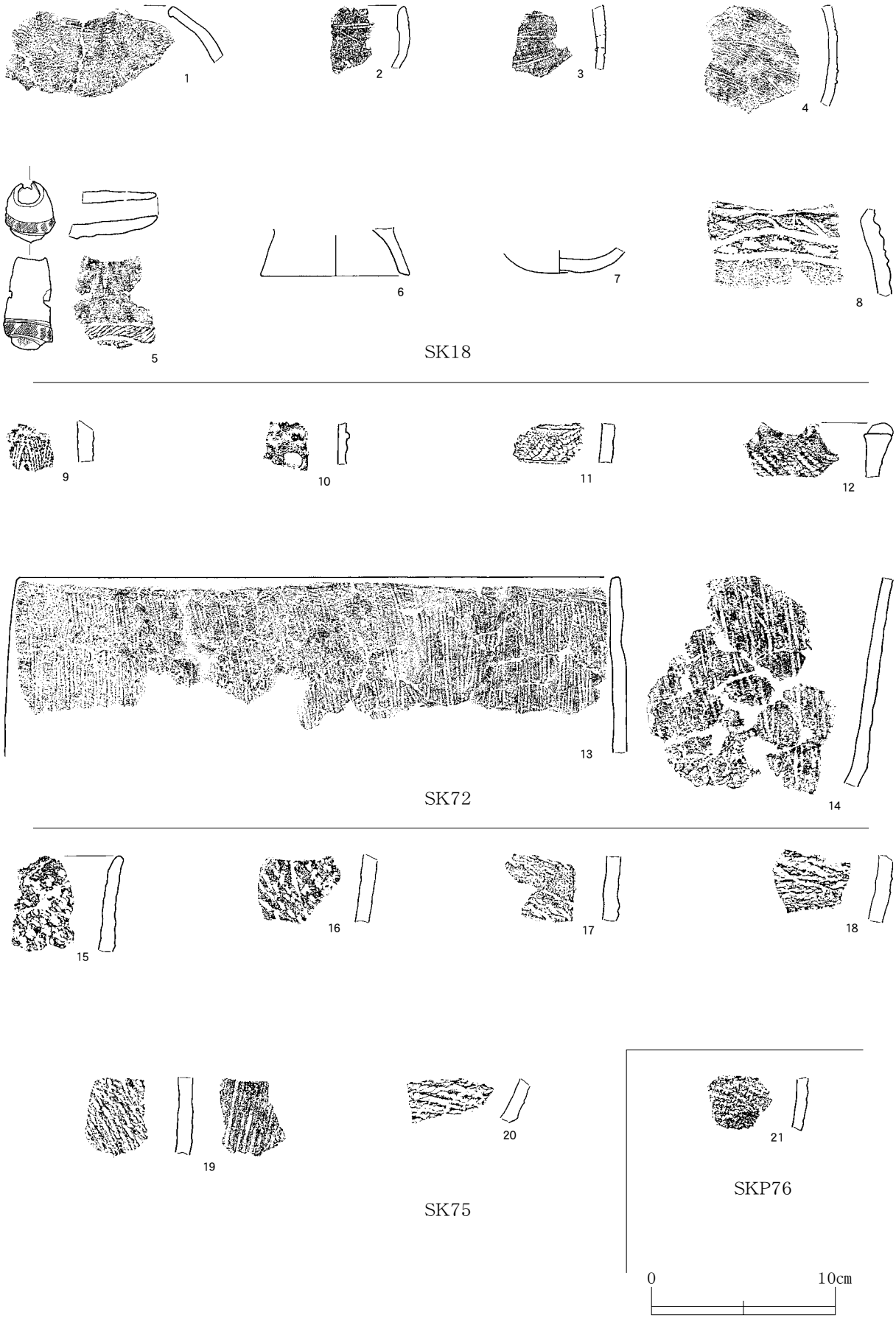

**第20図　遺構内出土土器類（１）**　(SI01・SI02①)



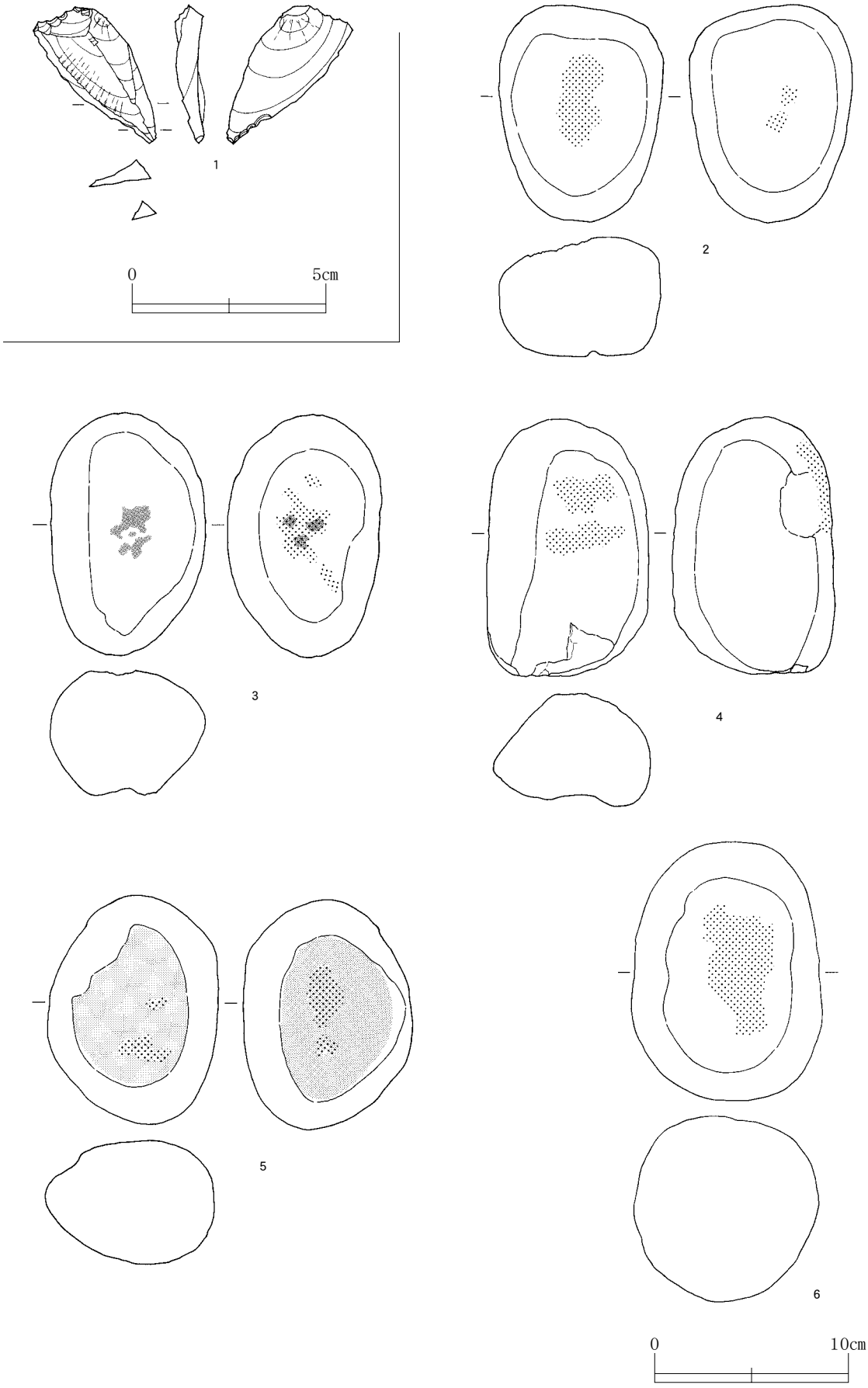

**第21図　遺構内出土土器類（２）**　(SI02②)



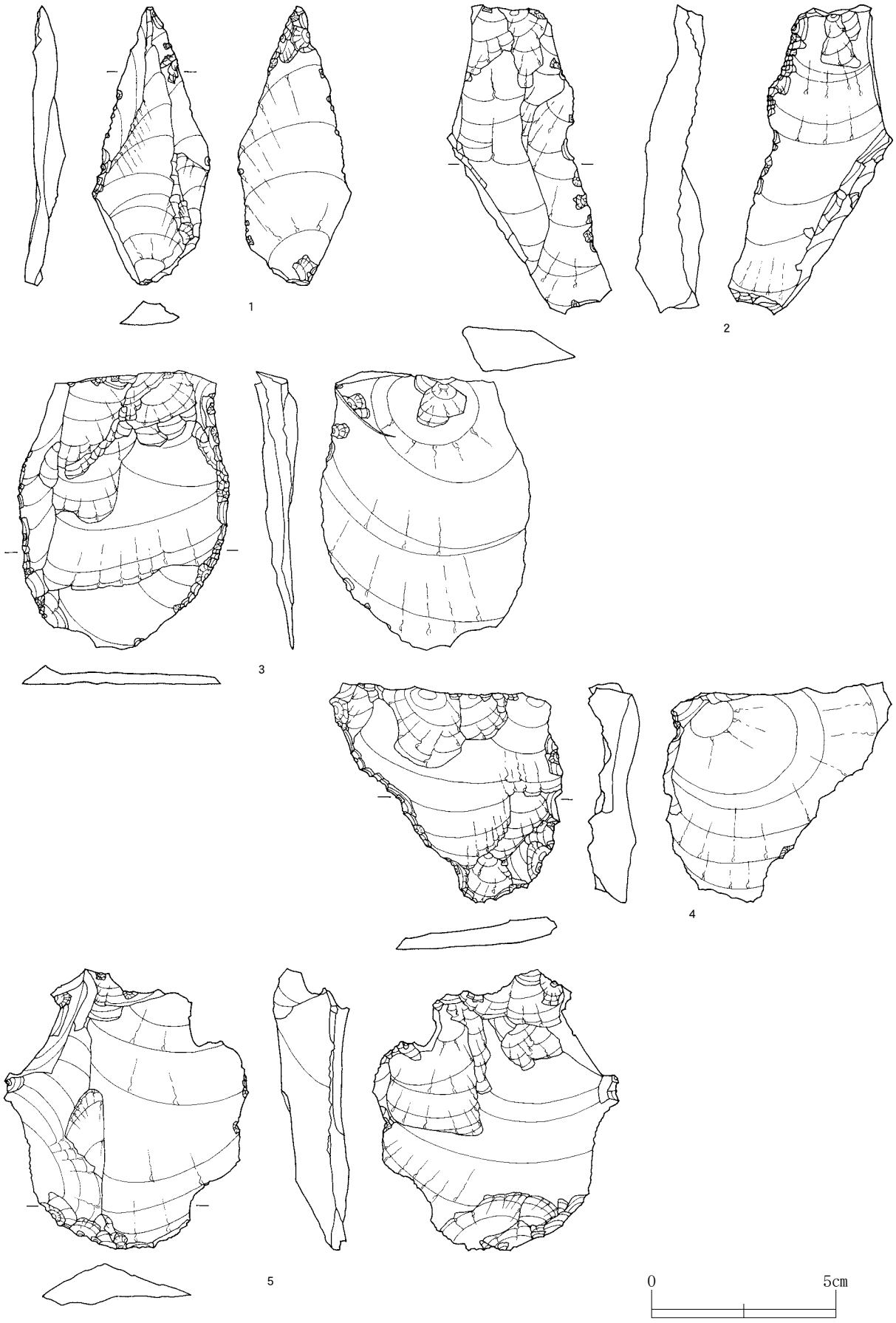

**第22図　遺構内出土土器類（３）**　(SK03・SK05・SK16・SK18①)



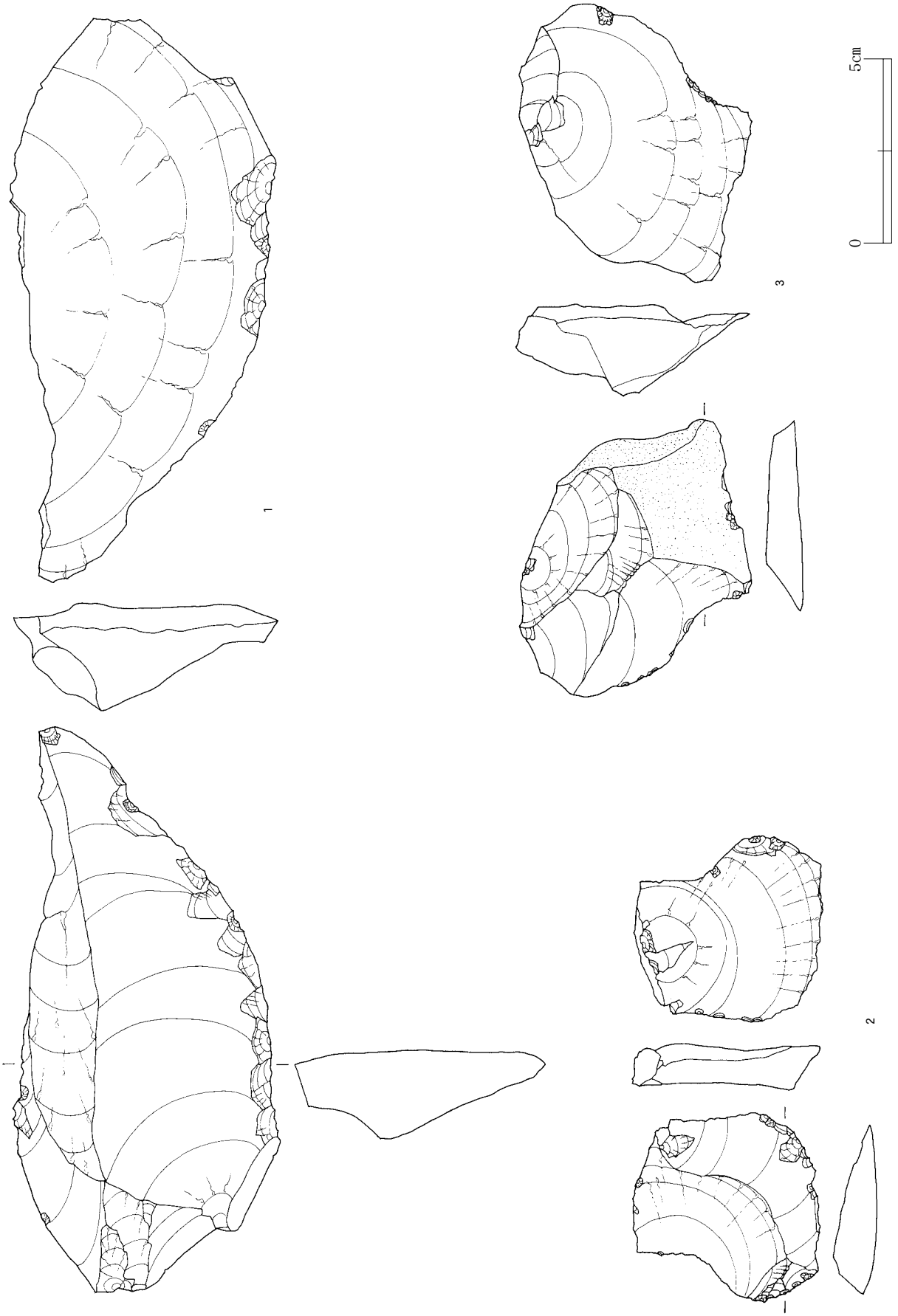

**第23図　遺構内出土土器類（４）**　(SK18②・SK72・SK75、SKP76)



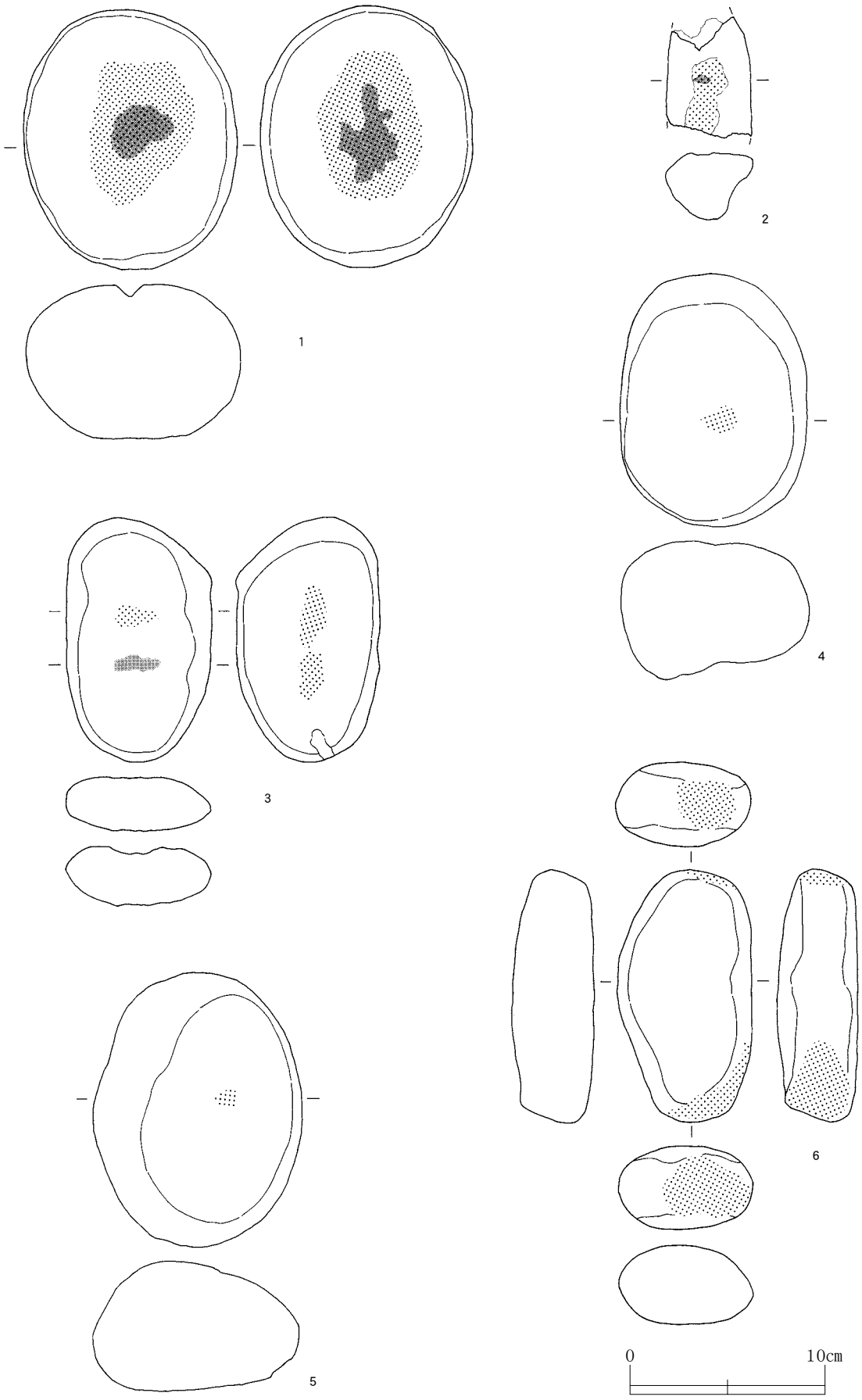

**第24図　遺構内出土石器類（１）**　(SI01)



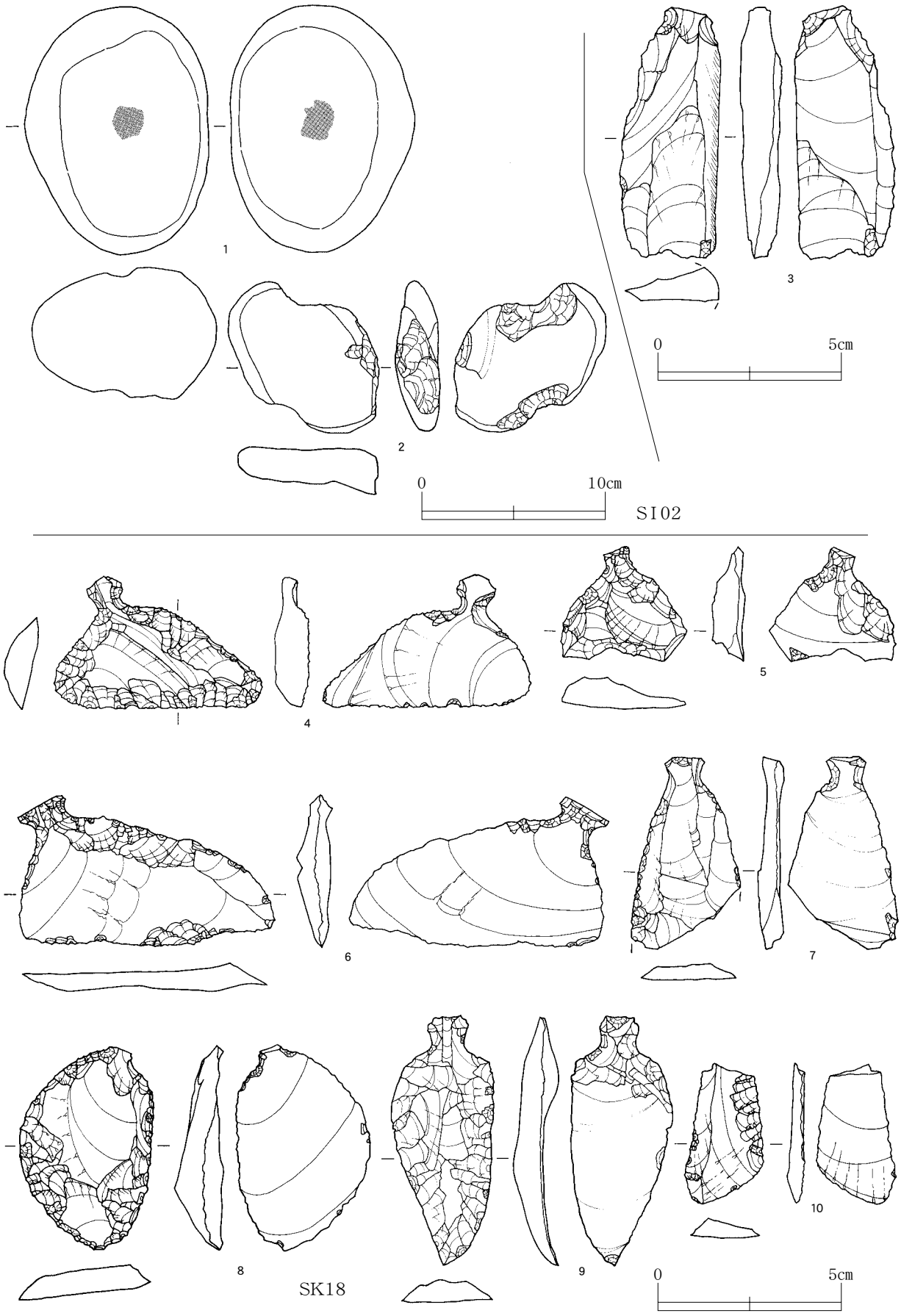

**第25図　遺構内出土石器類（２）**　(SI02①)



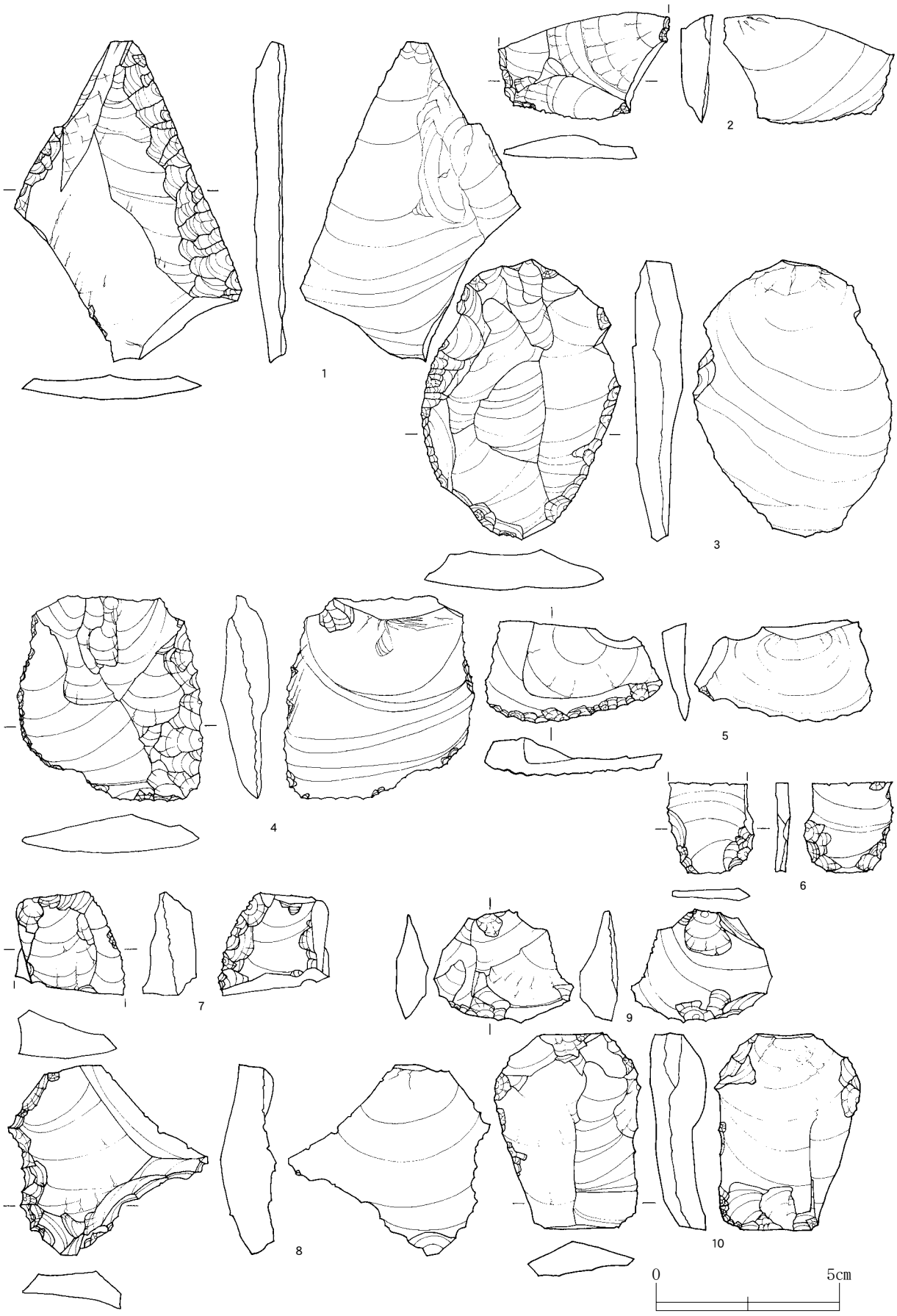

**第26図　遺構内出土石器類（３）**　(SI02②)



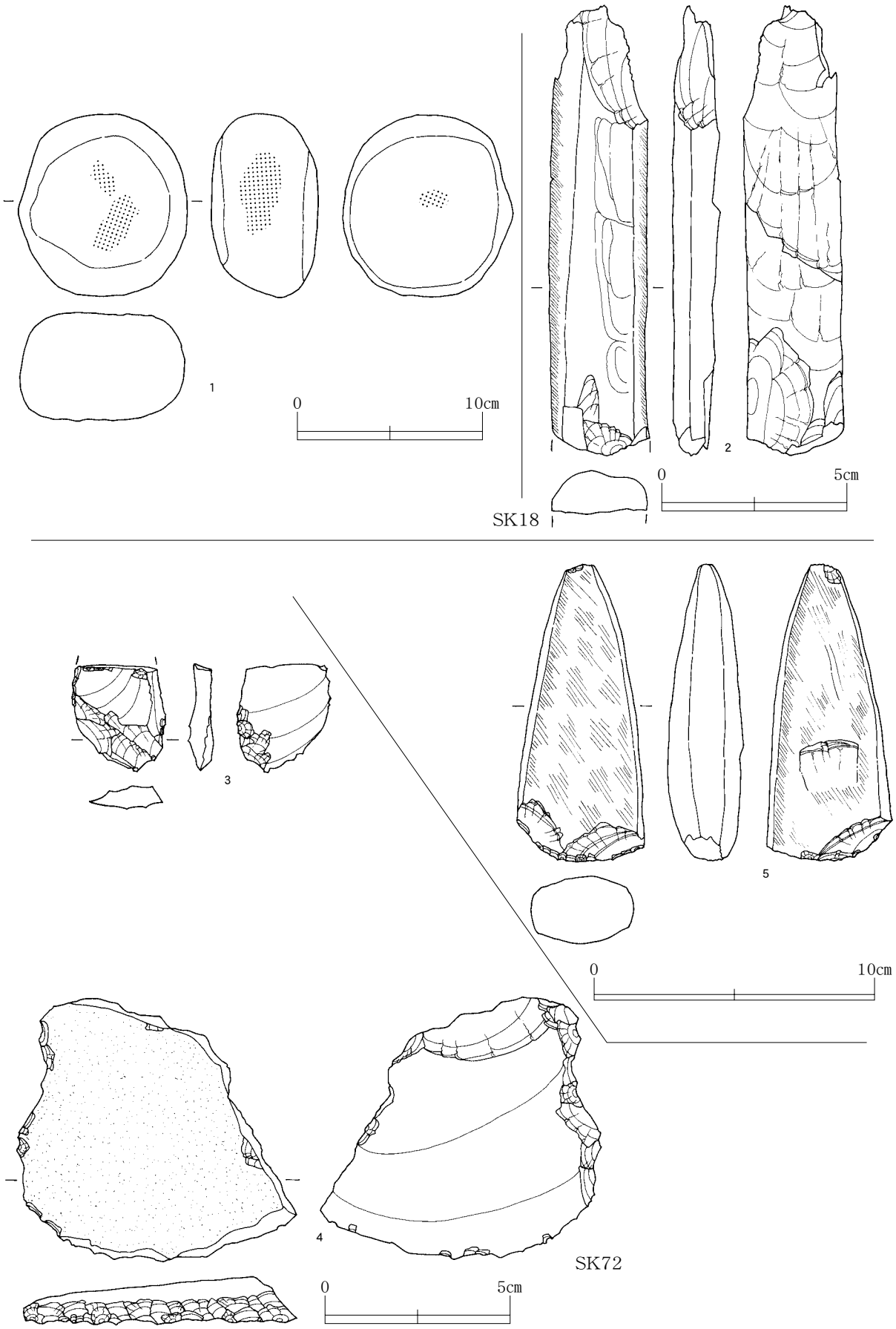

**第27図　遺構内出土石器類（４）**　(SI02③)



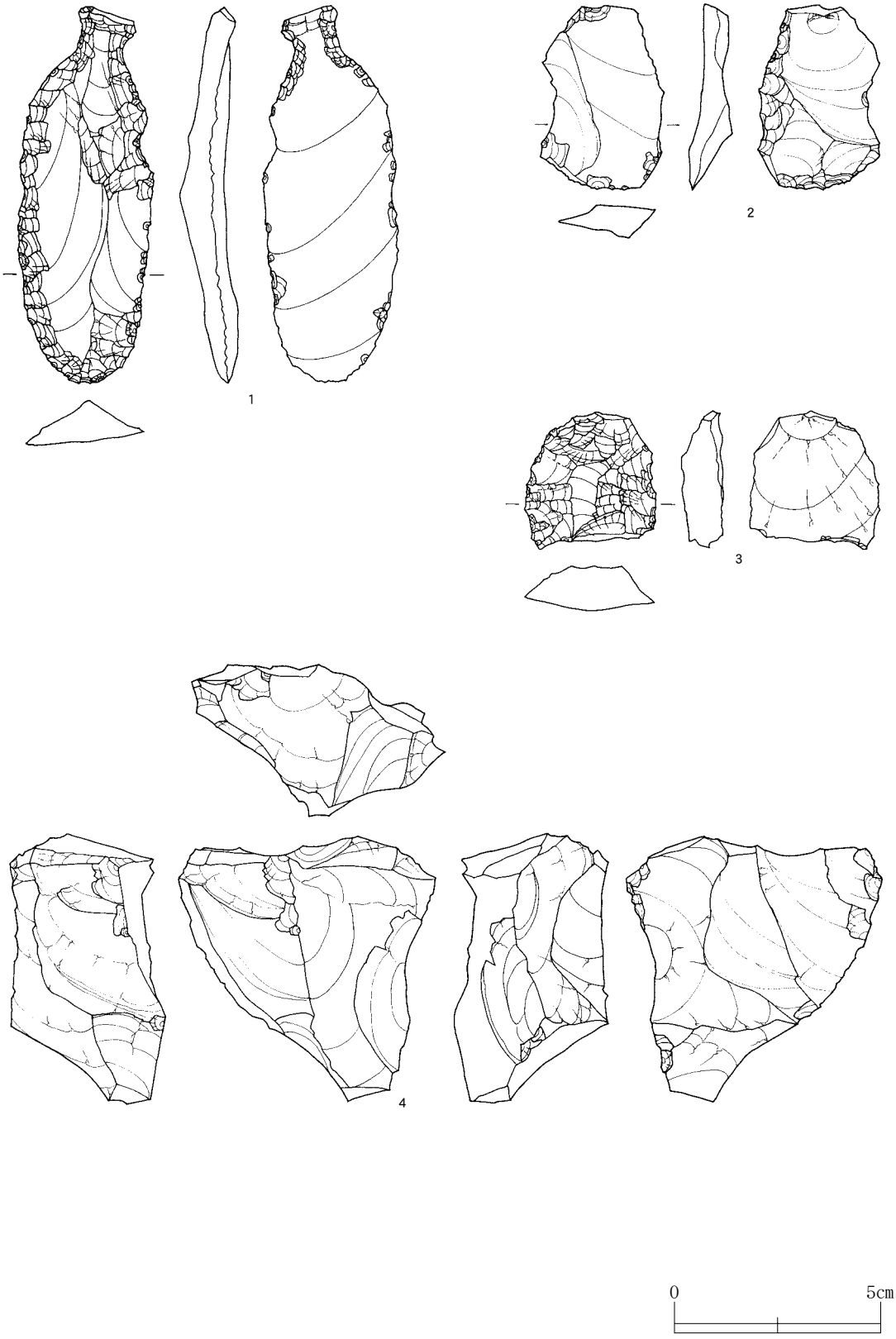

**第28図　遺構内出土石器類（５）**　(SI02④、SK18①)



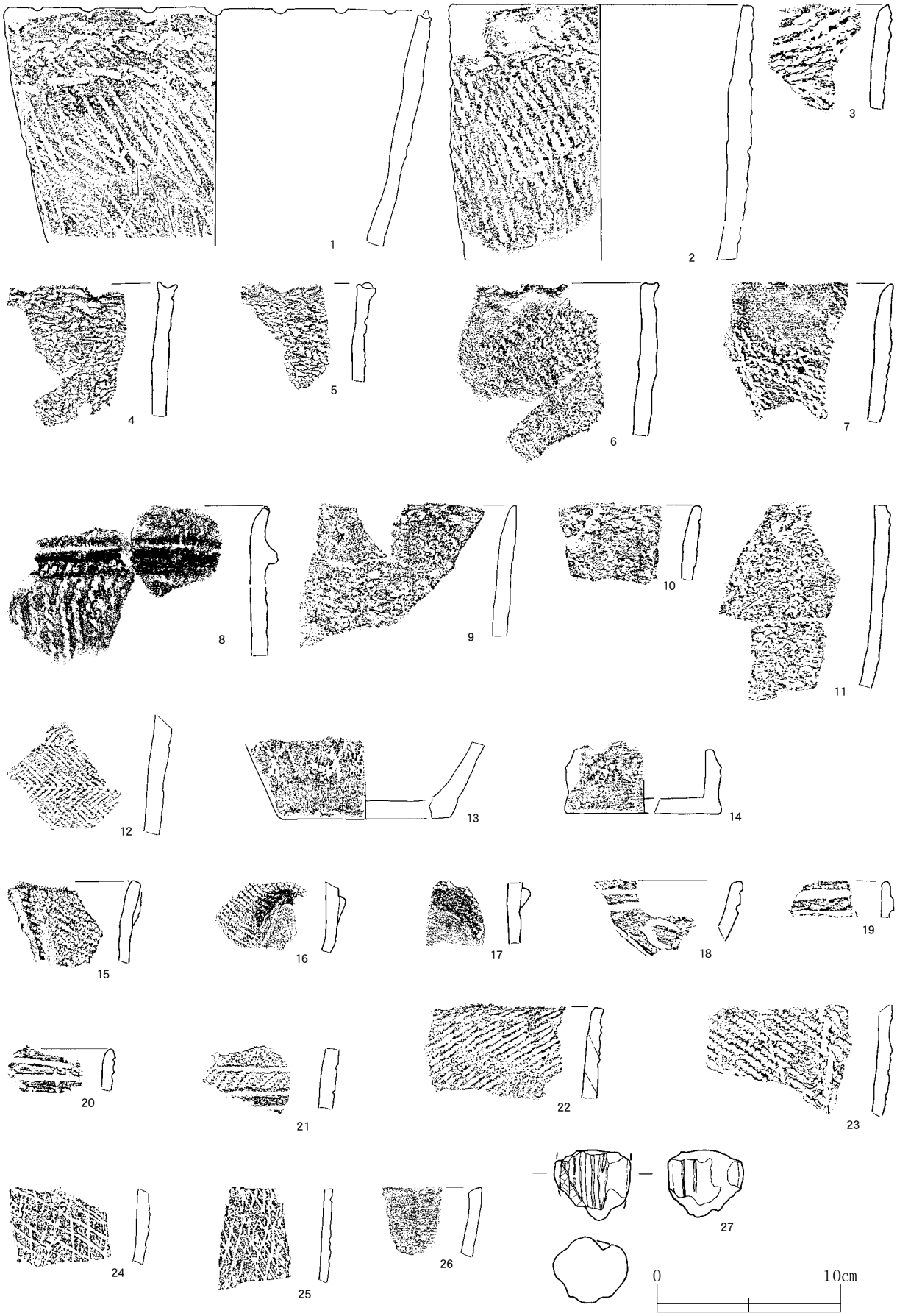

**第29図　遺構内出土石器類（６）**　(SK18②)



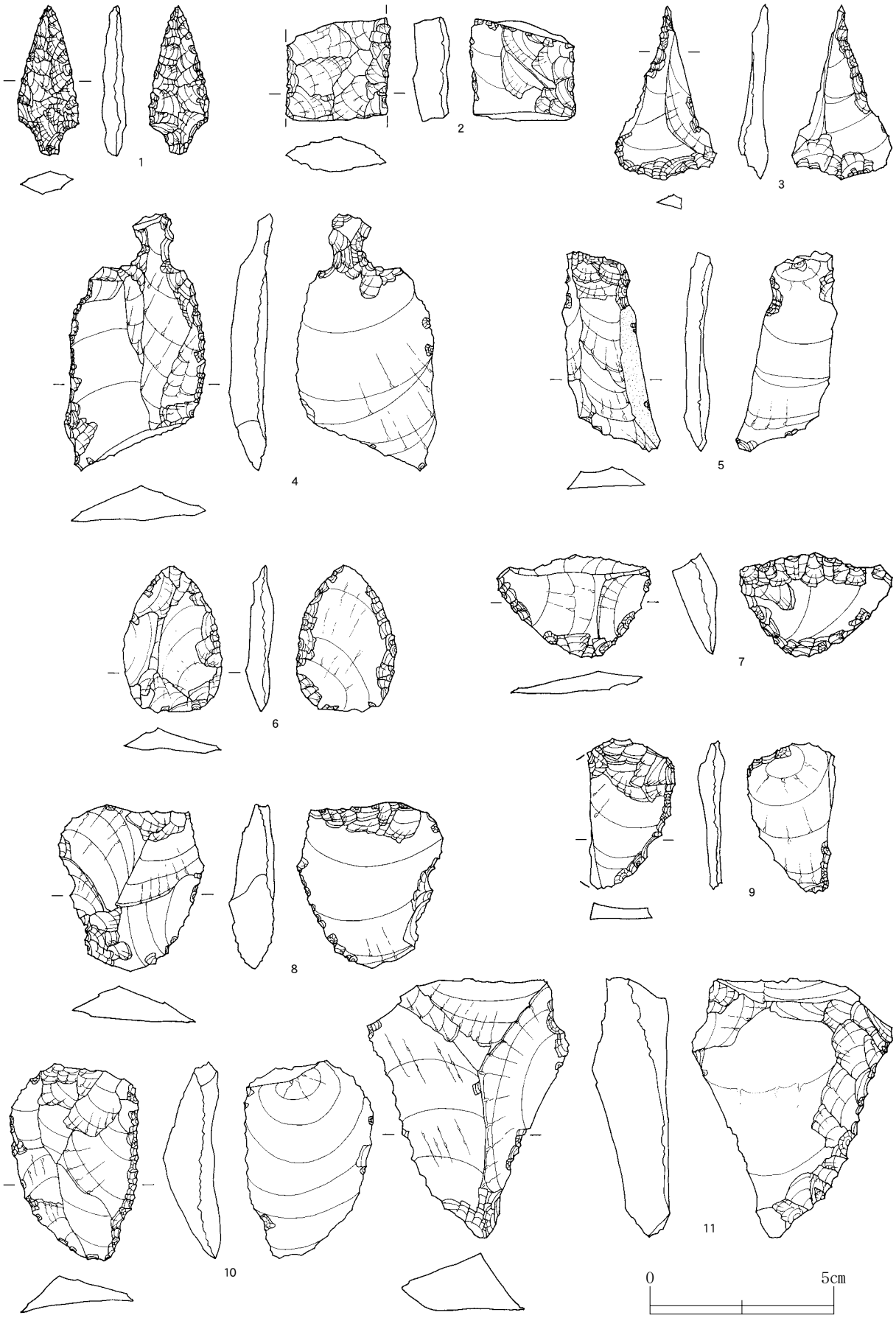

**第30図　遺構内出土石器類（７）**　(SK18③・SK72)



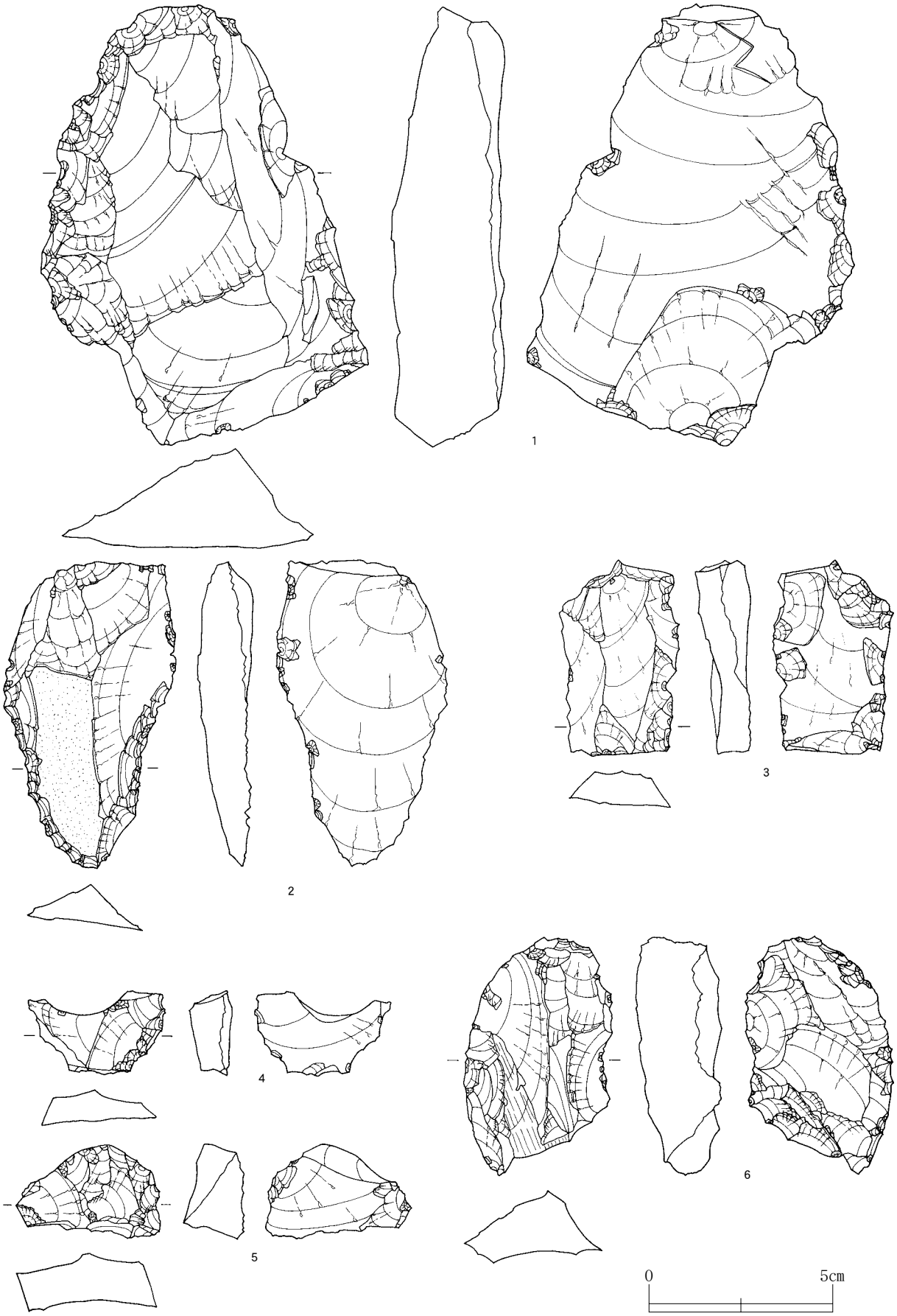

**第31図　遺構内出土石器類（８）**　(SK75)



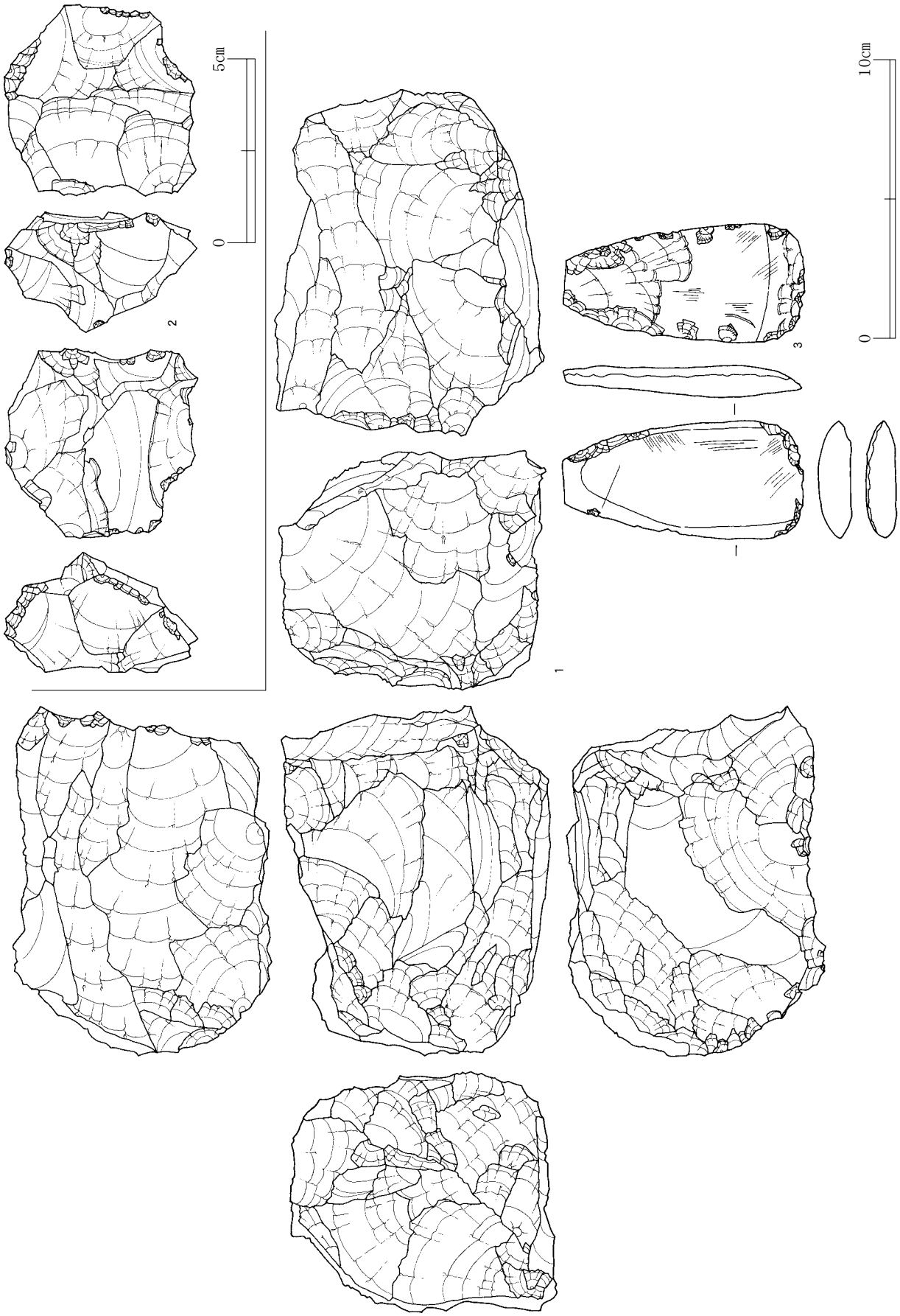

**第32図　遺構外出土土器類**




第33図　遺構外出土石器類（１）




**第34図　遺構外出土石器類（２）**




第35図　遺構外出土石器類（３）

## 第３表　柱穴一覧

| 番号 | 区 | 平面形 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 底面標高(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SKP04 | JO43 | 不整円形 | 36 | 28 | 25 | 138.13 | |
| SKP06 | JR45 | 円形 | 36 | 24 | 12 | 137.98 | |
| SKP07 | JR45 | 円形 | 26 | 20 | 16 | 138.04 | |
| SKP08 | JS45 | 楕円形 | 40 | 32 | 13 | 137.94 | |
| SKP09 | JS･JT46 | 不整円形 | 44 | 44 | 22 | 137.95 | |
| SKP11 | JN42 | 楕円形 | 52 | 48 | 58 | 137.75 | ＳＩ01を切る |
| SKP12 | JT47 | 不整楕円形 | 44 | 26 | 33 | 138.03 | |
| SKP13 | JS47 | 楕円形 | 30 | 26 | 24 | 138.05 | |
| SKP14 | JT47 | 楕円形 | 50 | 40 | 60 | 137.74 | |
| SKP15 | JT48 | 円形 | 40 | 36 | 41 | 137.88 | |
| SKP17 | JN42 | 楕円形 | 34 | 18 | 37 | 137.91 | |
| SKP19 | JR44･45 | 不整円形 | 44 | 34 | 32 | 137.85 | |
| SKP20 | KA49 | 楕円形 | 50 | 38 | 35 | 137.94 | |
| SKP21 | KB48 | 不整楕円形 | 60 | 44 | 29 | 138.04 | |
| SKP22 | KC48 | 円形 | 28 | 26 | 19 | 138.05 | |
| SKP23 | KB49 | 円形 | 24 | 24 | 15 | 138.15 | |
| SKP24 | JR44 | 不整楕円形 | 40 | 30 | 52 | 137.62 | SK18を切る |
| SKP25 | JR44 | 楕円形 | 24 | 18 | 29 | 137.82 | SK18を切る |
| SKP27 | JQ43 | 円形 | 36 | 32 | 34 | 137.74 | SK18を切る |
| SKP28 | JT46 | 円形 | 24 | 22 | 41 | 137.78 | SK16を切る |
| SKP29 | JT48 | 楕円形 | 60 | 48 | 26 | 138.01 | |
| SKP31 | JR44 | 楕円形 | 30 | 22 | 9 | 137.99 | |
| SKP35 | KB48 | 円形 | 26 | 20 | 38 | 137.92 | |
| SKP36 | KA49 | 不整楕円形 | 56 | 24 | 20 | 138.07 | |
| SKP37 | KB49 | 円形 | 26 | 22 | 13 | 138.17 | |
| SKP38 | KB49 | 円形 | 22 | 16 | 12 | 138.19 | |
| SKP39 | KB47 | 不整円形 | 32 | 28 | 17 | 137.98 | |
| SKP41 | KC49 | 楕円形 | 28 | 14 | 10 | 138.14 | |
| SKP42 | KC49 | 円形 | 20 | 16 | 11 | 138.12 | |
| SKP43 | KC48 | 円形 | 24 | 22 | 23 | 137.95 | |
| SKP44 | KC48 | 楕円形 | 26 | 18 | 16 | 137.94 | |
| SKP45 | KC48 | 楕円形 | 30 | 22 | 16 | 137.99 | |
| SKP46 | JN41 | 円形 | 24 | 24 | 34 | 137.53 | |
| SKP47 | JN41 | 円形 | 18 | 16 | 26 | 137.62 | |
| SKP48 | JN41 | 方形 | 26 | 22 | 27 | 137.60 | |
| SKP49 | JO41 | 不整円形 | 26 | 26 | 23 | 137.64 | |
| SKP50 | JO42 | 楕円形 | 40 | 26 | 27 | 137.64 | |
| SKP51 | JN40･41 | 円形 | 18 | 14 | 22 | 137.48 | |
| SKP53 | KC48 | 楕円形 | 28 | 18 | 24 | 137.90 | |
| SKP54 | KE48 | 円形 | 34 | 26 | 25 | 137.90 | |
| SKP55 | KE48 | 楕円形 | 32 | 22 | 21 | 137.81 | |
| SKP56 | JS45 | 円形 | 28 | 22 | 14 | 167.97 | |
| SKP57 | JQ43 | 楕円形 | 44 | 26 | 28 | 137.62 | |
| SKP58 | JQ43 | 楕円形 | 44 | 32 | 14 | 137.48 | |
| SKP59 | JP42 | 円形 | 24 | 16 | 21 | 137.62 | |
| SKP60 | JP43 | 楕円形 | 40 | 36 | 20 | 137.64 | |
| SKP61 | JO42 | 円形 | 20 | 16 | 17 | 137.73 | |
| SKP62 | JQ47 | 楕円形 | 38 | 30 | 14 | 138.10 | |
| SKP63 | JP47 | 楕円形 | 40 | 28 | 26 | 137.94 | |
| SKP64 | JP46 | 円形 | 32 | 26 | 30 | 137.91 | |
| SKP65 | JP47 | 円形 | 28 | 26 | 19 | 138.03 | |
| SKP66 | JM43 | 円形 | 38 | 36 | 22 | 138.10 | |
| SKP67 | JM43 | 円形 | 24 | 22 | 17 | 138.15 | |
| SKP69 | JO42 | 円形 | 18 | 18 | 34 | 138.03 | |
| SKP70 | JN41 | 円形 | 24 | 22 | 42 | 137.92 | |
| SKP71 | JN41 | 円形 | 26 | 26 | 39 | 137.78 | |
| SKP76 | JH41･42 | 円形 | 74 | 54 | 27 | 137.68 | 縄文土器片２点 |
| SKP77 | JJ ･JK44 | 円形 | 36 | 36 | 16 | 138.01 | |
| SKP78 | JJ44 | 円形 | 24 | 22 | 21 | 137.96 | |
| SKP79 | JI41 | 楕円形 | 46 | 26 | 20 | 137.88 | |
| SKP80 | JJ43 | 不整楕円形 | 78 | 24 | 32 | 137.94 | |
| SKP81 | JK42 | 円形 | 34 | 30 | 13 | 138.12 | |
| SKP82 | JK42 | 不整円形 | 36 | 32 | 14 | 138.11 | |
| SKP84 | JN46 | 不整円形 | 74 | 86 | 18 | 138.13 | |
| SKP88 | JL43 | 楕円形 | 50 | 34 | 12 | 138.11 | |
| SKP89 | JL44 | 円形 | 28 | 22 | 19 | 138.05 | |
| SKP90 | JL44 | 方形 | 30 | 24 | 14 | 138.09 | |
| SKP94 | JK41 | 円形 | 24 | 20 | 14 | 138.07 | |
| SKP95 | JK41 | 円形 | 30 | 28 | 9 | 138.11 | |
| SKP96 | JK41 | 円形 | 24 | 20 | 9 | 138.08 | |
| SKP97 | JJ40 | 楕円形 | 24 | 18 | 3 | 137.72 | |
| SKP98 | JI41 | 円形 | 34 | 30 | 28 | 137.84 | |
| SKP99 | JJ42 | 楕円形 | 52 | 36 | 15 | 138.02 | |
| SKP100 | JJ42 | 楕円形 | 38 | 28 | 17 | 138.03 | |
| SKP101 | JH42 | 円形 | 34 | 26 | 15 | 137.88 | |

# 第４表　遺構内出土土器類観察表（１）

| 挿図番号 | 遺物番号 | 遺構番号 | 時期(型式) | 器種 | 部位 | 外面特徴 | 内面特徴 | その他の特徴・備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第20図 | 1 | SI01 | 縄文前期後葉 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１類R縦位回転 | ナデ | 繊維少量含む　円筒下層c式前後か |
| 第20図 | 2 | SI01 | 縄文中期 | 深鉢 | 胴部 | 沈線文内にLR縄文充填 | ナデ | 大木８式前後か |
| 第20図 | 3 | SI01 | 縄文中期 | 深鉢 | 胴部 | RL縄文(0段多条)斜位回転 | 縦位ミガキ | 大木系 |
| 第20図 | 4 | SI01 | 縄文中期末 | 深鉢 | 胴部 | 曲線状隆線･ボタン状突起貼り付け 隆線上～隆線横にLR縄文(？)刺突 胴部LR縄文縦位回転 | 横位ミガキ | 口縁胴部境界内屈　大木10式新段階併行か |
| 第20図 | 5 | SI01 | 縄文中期末 | 深鉢 | 胴部 | 口縁胴部境界に横位低隆線貼り付け 隆線上LR縄文(？)刺突 | 横位ミガキ | 第20図４と同一個体 |
| 第20図 | 6 | SI01 | 縄文中期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文縦位(？)回転 | ミガキ | 大木系か |
| 第20図 | 7 | SI01 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | RL縄文斜位～縦位回転 | ナデ | |
| 第20図 | 8 | SI01 | 縄文後期？ | 深鉢 | 胴部 | LR縄文斜位～縦位回転 | ナデ | |
| 第20図 | 9 | SI01 | 縄文後期中葉～後葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | RL縄文横位回転 | 横位ミガキ | 外傾接合　口縁部僅かに内湾　口唇部僅かに丸味　外面炭化物付着 |
| 第20図 | 10 | SI01 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | L縄文縦位回転 | 横位ミガキ | 内面炭化物付着　内面被熱によるはじけ |
| 第20図 | 11 | SI01 | 縄文後期？ | 深鉢 | 胴部 | L縄文斜位回転 | ナデ | |
| 第20図 | 12 | SI01 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部 | 横位ミガキ(？)　針状工具による横位細沈線状調整 | 横位ナデ | 口唇部僅かに尖り気味 |
| 第20図 | 13 | SI01 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | 横位ナデ | 横位ナデ | |
| 第20図 | 14 | SI01 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部 | 横位沈線間に三角形刺突充填　下位は入り組み帯状文か | 横位ナデ | 口唇部僅かに丸味 |
| 第20図 | 15 | SI01 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部 | LR縄文充填(？)帯状文　横位沈線間三角形刺突充填 | 横位ナデ | 第20図14と同一個体 |
| 第20図 | 16 | SI01 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 胴部 | 小瘤貼り付け　三角形刺突 | ナデ | 第20図14と同一個体 |
| 第20図 | 17 | SI02 | 円筒下層c式 | 深鉢 | 口縁部 | 横位L縄文圧痕２条 | ナデ | |
| 第20図 | 18 | SI02 | 縄文前期 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１類L縦位回転 | ナデ | 繊維少量含む　円筒下層b式前後か |
| 第20図 | 19 | SI02 | 縄文前期？ | 深鉢 | 口縁部～胴部 | LR縄文(0段多条)縦位回転 | ナデ | 外傾接合　口唇部僅かに丸味　口唇外側に粘土はみ出し |
| 第20図 | 20 | SI02 | 縄文中期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文横位回転　横位沈線 | ナデ | 大木８式前後か |
| 第20図 | 21 | SI02 | 縄文中期末～後期初頭 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第５類L縦位(？)回転 | ナデ | |
| 第20図 | 22 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 口縁部 | LR縄文横位回転　横位沈線　沈線間一部縄文磨り消し | ナデ | 口唇部平坦　十腰内Ⅱ式前後か |
| 第20図 | 23 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 口縁部 | 横位条痕 | 横位ナデ | 口唇部内傾 |
| 第20図 | 24 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文横位～斜位回転 | ナデ | |
| 第20図 | 25 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文横位～斜位回転 | ナデ | |
| 第20図 | 26 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 口縁部？ | 弧状沈線　LR縄文斜位回転 | ナデ | |
| 第20図 | 27 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | 横位条痕 | ナデ | |
| 第20図 | 28 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 口縁部 | 横位平行沈線　LR縄文(？)横位回転 | ナデ | 口唇部尖る　口唇部押圧状刻み目 |
| 第20図 | 29 | SI02 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文横位回転　横位平行沈線 平行沈線間一部縄文磨り消し | ナデ | |
| 第20図 | 30 | SI02 | 縄文後期 | 鉢？ | 口縁部～胴部 | RL縄文縦位回転 | ナデ | 外傾接合か　口唇部平坦 |
| 第20図 | 31 | SI02 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | ナデ～ミガキ | 横位ケズリ後ナデ | 内傾接合　口唇部平坦　外面炭化物付着 |
| 第21図 | 1 | SI02 | 縄文後期末～晩期初頭 | 鉢 | 口縁部～底部 | 上面にくぼみある弁状突起と両側に２条の刻み目ある小突起１対　直交して小突起１対？　弁状突起正面三叉文　弁状突起から口縁胴部境界に平行沈線巡らし､沈線間に一部刺突充填　口縁部～胴部LR縄文充填した入り組み帯状文　入り組み部に三叉文 | 横位ナデ | 口唇部平坦　文様は乱れ著しい |
| 第21図 | 2 | SI02 | 縄文後期末～晩期初頭 | 壺 | 口縁部～底部 | ナデ | ナデ | 口唇部丸味　口縁部僅かに外反 底部輪高台状上げ底 |
| 第21図 | 3 | SI02 | 縄文後期末～晩期初頭 | 壺 | 口縁部～底部 | 口縁部縦位ミガキ　胴部横位ミガキ | ナデ | 口唇部ほぼ平坦　口縁部直立 底部中央僅かにくぼむ |
| 第21図 | 4 | SI02 | 縄文後期末～晩期初頭 | 注口土器？ | 底部 | 横位ナデ | 指圧痕？ | 底面中央僅かにくぼむ　内面炭化物？付着 |
| 第21図 | 5 | SI02 | 縄文後期 | 多孔底土器 | 口縁部～底部 | ナデ後針状工具で不整方向調整 | 横位ナデ | 底部穿孔　一部は焼成後穿孔か |
| 第21図 | 6 | SI02 | 縄文晩期 | 深鉢 | 胴部 | RL縄文(０段多条)縦走 | ナデ | 大洞C1式前後か |
| 第22図 | 1 | SK03 | 縄文中期末 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁胴部境界刻み目ある隆線状突出 胴部LR縄文？　盲孔状刺突？ | ナデ | 口縁部僅かに内屈 |
| 第22図 | 2 | SK03 | 縄文後期～晩期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文斜位回転 | ナデ | 内傾接合か |
| 第22図 | 3 | SK03 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 胴部 | 板状工具小口による横位調整 | 横位ケズリ後ナデ | 内傾接合か |
| 第22図 | 4 | SK05 | 縄文前期 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１類R縦位回転 | ナデ | 繊維少量含む　円筒下層b式前後か |
| 第22図 | 5 | SK05 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文斜位回転 | ナデ | |
| 第22図 | 6 | SK16 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | 横位ナデ | ナデ | |

## 第５表　遺構内出土土器類観察表（２）

| 挿図番号 | 遺物番号 | 遺構番号 | 時期(型式) | 器種 | 部位 | 外面特徴 | 内面特徴 | その他の特徴・備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図 | 7 | SK18 | 縄文後期？ | 深鉢 | 口縁部 | LR縄文(０段多条)斜位回転 | 指圧痕後ナデ | 口唇部丸味　内面炭化物？付着 |
| 第22図 | 8 | SK18 | 縄文中期末～後期初頭 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁部中央に刻み目ある小突起　突起正面ボタン状突起貼り付け　口縁部弧状隆線貼り付け　胴部単軸絡条体第５類R(？)縦位回転後曲線状隆線貼り付け極小円形刺突施す | 横位ナデ | 外傾接合　粘土帯幅３cm前後　口唇部丸味　単軸絡条体の縄文はRとrか |
| 第22図 | 9 | SK18 | 縄文中期末～後期初頭 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第５類R縦位(？)回転 | 縦位(？)ナデ | 第22図８と同一個体の可能性あり |
| 第22図 | 10 | SK18 | 十腰内Ⅳ式 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁部に頂部が二又に分かれた小突起　口縁～胴部上位横位平行沈線～入り組み文内に非結束LR・RL羽状縄文充填　突起下小瘤貼り付け | ナデ | 内傾接合　口縁端部内側僅かに肥厚　口唇部ほぼ平坦 |
| 第22図 | 11 | SK18 | 十腰内Ⅳ式？ | 深鉢 | 口縁部突起 | 頂部二又に分かれる柱状突起　突起下小瘤貼り付け　口縁端部LR縄文充填後縄文磨り消し | ナデ | 口縁端部僅かに肥厚 |
| 第22図 | 12 | SK18 | 十腰内Ⅳ式？ | 深鉢 | 口縁部 | LR・RL縄文横位回転後横位平行沈線施し、一部縄文磨り消し | ナデ | 口唇部内傾 |
| 第22図 | 13 | SK18 | 十腰内Ⅳ式？ | 深鉢 | 胴部 | LR・RL縄文横位回転後横位平行沈線施し、一部縄文磨り消し | ナデ | 第22図12と同一個体か |
| 第22図 | 14 | SK18 | 十腰内Ⅳ式？ | 深鉢 | 胴部 | 非結束LR・RL羽状縄文横位回転後横位沈線施す | ナデ | |
| 第22図 | 15 | SK18 | 縄文後期 | 鉢？ | 胴部 | LR縄文(？)横位回転後横位･縦位沈線施す | ミガキ | |
| 第22図 | 16 | SK18 | 十腰内Ⅳ式？ | 深鉢 | 胴部 | LR･RL縄文横位回転後横位沈線施す | ナデ | |
| 第22図 | 17 | SK18 | 十腰内Ⅳ式？ | 深鉢 | 胴部 | RL･LR縄文施文後縄文一部磨り消し | ナデ | |
| 第22図 | 18 | SK18 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 板状工具小口による横位調整 | 斜位ケズリ後横位ナデ | 口唇部平坦　口唇僅かに内傾 |
| 第22図 | 19 | SK18 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 板状工具小口による横位調整 | ナデ | 口唇部ほぼ平坦 |
| 第22図 | 20 | SK18 | 縄文後期 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | LR縄文横位回転 | ナデ | 口唇部丸味　内面炭化物(？)付着 |
| 第22図 | 21 | SK18 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文縦位回転 | ナデ | 内傾接合か |
| 第22図 | 22 | SK18 | 縄文後期 | 鉢 | 口縁部～胴部 | ナデ | 横位ケズリ | 内傾接合か　口唇部平坦 |
| 第22図 | 23 | SK18 | 縄文後期？ | 深鉢 | 底部 | 胴部下端ナデ　底面ナデ後ヘラ状工具による沈線 | ナデ | 平底 |
| 第22図 | 24 | SK18 | 縄文後期？ | 深鉢 | 底部 | 胴部下端横位ケズリ　底面ナデ | ナデ | 平底 |
| 第23図 | 1 | SK18 | 縄文後期 | 壺 | 口縁部～胴部 | ナデ | 横位ナデ | 内傾接合か　無頸　口縁端部内面粘土はみ出し　内外面炭化物付着 |
| 第23図 | 2 | SK18 | 縄文後期 | 壺？ | 口縁部～胴部 | 板状工具小口による横位調整 | 指頭圧痕 | 内傾接合か　無頸 |
| 第23図 | 3 | SK18 | 縄文後期 | 鉢？ | 胴部 | 斜位～横位ミガキ | ナデ | 外面から内面へ径約６mmの焼成前穿孔 |
| 第23図 | 4 | SK18 | 縄文後期 | 鉢？ | 胴部 | ナデ後針状工具による斜位～横位ミガキ | ナデ | 内外面黒色物質付着 |
| 第23図 | 5 | SK18 | 縄文後期後葉 | 注口土器 | 注口部 | LR縄文充填後平行沈線施す　縄文一部磨り消し(ミガキ) | ナデ | |
| 第23図 | 6 | SK18 | 縄文後期 | 台付き鉢？ | 台部 | 横位ナデ | ナデ | |
| 第23図 | 7 | SK18 | 縄文後期 | 注口土器？ | 底部 | ナデ | ナデ | 底部中央僅かにくぼむ |
| 第23図 | 8 | SK18 | 大洞BC式 | 深鉢 | 胴部 | ナデ後横位に連結する三叉状沈線その下位に横位沈線施し、両者間に横長刺突充填 | 横位ナデ | 内傾接合 |
| 第23図 | 9 | SK72 | 円筒下層d式 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１A類R･L縦位回転 | ナデ | 繊維微量含む　攪乱部分からの出土 |
| 第23図 | 10 | SK72 | 縄文中期末～後期初頭 | 深鉢 | 胴部 | 一端に粘土まくれある盲孔状刺突 | ナデ | 攪乱部分からの出土 |
| 第23図 | 11 | SK72 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文横位回転後横位沈線 | ナデ | 攪乱部分からの出土 |
| 第23図 | 12 | SK72 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 突起部 | 中央が大きくくぼむ低山形突起　LR縄文斜位回転 | ナデ | 攪乱部分からの出土 |
| 第23図 | 13 | SK72 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 口縁部 | 板状工具小口による縦位調整　口縁端部は一部横位調整 | ナデ | 口唇部僅かに丸味　外面炭化物付着 |
| 第23図 | 14 | SK72 | 縄文後期後葉 | 深鉢 | 胴部 | 板状工具小口(？)による縦位調整 | ナデ | 内傾接合か　内外面一部炭化物付着 |
| 第23図 | 15 | SK75 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 口縁部 | 単軸絡条体L？ | ナデ | 繊維含む　口唇部丸味 |
| 第23図 | 16 | SK75 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１類L？ | ナデ | 繊維含む |
| 第23図 | 17 | SK75 | 縄文前期 | 深鉢 | 胴部 | LL縄文？斜位回転 | ナデ | 繊維微量含む |
| 第23図 | 18 | SK75 | 縄文前期 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１類R？ | 磨滅 | 繊維微量含む |
| 第23図 | 19 | SK75 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第１類？LR | 縦位条痕 | 繊維微量含む |
| 第23図 | 20 | SK75 | 縄文前期 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体R | ナデ | 繊維微量含む |
| 第23図 | 21 | SKP76 | 縄文後期 | 深鉢 | 胴部 | LR縄文斜位回転 | ナデ | |

## 第６表　遺構内出土石器類観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 遺構番号 | 器種 | 石質 | 重量(g) | 特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図 | 1 | SI01 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 3.0 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　素材末端裏面に細かい二次加工 |
| 第24図 | 2 | SI01 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 910.5 | 表裏面中央に浅い敲打痕 |
| 第24図 | 3 | SI01 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 830.0 | 表面中央に盲孔状敲打痕　裏面中央に盲孔状敲打痕と浅い敲打痕 |
| 第24図 | 4 | SI01 | 磨石類 | 含石英輝石安山岩 | 895.0 | 表面と左側面上半側に浅い敲打痕 |
| 第24図 | 5 | SI01 | 磨石類 | 閃緑岩 | 929.0 | 表裏面中央に浅い敲打痕と磨痕 |
| 第24図 | 6 | SI01 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 1800.0 | 表面中央に浅い敲打痕 |
| 第25図 | 1 | SI02 | 石錐 | 珪質頁岩 | 14.0 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　素材末端裏面に二次加工施し、錐部作出　表面左側縁に微小剥離痕 |
| 第25図 | 2 | SI02 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 33.2 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　裏面左側縁に連続した二次加工施し、刃部作出 |
| 第25図 | 3 | SI02 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 34.0 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　表面両側縁に連続した二次加工施し、刃部作出 |
| 第25図 | 4 | SI02 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 25.8 | 複剥離面打面残す横長剥片素材　表面左側縁から末端縁に連続した二次加工施し、刃部作出 |
| 第25図 | 5 | SI02 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 58.5 | 縦長剥片素材か　裏面への二次加工により打面除去　表面末端縁に二次加工施し、刃部作出 |
| 第26図 | 1 | SI02 | スクレイパー | 凝灰岩 | 179.6 | 打面側折損　末端縁に両面から二次加工施し、刃部作出 |
| 第26図 | 2 | SI02 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 27.3 | 単剥離面打面残す寸詰まり剥片素材　表面末端側に僅かに二次加工施し、刃部作出 |
| 第26図 | 3 | SI02 | 微小剥離痕ある剥片 | 細粒砂岩 | 62.2 | 単剥離面打面残す横長剥片　末端縁に微小剥離痕 |
| 第27図 | 1 | SI02 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 1380.0 | 表裏面中央に盲孔状敲打痕と浅い敲打痕 |
| 第27図 | 2 | SI02 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 115.0 | 両端欠損　表面に盲孔状敲打痕と浅い敲打痕 |
| 第27図 | 3 | SI02 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 351.2 | 表面盲孔状敲打痕と浅い敲打痕　裏面浅い敲打痕 |
| 第27図 | 4 | SI02 | 磨石類 | 石英斑岩 | 1200.0 | 表面中央に浅い敲打痕 |
| 第27図 | 5 | SI02 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 1200.0 | 表面中央に浅い敲打痕 |
| 第27図 | 6 | SI02 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 550.8 | 上下端に浅い敲打痕 |
| 第28図 | 1 | SI02 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 1300.0 | 表裏面中央に盲孔状敲打痕 |
| 第28図 | 2 | SI02 | 石錘 | 輝石安山岩 | 158.0 | 裏面上下縁に二次加工施し、抉り作出　表面右側加工痕 |
| 第28図 | 3 | SI02 | 石剣 | 黒色千枚岩 | 21.2 | 表裏面上下からの二次加工　表面右側のみ遺存 |
| 第28図 | 4 | SK18 | 石匙 | 珪質頁岩 | 12.2 | 縦長剥片素材か　素材表面全周に二次加工施す　素材の側縁側に刃部作出　他側縁側に両面からの二次加工でつまみ部作出 |
| 第28図 | 5 | SK18 | 石匙 | 珪質頁岩 | 6.8 | 単剥離面打面剥片素材か　下端折損　打面側両面二次加工施し、つまみ部作出 |
| 第28図 | 6 | SK18 | 石匙 | 珪質頁岩 | 16.0 | 縦長剥片素材　打面側に両面二次加工施し、つまみ部作出　素材末端側はほとんど二次加工なし |
| 第28図 | 7 | SK18 | 石匙 | 珪質頁岩 | 7.5 | 縦長剥片素材　末端側折損　打面側に両面二次加工施し、つまみ部作出　表面左側縁連続した細かい二次加工施し、刃部作出　右側縁微小剥離痕 |
| 第28図 | 8 | SK18 | 石匙 | 珪質頁岩 | 16.2 | 縦長剥片素材か　つまみ部折損　表面全周に二次加工施し、刃部作出 |
| 第28図 | 9 | SK18 | 石匙 | 珪質頁岩 | 14.0 | 縦長剥片素材　打面側両面二次加工施し、つまみ部作出　表面両側に二次加工施し、尖頭状刃部作出 |
| 第28図 | 10 | SK18 | 石匙？ | 珪質頁岩 | 3.2 | 縦長剥片素材　打面側折損　表面右側縁二次加工施し、刃部作出　縦型石匙か |
| 第29図 | 1 | SK18 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 36.0 | 縦長剥片素材　末端側折損　表面両側縁二次加工施し、刃部作出 |
| 第29図 | 2 | SK18 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 10.4 | 打面側折損　表面両側縁に細かい二次加工施し、刃部作出 |
| 第29図 | 3 | SK18 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 56.0 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　表面両側縁二次加工施し、刃部作出 |
| 第29図 | 4 | SK18 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 34.1 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　表面右側縁二次加工施し、刃部作出　左側縁微小剥離痕 |
| 第29図 | 5 | SK18 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 4.3 | 節理面打面残す横長剥片素材　表面末端縁二次加工施し、刃部作出 |
| 第29図 | 6 | SK18 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 3.0 | 縦長剥片素材　打面側折損　両側縁両面から二次加工 |
| 第29図 | 7 | SK18 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 12.0 | 複剥離面打面残す縦長剥片素材　末端側折損　裏面左側縁二次加工　スクレイパー？ |
| 第29図 | 8 | SK18 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 23.2 | 単剥離面打面残す　表面左側縁・末端縁急角度の二次加工　縁辺鋸歯状 |
| 第29図 | 9 | SK18 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 7.8 | 線状打面残す横長剥片素材　裏面上下端に剥離痕　両極剥片か |
| 第29図 | 10 | SK18 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 28.0 | 節理面打面残す縦長剥片素材　裏面末端縁二次加工 |
| 第30図 | 1 | SK18 | 磨石類 | 輝石安山岩 | 160.4 | 両面中央・右側面浅い敲打痕 |
| 第30図 | 2 | SK18 | 石剣 | 黒色千枚岩 | 54.5 | 上下端・裏面欠損(二次加工か)　表面右側二次加工後研磨？ |
| 第30図 | 3 | SK72 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 4.6 | 縦長剥片素材　打面側折損　末端側一部両面に二次加工 |
| 第30図 | 4 | SK72 | 円盤状石製品？ | 輝石安山岩 | 88.6 | 盤状剥片素材　周縁二次加工　末端側は細かい二次加工施す |
| 第30図 | 5 | SK72 | 磨製石斧 | 緑色岩 | 17.2 | 定角式　刃部欠損　上下端敲打痕残り、楔に再利用か |
| 第31図 | 1 | SK75 | 石匙 | 珪質頁岩 | 26.1 | 節理面打面残す縦長剥片素材　打面側両面から二次加工施し、つまみ部作出　表面左側縁～末端縁二次加工施し、刃部作出 |
| 第31図 | 2 | SK75 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 10.9 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　末端アーチ状　裏面左側縁二次加工施し、刃部作出 |
| 第31図 | 3 | SK75 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 11.5 | 複剥離面打面残す　末端側折損　表面ほぼ全面二次加工施す |
| 第31図 | 4 | SK75 | 石核 | 珪質頁岩 | 97.0 | 打面調整なし　打面・作業面90度前後転移しながら横長剥片剥離か |

## 第７表　遺構外出土土器類観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 区 | 時期(型式) | 器種 | 部位 | 外面特徴 | 内面特徴 | その他の特徴・備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図 | 1 | JM39・40 | 円筒下層a式 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁部横位結節回転文(R)２条 胴部単軸絡条体第１類R | ナデ | 繊維含む　外傾接合　口縁部外傾 口唇部尖る　口唇部横長の刻み目 |
| 第32図 | 2 | JM40 | 円筒下層a式 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁部横位結節回転文(L)？２～３条　単軸絡条体第１類L | ナデ | 繊維含む　口唇部丸み |
| 第32図 | 3 | JQ43 | 円筒下層a式 | 深鉢 | 口縁部 | 単軸絡条体第１類R横位回転？ | ナデ | 繊維少量含む　口縁端部僅かに内傾 |
| 第32図 | 4 | JD41 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁部横位結節回転文　単軸絡条体縦位回転？ | ナデ | 繊維少量含む　口唇部僅かに丸み 口唇部「D」字刻み目　円筒下層a式？ |
| 第32図 | 5 | JI42 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 口縁部 | 単軸絡条体第１類L横位回転 | ナデ | 繊維少量含む　口唇部丸み　口唇部押圧状の刻み目　円筒下層a式？ |
| 第32図 | 6 | JL39 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 単軸絡条体第１類L縦位回転？ | ナデ | 繊維含む　口縁端部僅かに外反　口唇部尖り気味　口唇部押圧状刻み目 円筒下層a式？ |
| 第32図 | 7 | JN40 | 縄文前期中葉 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 単軸絡条体第１類L斜位～横位回転？ | ナデ | 繊維含む　口唇部尖り気味　円筒下層b式？ |
| 第32図 | 8 | JI39・41 | 円筒下層b式 | 深鉢 | 口縁部～胴部 | 口縁下端横位隆線貼り付け　隆線上逆「D」字刻み目　口縁～胴部単軸絡条体第１類R縦位回転？ | ナデ | 繊維含む　口縁端部外反　口唇部尖る　口唇部「D」字刻み目 |
| 第32図 | 9 | JM40 | 縄文前期 | 深鉢 | 口縁部 | 全面に「C」字状刺突？ | ナデ | 繊維含む　外傾接合　口唇部平坦 |
| 第32図 | 10 | JM40 | 縄文前期 | 深鉢 | 口縁部 | 全面に「C」字状刺突？ | ナデ | 繊維含む　外傾接合　口唇部丸み 第32図９と同一個体か |
| 第32図 | 11 | JM40 | 縄文前期 | 深鉢 | 胴部 | 全面に「C」字状刺突？ | ナデ | 繊維含む　第32図９と同一個体 |
| 第32図 | 12 | JJ39 | 縄文前期後葉 | 深鉢 | 胴部 | 結束第１種RL・LR羽状縄文横位回転 | ミガキ | 繊維微量含む　円筒下層c式～d式 |
| 第32図 | 13 | JI42 | 縄文前期？ | 深鉢 | 底部 | 単軸絡条体第５類L | ナデ | |
| 第32図 | 14 | JJ39 | 縄文前期 | 深鉢 | 底部 | 指頭圧痕？ | ナデ | 繊維含む　平底 |
| 第32図 | 15 | JJ39 | 縄文中期？ | 深鉢 | 口縁部 | 低波状口縁　波頂部から隆線垂下 RL縄文横位回転 | ミガキ | 口唇部僅かに平坦　外面炭化物付着 縄文中期末前後か |
| 第32図 | 16 | JK39 | 縄文中期？ | 深鉢 | 胴部 | 曲線状隆線貼り付け後LR縄文縦位回転 | ナデ | |
| 第32図 | 17 | JL42 | 縄文中期末～後期初頭 | 深鉢 | 胴部 | 弧状隆線貼り付け　隆線脇刺突 | ナデ | |
| 第32図 | 18 | JJ42 | 十腰内Ⅰ式 | 深鉢 | 口縁部 | 口縁上位横位沈線２条　口縁下位斜位沈線・曲線状沈線 | ミガキ | 口唇部僅かに外傾 |
| 第32図 | 19 | JI42 | 十腰内Ⅰ式 | 深鉢 | 口縁部 | 横位沈線２条 | ナデ | 口唇部丸み |
| 第32図 | 20 | JJ42 | 十腰内Ⅰ式 | 深鉢 | 口縁部 | 横位沈線２条 | ナデ | 低波状口縁　口唇部平坦 |
| 第32図 | 21 | JL39 | 縄文後期中葉？ | 深鉢 | 胴部 | LR縄文横位回転　横位沈線 | ナデ | |
| 第32図 | 22 | JO42 | 縄文後期？ | 深鉢 | 口縁部 | L横位回転 | ナデ | 外傾接合　口唇部平坦　口縁端部外側に粘土はみ出し |
| 第32図 | 23 | JJ39 | 縄文後期？ | 深鉢 | 胴部 | 結節付きLR縄文縦位回転か | ナデ | |
| 第32図 | 24 | JJ39 | 縄文後期前葉 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第５類R | ナデ | |
| 第32図 | 25 | JJ39 | 縄文後期前葉 | 深鉢 | 胴部 | 単軸絡条体第５類R | ミガキ | |
| 第32図 | 26 | JR44 | 縄文後期 | 深鉢 | 口縁部 | 横位ナデ | 横位ナデ | 口唇部内傾 |
| 第32図 | 27 | JI44 | 不明 | 土製品 | 不明 | 柱状　縦位に幅２～３㎜前後の沈線状ミガキ調整痕 | | 繊維僅かに含む　上下端欠損 |

## 第８表　遺構外出土石器類観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | 区 | 器種 | 石質 | 重量(g) | 特徴 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図 | 1 | JM44 | 石鏃 | 珪質頁岩 | 2.8 | 有茎　両面全面二次加工　茎部末端欠損か |
| 第33図 | 2 | JI41 | 石槍 | 珪質頁岩 | 10.5 | 上下端折損　表面全面二次加工　裏面左半素材剥片主剥離面残る |
| 第33図 | 3 | JJ39 | 石錐 | 珪質頁岩 | 5.5 | 縦割れし、打面側折損した剥片素材　遺存した側縁に両面から二次加工施し、錐部作出　末端側両面二次加工施し、つまみ部作出 |
| 第33図 | 4 | JL39 | 石匙 | 珪質頁岩 | 20.6 | 縦長剥片素材　末端側折損　打面側に両面二次加工施し、つまみ部作出　素材表面両側縁に細かい二次加工施し、刃部作出 |
| 第33図 | 5 | JI40 | 石匙 | 珪質頁岩 | 8.0 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　打面側両側縁に両面から二次加工施し、つまみ部作出　刃部未加工　両側縁微小剥離痕 |
| 第33図 | 6 | JJ39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 5.8 | 横長剥片素材　表面の一側縁と裏面ほぼ全周に細かい二次加工施し、尖頭状刃部作出 |
| 第33図 | 7 | JK39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 7.8 | 打面側折損した剥片素材　末端側両面から二次加工施し、弧状刃部作出　折損縁裏面にも連続した二次加工施す |
| 第33図 | 8 | JL39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 14.0 | 縦長剥片素材　裏面打面側二次加工施し、刃部作出　表面左側縁下半両面から二次加工施す　表面右側縁微小剥離痕 |
| 第33図 | 9 | JJ39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 5.5 | 線状打面残す縦長剥片素材　左側折損　表面右側縁に細かい二次加工施し、刃部作出 |
| 第33図 | 10 | JK40 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 20.5 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　表面右側縁に細かい二次加工施し、刃部作出 表面左側縁に微小剥離痕 |
| 第33図 | 11 | JN49 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 53.0 | 打面側折損した縦長剥片素材　裏面右側縁に連続した二次加工施し、刃部作出 |
| 第34図 | 1 | JJ39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 254.0 | 単剥離面打面残す縦長剥片素材　表面左側縁両面から二次加工施し、刃部作出 表面右側縁微小剥離痕 |
| 第34図 | 2 | JJ39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 50.8 | 複剥離面打面残す縦長剥片素材　表面両側縁に細かい二次加工施し、尖頭状刃部作出 |
| 第34図 | 3 | JJ39 | スクレイパー | 珪質頁岩 | 24.4 | 末端折損した縦長剥片素材　表面右側縁二次加工施し、刃部作出　打面側・末端折損面にも二次加工施す |
| 第34図 | 4 | JL41 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 7.4 | 打面側折損　表面末端縁の一部に細かい二次加工施す |
| 第34図 | 5 | JN48 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 14.2 | 打面側折損　表面に荒い二次加工痕　石器未成品か |
| 第34図 | 6 | JG44 | 二次加工ある剥片 | 珪質頁岩 | 49.5 | 線状打面残す厚手の縦長剥片素材　表裏面に荒い二次加工痕　石器未成品か |
| 第35図 | 1 | JL39 | 石核 | 珪質頁岩 | 1260.0 | 打面調整なし　打面と作業面を90度前後転移し、剥片剥離　縦長剥片主体に剥離か |
| 第35図 | 2 | JJ41 | 石核 | 珪質頁岩 | 70.0 | 打面と作業面を交互に入れ替え、求芯状に剥片剥離　横長剥片主体に剥離か |
| 第35図 | 3 | 排土 | 磨製石斧 | 緑色凝灰岩 | 69.5 | 撥形　横断面凸レンズ状　刃部縦断面非相称　裏面基部側整形時の剥離痕一部残る |

# 第５章　まとめ

向様田Ｆ遺跡の発掘調査は、当初、標高138m前後の小規模な段丘面2,700㎡を対象に実施した。遺跡は現水田造成時に大きく削平されており、最終的な調査面積は2,300㎡となった。調査の結果、主として南側の向様田Ｂ遺跡に向かった小段丘崖に沿った調査区南西側で、竪穴住居跡２軒、土坑６基等を確認した。遺構内出土例のほかは、出土遺物は僅少であった。中近世に属する可能性あるSK75土坑も存在するが、今回検出した遺構・遺物の主体は、縄文時代に属する。

現時点で、縄文時代における向様田Ｆ遺跡の主要な変遷は以下のようにまとめることができる。

遺跡の利用痕跡は、出土縄文土器から、遅くとも縄文時代前期中葉円筒下層a式期から前期後葉円筒下層d式期には認めることができる。しかし、当該期の遺構は未確認であり、出土土器は少量である。当該期の遺構・遺物の大半は削平されたと想定しても、現状からは当該期の大規模な遺跡が存在していたとは想定し難い。小規模集団によって断続的に利用されたものと想定するが、その実態は不明である。

それ以降では、縄文時代中期末から後期前葉の縄文土器破片が出土している。出土量、出土状況とも縄文時代前期中葉～後葉と共通し、やはり小規模集団による断続的な利用にとどまったものと想定する。向様田遺跡群では、向様田Ａ遺跡[註１]および向様田Ｄ遺跡[註２]に複式炉を伴い縄文時代中期末前後に属すると推定できる竪穴住居跡各１軒が存在する。当該竪穴住居跡は向様田遺跡群の西端側に位置し、向様田遺跡群の東端側に位置する向様田Ｆ遺跡とは300m近く離れている。両者が同時に営まれていたかは不明であり、その関係は判然としない。現状では、当該期の向様田Ｆ遺跡の詳細な性格も不明である。

その後、縄文時代後期後葉にはSK18土坑とSK72土坑が存在する。ともに土坑墓であった可能性も想定できるものの、その性格は特定し難い。また、縄文時代後期後葉から晩期初頭前後には竪穴住居(跡)２軒が営まれている。両者は南側の小段丘崖際に約４ｍの間隔で隣接する。ともに径５～６ｍ前後の円形平面をなし、いずれも現状で明瞭な炉を確認できていない。このうち、SI02竪穴住居跡は出土土器から、縄文時代後期末～晩期初頭に属すると判断できる。SI01竪穴住居跡は、調査では時期を特定し得るだけの資料を得ることはできなかったが、SI02竪穴住居跡と隣接することから、ほぼ同時期に営まれた可能性が強いと想定する。

これらの竪穴住居跡は、ともに縄文時代後期末～晩期初頭に属するとしても、ほかに同時に伴う可能性ある遺構は明確に認めることはできない。集落としては極めて小規模で、かつ限定された活動が行われたものと言えよう。

東北地方北部では、縄文時代後期以降、大規模集落の確認例が激減するのに対し、伊勢堂岱遺跡[註３]や向様田Ａ遺跡[註４]に代表されるように、環状列石や環状配石遺構などの大規模記念物を伴う葬祭祀遺跡が出現する。これらの遺跡内には、大規模記念物造営集団が集住したと想定し得るだけの住居跡群を認めることができないことから、これらの集団は通常は周囲に分散居住し、特定時期に集合し、大規模葬祭祀遺跡を造営したとするモデルが提唱されている[註５]。このモデルを縄文時代後期から晩期にかけての小又川流域にも適用するならば、本遺跡は、縄文時代後期末から晩期初頭における分散居住地点の

典型例の一つとして評価できよう。

しかしながら、現状では、当該時期における本遺跡の生業形態をはじめとする生産活動の特徴、竪穴住居居住集団の性格などは不明な部分が大きい。また、縄文時代後期末～晩期初頭の墓域は、本遺跡内あるいは向様田遺跡群全体の中にも明瞭でない。当該期に集団人口の極端な減少や葬墓制の大きな変化等を想定しないとするならば、先のモデルからは、別地点に大規模葬祭祀遺跡が成立していたと想定すべきであるが、現状ではその具体的な遺跡を指摘することはできない。今後の小又川流域における発掘調査の進展を踏まえて、上記モデルの可否を検討し、本遺跡の再評価を行う必要があろう。

註１　秋田県教育委員会　『向様田Ａ遺跡　遺構篇　－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ－』　秋田県文化財調査報告書第346集　2003(平成15)年

註２　秋田県埋蔵文化財センター　『秋田県埋蔵文化財センター年報』　20　平成13年度　2002(平成14)年

註３　秋田県教育委員会　『伊勢堂岱遺跡－県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第293集　1999(平成11)年

鷹巣町教育委員会　『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(１)』　鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第４集　1998(平成10)年

鷹巣町教育委員会　『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(２)』　鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第５集　1999(平成11)年

鷹巣町教育委員会　『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(３)』　鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第６集　2000(平成12)年

鷹巣町教育委員会　『伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書(４)』　鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第７集　2001(平成13)年

鷹巣町教育委員会　『伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書Ⅰ』　鷹巣町埋蔵文化財調査報告書第８集　2002(平成14)年

註４　註１文献

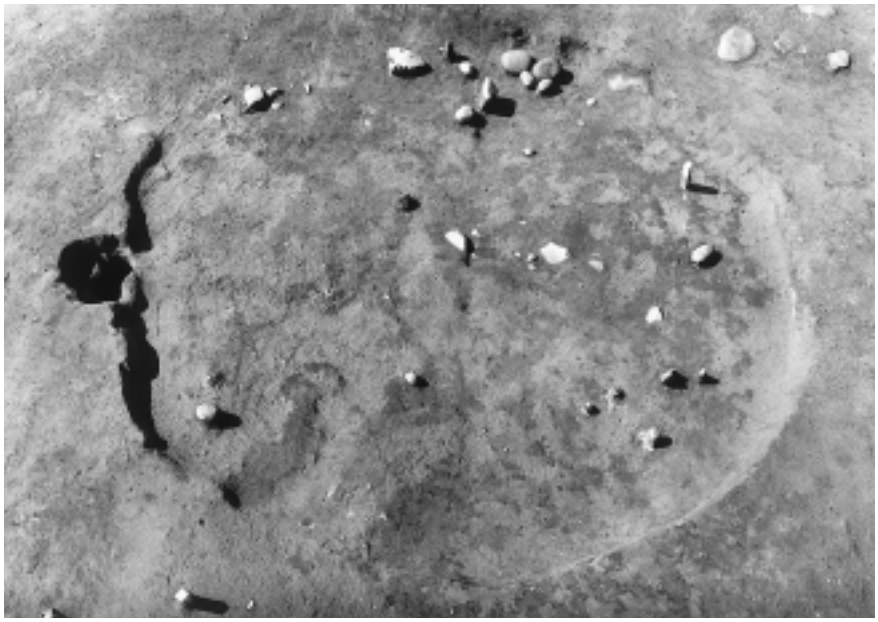
註５　例えば下記文献。

秋元信夫　「大湯環状列石」『日本考古学協会1997年度大会研究発表要旨』　1997(平成９)年　日本考古学協会

小林克　「縄文のムラ、墓と祈り」『ここまでわかった日本の先史時代』　1997(平成９)年　角川書店

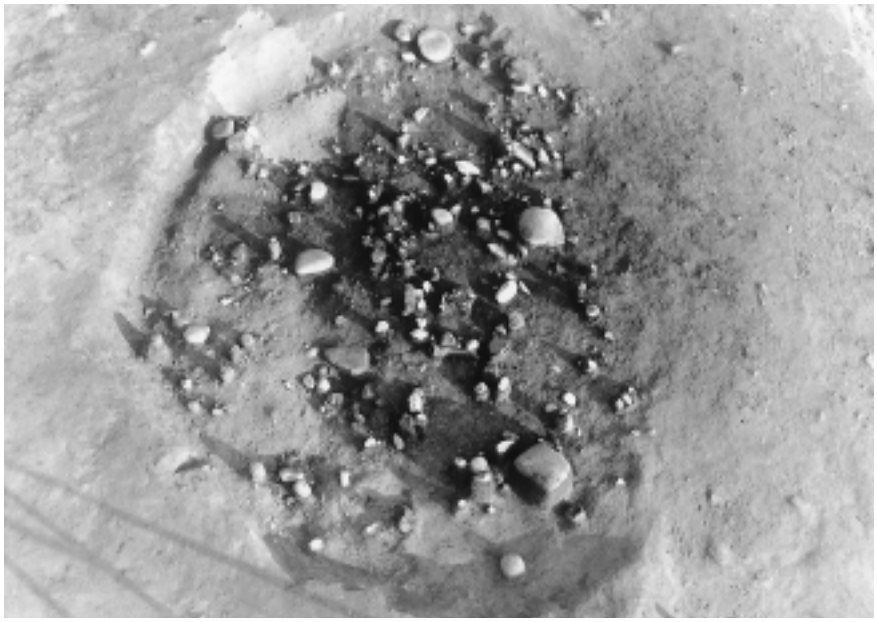
1　向様田遺跡群遠景
（東から）

2　SI01竪穴住居跡土層
（南東から）



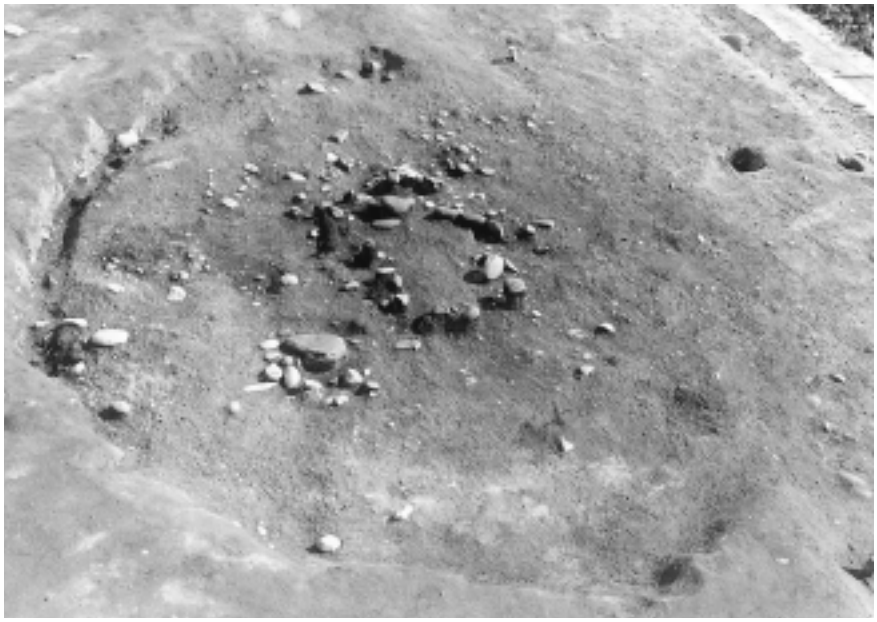
3　SI01竪穴住居跡
完掘状況（南東から）

図版2



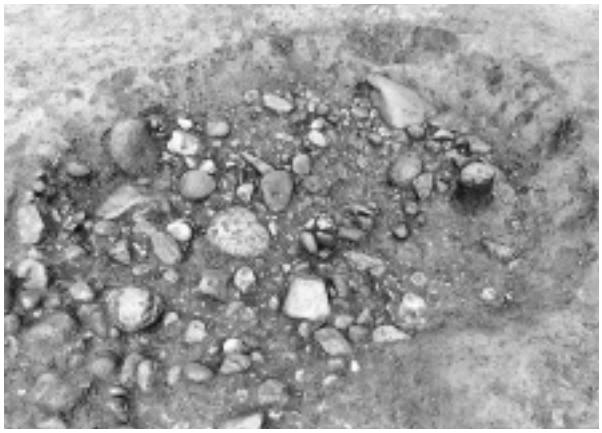
1　SI02竪穴住居跡
遺物出土状況（北から）

2　SI02竪穴住居跡
壺出土状況（南東から）



3　SI02竪穴住居跡
完掘状況（北から）

1　SK16土坑土層（南から）



2　SK16土坑完掘状況（西から）

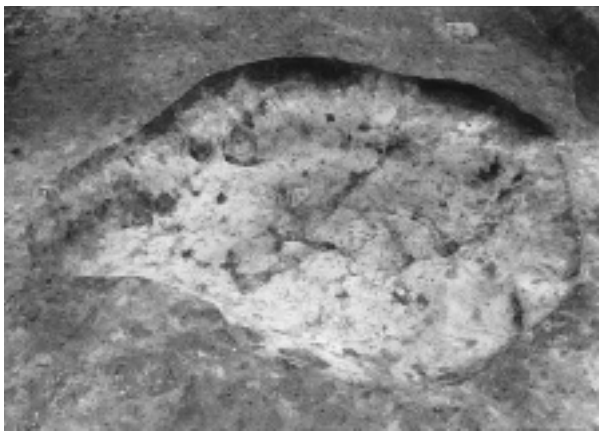
3　SK18土坑遺物出土状況（南東から）

4　SD30・SD40溝跡確認状況（東から）

5　SK72土坑土層（北から）

6　SK72土坑遺物出土状況（北から）

7　SK75土坑土層（北から）



8　SK75土坑完掘状況（北から）

20－31

21－1

21－2

21－3

21－5

22－19

23－13

32－1

32－2

1　出土遺物

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | むかいさまだえふいせき |
| 書名 | 向様田Ｆ遺跡 |
| 副書名 | 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | Ｘ |
| シリーズ名 | 秋田県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第348集 |
| 編著者名 | 三浦俊成・榮　一郎 |
| 編集機関 | 秋田県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　TEL 0187-69-3331 |
| 発行機関 | 秋田県教育委員会 |
| 所在地 | 〒010-8580　秋田県秋田市山王３丁目１番１号　TEL 018-860-5193 |
| 発行年月日 | 西暦 2003年３月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| むかいさまだえふいせき<br>向様田Ｆ遺跡 | あきたけん<br>秋田県<br>きたあきたぐん<br>北秋田郡<br>もりよしまち<br>森吉町<br>もりよし<br>森吉<br>あざむかいさまだ<br>字向様田57外 | 05323 | | 40度<br>２分<br>27秒 | 140度<br>28分<br>42秒 | 20010828<br>～<br>20011019 | 2,300㎡ | 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| むかいさまだえふいせき<br>向様田Ｆ遺跡 | 集落跡 | 縄文時代<br><br>時期不明 | 竪穴住居跡　２軒<br>土坑　２基<br>土坑　４基<br>柱穴　75基<br>溝跡　２条 | 縄文土器<br>石器 | 縄文時代晩期初頭前後の小規模な集落跡を検出した。 |


秋田県文化財調査報告書第348集
**向　様　田　Ｆ　遺　跡**
－森吉山ダム建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ｘ－

印刷・発行　平成15年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802
秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話(0187)69-3331　FAX(0187)69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580
秋田市山王３丁目１番１号
電話（018）860－5193
印　　刷　株式会社　県北新聞